

**Arcserve® Business Continuity Cloud**

# ユーザガイド

arcserve®

## 法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve UDPにより随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、Arcserve が知的財産権を有する機密情報であり、Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserve のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2020 Arcserve (その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

## Arcserve サポートへのお問い合わせ

Arcserve サポートチームは、技術的な問題を解決する際に役立つ豊富なリソースセットを提供し、重要な製品情報にも容易にアクセスできます。

### [テクニカルサポートへのお問い合わせ](#)

Arcserve サポートをご利用いただくと次のことができます。

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- ライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポートチームと瞬時にリアルタイムで会話を始めることができます。ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポートチケットを開くことができます。オンラインでサポートチケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve サポート製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

# コンテンツ

---

<b>1 章: ドキュメントの概要</b> .....	<b>9</b>
このマニュアルについて .....	10
関連する Arcserve 製品のドキュメント .....	11
ドキュメントの更新履歴 .....	12
<b>2 章: Arcserve® Business Continuity Cloud の理解</b> .....	<b>13</b>
概要 .....	14
ユーザの役割とアクセスレベル .....	15
二要素認証 (2FA) .....	17
二要素認証 (2FA) の有効化 .....	18
二要素認証 (2FA) の無効化 .....	27
二要素認証を使用してクラウドコンソールにログインする方法 .....	31
<b>3 章: Direct 顧客としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用</b> .....	<b>33</b>
Dashboard .....	34
モニタ .....	35
保護 .....	37
ソースの保護 .....	38
復旧されたリソースの保護 .....	50
デステイネーションの保護 .....	56
ポリシーの保護 .....	60
分析 .....	72
ジョブの分析 .....	73
ログの分析 .....	74
アラートレポートの分析 .....	75
レポートの分析 .....	78
設定 .....	86
インフラストラクチャの設定 .....	87
ソースグループの設定 .....	100
アクセス制御の設定 .....	103
資格の設定 .....	109
組織ブランディングの設定 .....	110
<b>4 章: MSP 管理者としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用</b> .....	<b>111</b>
Dashboard .....	112
モニタ .....	113

保護 .....	115
顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクションを実行する方法 .....	116
顧客アカウントを追加および変更する方法 .....	118
分析 .....	120
シヨブの分析 .....	121
ログの分析 .....	122
アラートレポートの分析 .....	123
レポートの分析 .....	126
設定 .....	135
アクセス制御の設定 .....	136
資格の設定 .....	142
組織ブランディングの設定 .....	143
<b>5 章: MSP アカウント管理者としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用</b> .....	<b>145</b>
Dashboard .....	146
モニタ .....	147
保護 .....	149
顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクションを実行する方法 .....	150
顧客アカウントを変更する方法 .....	151
分析 .....	152
シヨブの分析 .....	153
ログの分析 .....	154
<b>6 章: エンドユーザー管理者としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用</b> .....	<b>155</b>
ユーザプロフィール .....	156
モニタ .....	157
保護 .....	159
ソースの保護 .....	160
復旧されたリソースの保護 .....	173
デスティネーションの保護 .....	179
ポリシーの保護 .....	183
分析 .....	195
シヨブの分析 .....	196
ログの分析 .....	197
アラートレポートの分析 .....	198
レポートの分析 .....	201

設定 .....	210
インフラストラクチャの設定 .....	211
ソースグループの設定 .....	224
アクセス制御の設定 .....	227
<b>7章: Direct モニタとしての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用</b> .....	<b>233</b>
ダッシュボード .....	234
モニタ .....	235
分析 .....	237
ジョブの分析 .....	238
ログの分析 .....	239
アラートレポートの分析 .....	240
レポートの分析 .....	241
<b>8章: MSP モニタとしての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用</b> .....	<b>249</b>
ダッシュボード .....	250
モニタ .....	251
分析 .....	253
ジョブの分析 .....	254
ログの分析 .....	255
アラートレポートの分析 .....	256
レポートの分析 .....	257
保護 .....	265
顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクション を実行する方法 .....	266
<b>9章: Arcserve® Business Continuity Cloud の操作</b> .....	<b>267</b>
復旧ポイントを復旧または固定する方法 .....	268
Cloud Direct の復旧ポイントを復旧する方法 .....	270
復旧ポイントからファイル/フォルダをダウンロードする方法 .....	273
Cloud Hybrid の新しい復旧サーバへの逆レプリケーションを設定する方法 .....	274
新しいレポートを作成する方法 .....	276
レポートスケジュールを編集する方法 .....	278
レポートをエクスポートする方法 .....	279
新しいレポートを作成する方法 (MSP 管理者) .....	280
保存した検索を管理する方法 .....	282
一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法 .....	284
Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法 .....	287
Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法 .....	290

---

Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法 .....	292
Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法 .....	296
<b>10 章: FAQ .....</b>	<b>301</b>
アラートを管理する方法 .....	302
アラートのカテゴリとタイプの表示 .....	303
新しいアカウントを作成する方法 .....	306
パスワードを変更およびリセットする方法 .....	307
検索の保存方法 .....	308
保持設定を使用する方法 .....	309
スロットル スケジュールを追加する方法 .....	310
組織を一時停止する方法 .....	311
組織の一時停止 .....	312
組織を有効化する方法 .....	313
組織の有効化 .....	314
ポリシーを有効化または無効化する方法 .....	315
ポリシーの有効化 .....	316
ポリシーの無効化 .....	317



---

## 1 章: ドキュメントの概要

このセクションでは、このガイドと Arcserve® Business Continuity Cloud の全体の技術マニュアル情報を提供します。たとえば、紹介、主な機能、ビデオ、「[関連ドキュメント](#)」に示されるテクニカルドキュメントに関連しない他の情報へのリンクなどです。

- **よくある質問 (FAQ)** は、各ガイドでの一般的な質問および問題の解決に役立ちます。
- **ドキュメントの更新履歴** は、このガイドのトピックが更新されたタイミングを把握するのに役立ちます。

マニュアルについての詳しい質問がある場合は、[リンク](#)をクリックして電子メールでお送りください。

**重要:** ドキュメントでは、コンソールとは Arcserve® Business Continuity Cloud コンソールのことを指します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">このマニュアルについて</a> .....	10
<a href="#">関連する Arcserve 製品のドキュメント</a> .....	11
<a href="#">ドキュメントの更新履歴</a> .....	12

## このマニュアルについて

お客様向けの Arcserve ガイドは以下を支援します。

- Arcserve® Business Continuity Cloud の使用：ワークフローとその他の役割ベースの機能の説明を提供します。
- すべての役割の機能の理解：Arcserve® Business Continuity Cloud が組織について許可しているすべての役割について、個別のセクションを提供します。
- さまざまな追加機能の使用：たとえば、Arcserve® Business Continuity Cloud コンソールを使用する方法などです。

## 関連する Arcserve 製品のドキュメント

- Arcserve UDP Cloud Direct マニュアル選択 メニュー: [r6.2.2](#)
- Arcserve UDP マニュアル選択 メニュー: [7.0](#)
- Arcserve Cloud Hybrid ユーザ ガイド [v1.1](#)

## ドキュメントの更新履歴

ドキュメントの更新履歴では、Arcserve® Business Continuity Cloud コンソールのさまざまなステージで、このガイドの更新についての詳細を提供しています。

更新日	ドキュメントのバージョン	更新	説明
2018年 10月18日	1.0	新しいすべてのトピック	新しいガイドの作成
2019年5月31日	1.1	追加された1つのトピック、更新された複数のトピック	<b>新しいトピック:</b> Hyper-VのUDP Cloud Direct エージェントのセットアップ <b>変更済み:</b> UDP Cloud Directの仮想アプライアンスの設定

---

## 2 章: Arcserve® Business Continuity Cloud の理解

Arcserve は、組織が一元的にクラウドソリューションにアクセスおよび管理するのに役立つ、単一でホストされる Web ベースの管理 インターフェースを提供しています。Arcserve® Business Continuity Cloud では Arcserve UDP Cloud Direct が完全にサポートされ、Arcserve Cloud Hybrid は部分的にサポートされます。組織は Direct 顧客として、または MSP を介して Arcserve とやり取りします。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">概要</a> .....	14
<a href="#">ユーザの役割とアクセスレベル</a> .....	15
<a href="#">二要素認証(2FA)</a> .....	17

## 概要

Arcserve® Business Continuity Cloud では、企業が重要なデータへのアクセスをバックアップしてすぐにリストアできる堅牢な技術にアクセスできる、統合されたクラウドベースの管理インターフェースが提供されます。Arcserve クラウドでは、複数のツール、ベンダー、および管理コンソールが不要になります。

[ユーザの役割とアクセスレベル](#)

## ユーザの役割とアクセスレベル

Arcserve® Business Continuity Cloud は 2 種類の組織にアクセスできます。Direct 顧客組織は 2 つの役割を使用して管理しますが、MSP ベース組織は 3 種類のユーザを使用して管理します。システムのアクセスレベルは、ユーザごとに異なります。以下のユーザは、Arcserve® Business Continuity Cloud のコンソールでタスクを実行できます。

役割名	作成元	主要な機能	コメント
<b>Direct 顧客管理者</b> (Direct 顧客の Direct 管理者)	Direct 組織の第 1 管理者の Direct 顧客の登録 Direct 管理者はコンソールでさらに管理者を作成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>バックアップおよび復旧ジョブの組織の全体のステータスをモニタします。</li> <li>ソース、復旧されたリソース、デステイネーション、およびポリシーを保護します。</li> <li>ジョブ、ログ、およびレポートを分析します。また、レポートも作成します。</li> <li>インフラストラクチャ、ソースグループ、ユーザのアクセス制御、ライセンスとサブスクリプション、および組織ブランディングを設定します。</li> </ul>	役割は Direct 組織に適用されます。
<b>Direct モニタ</b>	Direct 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィルタの適用</li> <li>ジョブ、ログ、およびレポートの表示</li> </ul>	役割は Direct 組織に適用されます。
<b>MSP 管理者</b>	第 1 MSP 管理者の MSP 顧客登録 MSP 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョブ、ライセンス容量、保護済みソースステータス、およびデステイネーション使用状況のトレンドについて、すべての顧客アカウントの全体のステータスをモニタします。</li> <li>顧客アカウントを保護し、顧客アカウントを追加します。</li> <li>ジョブ、ログ、およびレポートを分析します。また、レポートも作成します。</li> <li>ユーザのアクセス制御、ライセンスとサブスクリプション、および組織ブランディングを設定します。</li> </ul>	MSP 管理者は、MSP およびすべての顧客のアカウントのすべてにアクセスできます。役割は MSP ベースの組織に適用されます。
<b>MSP</b>	MSP 管理者	MSP アカウント管理者は、MSP	MSP アカウント管理者は、

アカウント管理者	によって割り当て	管理者と同じ機能を使用して割り当てられた顧客アカウントを管理できます。	MSP 組織内のユーザです。 MSP 管理者によって顧客アカウントを管理します。 役割は MSP ベースの組織に適用されます。
顧客管理者 管理者 (顧客アカウントの)	MSP 管理者によって作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バックアップおよび復旧ジョブの組織の全体のステータスをモニタします。</li> <li>• ソース、復旧されたリソース、デステイネーション、およびポリシーを保護します。</li> <li>• ジョブ、ログ、およびレポートを分析します。また、レポートも作成します。</li> <li>• インフラストラクチャ、ソースグループ、ユーザのアクセス制御、および組織ブランディングを設定します。</li> </ul>	MSP 顧客アカウントのエンドユーザ管理者 役割は MSP ベースの組織に適用されます。
MSP モニタ	MSP 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フィルタの適用</li> <li>• ジョブ、ログ、およびレポートの表示</li> </ul>	役割は MSP ベースの組織に適用されます。

## 二要素認証(2FA)

Arcserve® Business Continuity Cloud では、すべてのユーザに追加のセキュリティレイヤが提供される二要素認証(2FA)がサポートされています。二要素認証は、追加の形式で識別情報を提供するように求められるログインプロセスです。この認証方法では、IDを確認するために2つの要素が必要になります。

二要素認証では、1つ目の要素の認証としてユーザ名とパスワードを使用できます。2つ目の要素の認証では、認証アプリによって生成されたコードが使用されます。

**注:** すべてのユーザに、[ユーザ プロファイル]ページから二要素認証(2FA)を有効または無効にする権限があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

## 二要素認証(2FA)の有効化

二要素認証は、以下の方法で有効にできます。

- [ユーザ プロファイル]ページから
- 組織レベルで2FAの要件を有効にする
- Google Authenticator 拡張機能から

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

## [ユーザープロフィール]ページから二要素認証(2FA)を有効にする方法

このセクションでは、[ユーザープロフィール]ページから二要素認証を有効にする方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. クラウド コンソールにログインします。
2. 右上にあるユーザープロフィールのアイコンをクリックして、[ユーザープロフィール]をクリックします。
3. [Two Factor Authentication (二要素認証)]セクションで、現在のパスワードを入力します。  
[Enable Two Factor Authentication (二要素認証の有効化)]オプションが有効になります。
4. [Enable Two Factor Authentication (二要素認証の有効化)]をクリックします。

[Enable Two Factor Authentication (二要素認証の有効化)]ダイアログボックスが表示されます。

2要素認証を有効にする

モバイル OS

選択

2要素認証に使用するモバイル OS を選択します。このデバイスをセットアップしたら、ログイン時にそのデバイスで生成されたコードを使用する必要があります。

ヘルプ キャンセル 保存

5. [Enable Two Factor Authentication (二要素認証の有効化)]ダイアログボックスの [Mobile OS (モバイル OS)] ドロップダウン リストから、二要素認証に使用するモバイル OS を選択します。

ログインしているユーザーの QR コード画像が表示されます。

6. QRコード画像をスキャンするには、モバイルデバイスで Google Authenticator アプリをダウンロードし、Authenticator アプリを開いてプラス(+)記号をクリックし、**[Scan a QR code]**をクリックします。

対応するクラウドコンソールアカウントが6桁のコードと共に Google Authenticator アプリに表示されます。

注:

- モバイルデバイスで Google Authenticator アプリをダウンロードしてください。または、Chrome ブラウザで認証システム拡張機能を使用することもできます。
  - このコードは 30 秒間のみ有効で、30 秒ごとに更新されます。
  - QR コードをスキャンできない場合は、以下を実行します。
    - a. Authenticator アプリでプラス(+)記号をクリックし、**[Enter a setup key]**をクリックします。
    - b. **[Enter account details]**ページで、以下を実行します。
      - ◆ **Account name:** アカウントにリンクされた電子メールアドレスを入力します。
      - ◆ **Your key:** シークレットキーを入力します(例: 2P3Z 5BKI UX2L OTZQ)。キーは **[Enable Two Factor Authentication (二要素認証の有効化)]**ダイアログボックスに表示されたものです。
      - ◆ **Type of key:** ドロップダウンリストから、**[Time based]**オプションを選択します。
    - c. **[追加]**をクリックします。
7. 生成されたコードを入力して、**[保存]**をクリックします。

注: **[キャンセル]**をクリックすると、認証に失敗します。

2 要素認証を有効にする

モバイル os

Android

Google 認証システム アプリをインストール

1. Google Play ストアに移動します。
2. 「Google 認証システム」を検索します。
3. アプリをダウンロードしてインストールします。

Google 認証システムを開いて設定します

1. メニュー アイコンをタップして [アカウントの設定] を選択します。
2. [バーコードをスキャン] を選択します
3. スマホのカメラで下の画像をスキャンします。



バーコードをスキャンできませんか?

1. Google 認証システムで [メニュー] をタッチし、[アカウントの設定] を選択します。
2. [提供されたキーを入力] を選択します
3. [アカウント名の入力] で、このアカウントのメール アドレスを入力します。
4. [キーの入力] にシークレット キーを入力します:  
4JVF QYQ2 LEC2 WNCI
5. キーの種類: [時間ベース] が選択されていることを確認してください。
6. [追加] をタップします。

生成されたコードを入力

コードが機能しない場合は、[Google のサポート ページ](#)を確認してください

ヘルプ キャンセル 保存

二要素認証(2FA)が正常に有効になります。

**注:** 2FA が有効になったら、ログアウトして再度ログインしてください。二要素認証を使用してクラウド コンソールにログインするには、「[二要素認証を使用してクラウド コンソールにログインする方法](#)」を参照してください。

## 組織レベルで二要素認証(2FA)の要件を有効にする方法

二要素認証を使用していないユーザーに対して2FAの使用を要求する場合は、組織レベルですべてのユーザーに対する二要素認証の要件を有効にすることができます。このセクションでは、組織レベルで2FAの要件を有効にする方法について説明します。

**注:** すべての管理者レベルユーザーには、すべてのユーザーに対して二要素認証(2FA)の要件を有効にする権限があります。

以下の手順に従います。

1. クラウド コンソールにログインします。
2. **設定**] > **アクセス制御**] > **ユーザー アカウント**]に移動します。
3. **Two factor authentication required for all users (すべてのユーザーに対して二要素認証を要求)**]チェックボックスをオンにします。

**注:** **Two factor authentication required for all users (すべてのユーザーに対して二要素認証を要求)**]チェックボックスをオンにした後、**[モニタ]**タブに移動するか、ログアウトして再度ログインすると、二要素認証を有効にするよう求められます。有効にするには、「**[ユーザープロフィール]**ページから**二要素認証を有効にする方法**」の[手順 5](#)の指示に従います。

二要素認証(2FA)の要件が正常に有効になります。

**注:**

- 組織レベルで二要素認証(2FA)の要件が有効になった後、テナントがそれぞれのアカウントにログインしようとする時、2FAの認証ダイアログボックスが表示されます。2FAを有効にするには、[設定を行います](#)。
- 組織レベルで2FAの要件が有効になっていて、テナントの2FAコードが失われた場合、Direct顧客、MSP管理者、MSPアカウント管理者にのみテナントの2FAコードをリセットする権限があります。

## 代理ビューによる2FAの要件の有効化

MSP 管理者とMSP アカウント管理者には、代理ビューでテナントに対する2FAの要件を有効にする権限があります。このセクションでは、代理ビューによる2FAの要件の有効化について説明します。

以下の手順に従います。

1. クラウド コンソールにログインします。
2. **保護**]に移動します。
3. ユーザの代理で操作を行うには、顧客名の横にある代理  アイコンをクリックします。  
代理の対象ユーザのUIが表示されます。
4. **設定**] > **[アクセス制御]** > **[ユーザ アカウント]**に移動します。
5. **[Two factor authentication required for all users (すべてのユーザに対して二要素認証を要求)]** チェックボックスをオンにします。

テナントに対する2FAの要件が正常に有効になります。

## Google Chrome で Authenticator 拡張機能を使用して二要素認証(2FA)を有効にする方法

二要素認証(2FA)を有効にする前に、Google Chrome で Authenticator 拡張機能を追加します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

## Google Chrome で Authenticator 拡張機能を追加する方法

このセクションでは、Google Chrome で Authenticator 拡張機能を追加する方法について説明します。

**注:** Authenticator 拡張機能を追加する前に、Google Chrome がすでにインストールされていることを確認してください。

以下の手順に従います。

1. Google Chrome を開きます。
2. 検索バーで Authenticator を検索します。
3. Authenticator の横にある **[Chrome に追加]** をクリックします。  
拡張機能の追加を確認するメッセージが表示されます。
4. **[拡張機能を追加]** をクリックします。
5. 拡張機能が正常に追加されます。Chrome で、ブラウザ ウィンドウの右上 (アドレスバーの横) に Authenticator 拡張機能のアイコンが表示されるようになります。
6. 拡張機能にサイトへのアクセス許可を付与するには、拡張機能のアイコンをクリックして、ピンのシンボルをクリックします。

Authenticator 拡張機能が Google Chrome に正常に追加されます。

## Google Chrome での Authenticator 拡張機能を使用した 2FA の有効化

このセクションでは、Google Chrome で Authenticator 拡張機能を使用して 2FA を有効にする方法について説明します。二要素認証にモバイルデバイスを使用しない場合は、Google Chrome で Authenticator 拡張機能を使用します。Authenticator によって、ブラウザで二要素認証(2FA)コードが生成されます。

以下の手順に従います。

1. Google Chrome を開き、アドレスバーの右上にある Authenticator アプリのアイコンをクリックします。  
[Authenticator] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [Authenticator] ダイアログ ボックスで、右上にある [Scan QR Code] のシンボルをクリックします。
3. QR コードをスキャンするには、QR コードの + をドラッグします。  
対応するクラウド コンソール アカウントが 6 桁のコードと共に [Authenticator] ダイアログ ボックスで作成されます。
4. 6 桁のコードをクリックしてコピーします。

注:

- このコードは 30 秒間のみ有効で、30 秒ごとに更新されます。
- QR コードをスキャンできない場合、またはコードをスキャンしない場合は、以下を実行します。
  - a. アドレスバーの右上にある Authenticator アプリのアイコンをクリックします。
  - b. [Edit]  をクリックします。
  - c. + 記号をクリックし、[Manual Entry] を選択して、以下を実行します。
    - ◆ **Issuer:** 任意のアカウント名を入力します。
    - ◆ **Secret:** 手順 4 で生成された 6 桁のコードを入力します。
  - d. [Advanced] ドロップダウンをクリックし、[Type] ドロップダウン リストから [Time Based] オプションを選択します。
  - e. [OK] をクリックします。

二要素認証(2FA)が正常に有効になります。

## 二要素認証(2FA)の無効化

二要素認証(2FA)は、以下の方法で無効にできます。

- [ユーザ プロファイル]ページから
- 組織レベルで2FAの要件を無効にする

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

## [ユーザ プロファイル]ページから二要素認証を無効にする方法

このセクションでは、[ユーザ プロファイル]ページから二要素認証を無効にする方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. クラウド コンソールにログインします。
2. 右上にあるユーザ プロファイルのアイコンをクリックして、[ユーザ プロファイル]をクリックします。
3. [Two Factor Authentication (二要素認証)]セクションで、現在のパスワードを入力します。
4. [Disable Two Factor Authentication (二要素認証の無効化)]をクリックします。

二要素認証(2FA)が正常に無効になります。

## 組織レベルで 2FA の要件を無効にする方法

組織レベルですべてのユーザーに対する二要素認証の要件を無効にできます。このセクションでは、組織レベルで二要素認証の要件を無効にする方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. クラウド コンソールにログインします。
2. **設定**] > **アクセス制御**] > **ユーザ アカウント**]に移動します。
3. **Two factor authentication required for all users (すべてのユーザーに対して二要素認証を要求)**]チェックボックスをオフにします。

[ユーザ プロファイル]ページで二要素認証(2FA)を無効にする追加設定を行うように求めるメッセージが表示されます。

注:

- 組織レベルで 2FA を無効にした後、すべてのユーザーが明示的に [ユーザ プロファイル]ページに移動して 2FA を無効にする必要があります。
- 特定のユーザーに対する二要素認証を無効にするには、以下を実行します。
  - a. そのユーザーの横にある **アクション**]ドロップダウン リストをクリックして、**Reset Two Factor (二要素のリセット)**]を選択します。  
二要素認証を無効にすることを確認するメッセージが表示されます。
  - b. **Reset User Two Factor (ユーザーの二要素のリセット)**]をクリックして確定します。

そのユーザーに対する二要素認証が正常に無効になります。

二要素認証(2FA)の要件が正常に無効になります。

## 代理ビューによる2FAの要件の無効化

MSP 管理者とMSP アカウント管理者には、代理ビューでテナントに対する2FAの要件を無効にする権限があります。このセクションでは、代理ビューによる2FAの要件の無効化について説明します。

以下の手順に従います。

1. クラウド コンソールにログインします。
2. **保護**]に移動します。
3. ユーザの代理で操作を行うには、顧客名の横にある代理  アイコンをクリックします。  
代理の対象ユーザのUIが表示されます。
4. **設定**] > **アクセス制御**] > **ユーザ アカウント**]に移動します。
5. **Two factor authentication required for all users (すべてのユーザに対して二要素認証を要求)**] チェックボックスをオフにします。

テナントに対する2FAの要件が正常に無効になります。

**注:** テナントに対する2FAの要件を無効にした後、各テナントユーザは [\[ユーザ プロファイル\]](#) ページから2FAを無効にする必要があります。

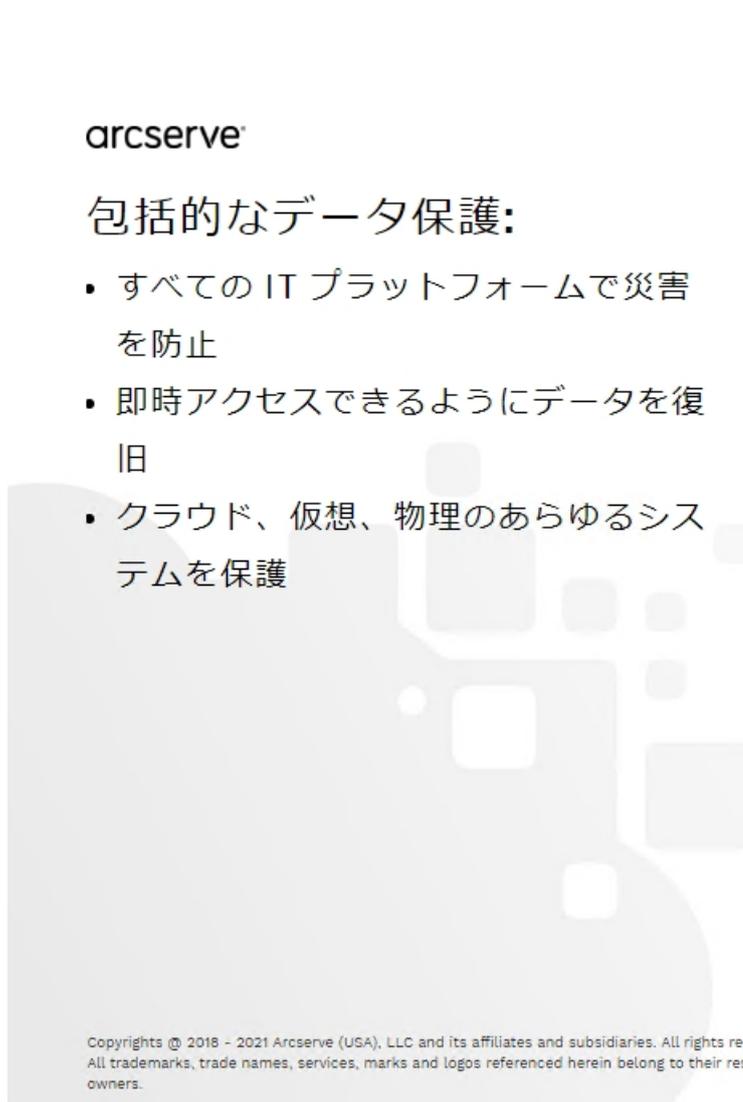
## 二要素認証を使用してクラウドコンソールにログインする方法

二要素認証を使用してクラウドコンソールにログインする場合は、ユーザ名およびパスワードと共に二要素コードを入力するように求められます。

このセクションでは、二要素認証を使用してクラウドコンソールにログインする方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve® Business Continuity Cloud のログインページに移動します。



2. 必要に応じてユーザ名とパスワードを入力します。

3. [Two Factor Code (二要素コード)]フィールドに、二要素コードを入力します。
4. (オプション)二要素認証を30日間無効にするには、[Disable for 30 days (30日間無効化)]チェックボックスをオンにします。

注: [Disable for 30 days (30日間無効化)]チェックボックスをオンにしてから初めてコンソールにログインしようとする、二要素コードを入力するよう求められます。2回目以降は、[ユーザプロフィール]ページで2FAを無効にしない限り、30日間は二要素コードの入力を求められません。

5. [ログイン]ボタンをクリックします。

これで、クラウドコンソールに正常にログインできます。

注:

- 二要素認証を有効にした後に、今後使用するために二要素コードを生成するには、以下を行います。
  - a. 右上にあるユーザプロフィールのアイコンに移動して、[ユーザプロフィール]をクリックします。
  - b. [Two Factor Authentication (二要素認証)]セクションで、[Generate Two Factor Codes (二要素コードの生成)]をクリックします。  
8つのコードが示された[One-Time Codes (ワンタイムコード)]ダイアログボックスが表示されます。
  - c. コードをコピーして安全な場所に保存します。

**重要:** ダイアログボックスを閉じた後は、同じコードを取得できません。コードを再度生成する必要があります。

注:

- ◆ 各コードは1回のみ使用できます。
- ◆ 以前に生成されたコードは無効です。
- ◆ コードは複数回生成できます。
- 管理者がすでに二要素認証を有効にしていて、生成されたコードと共にモバイルデバイスを紛失した場合は、Arcserveのサポートにお問い合わせください。
- ユーザがすでに二要素認証を有効にしていて、生成されたコードと共にモバイルデバイスを紛失した場合は、MSP管理者またはMSPアカウント管理者にお問い合わせください。

---

## 3 章: Direct 顧客としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用すると、Direct 顧客は、ユーザの追加、ブランディングのカスタマイズ、ソースグループの作成、インフラストラクチャの設定によって、独自の組織のジョブのモニタ、ソースとデスティネーションの保護、ジョブとレポートの分析、コンソールの設定が可能です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">Dashboard</a> .....	34
<a href="#">モニタ</a> .....	35
<a href="#">保護</a> .....	37
<a href="#">分析</a> .....	72
<a href="#">設定</a> .....	86

## Dashboard

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタ機能の複数の一般的なオプションと詳細を確認できるコンソールダッシュボードが表示されます。ダッシュボードから、パスワードの変更、ユーザ詳細の更新、サポートへの連絡に関する詳細の確認、重要なメッセージの表示、ログアウトが可能です。

ダッシュボードには、以下のオプションがあります。

- **Arcserve アイコン:** 左上にある Arcserve アイコンをクリックすると、コンソールのどこからでもダッシュボードに戻ることができます。
- **ヘルプ アイコン:** 右上のヘルプアイコンを使用すると、Arcserve に連絡するための複数のオプションを選択したり、コンソールのオンラインヘルプを表示したりできる **[サポート]** ページが表示されます。
- **アラートアイコン:** 右上のエクスクラメーションマークでは、考慮事項に関するコンソールからのメッセージが表示されます。メッセージは、**[クリティカル]**、**[警告]**、または **[情報]** として分類されます。メッセージを確認し、必要に応じてアクションを実行できます。詳細については、「[アラートを管理する方法](#)」を参照してください。
- **ユーザ ログインアイコン:** 右上のアイコンには、ログインしたユーザのプロファイル画像が表示されます。アイコンでは、クラウドコンソールからログアウトするオプション、およびログインしたユーザのユーザプロファイルを更新するオプションが提供されます。

[ユーザプロファイル]を使用すると、以下の2つの更新を実行できます。

- **連絡先情報の更新:** **[My Profile (マイプロファイル)]** 画面から、連絡先詳細を更新し、写真をアップロードできます。更新後、**[変更の保存]** をクリックします。
- **パスワードの変更:** 新しいパスワードを指定し、**[パスワードの更新]** をクリックします。
- **二要素認証:** 現在のパスワードを入力し、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ 二要素認証を有効にするには、**[[Enable Two Factor Authentication \(二要素認証の有効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素認証を無効にするには、**[[Disable Two Factor Authentication \(二要素認証の無効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素コードを生成するには、**[[Generate Two Factor Codes \(二要素コードの生成\)](#)]** をクリックします。

## モニタ

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタが複数のウィザードを使用して製品の詳細を表示するコンソールダッシュボードが表示されます。モニタから、以下のオプションを実行できます。

- **サマリの表示:** モニタによって、組織の [ソースのサマリ]、[使用状況のサマリ]、[ポリシーのサマリ]が表示されます。
  - ◆ **ソースのサマリ:** 前回のバックアップジョブの結果に基づいて、合計ソース数と、[保護済み]、[オフライン]、[Unprotected (未保護)]ステータスのソースの数が表示されます。
  - ◆ **使用状況のサマリ:** Cloud Direct または Cloud Hybrid のライセンス容量の使用状況のサマリが表示されます。
  - ◆ **ポリシーのサマリ:** 合計ポリシー数と、[成功]、[展開]、[失敗]または [無効]のステータスのポリシーの数が表示されます。

**注:** ハイパーリンクされたステータスのテキストをクリックすると、それぞれの詳細画面に直接移動できます。たとえば、[ソースのサマリ]から、[保護済み]をクリックすると、保護されているソースのリストが表示される [ソース]画面に移動できます。

- **グラフとして詳細を表示:** 主要な詳細をより詳細にモニタリングするため、モニタによって複数のフィールドのグラフィカルなビューが表示されます。例:
  - ◆ **バックアップジョブのサマリ:** [完了]、[キャンセル]、[失敗]ステータスの過去 24 時間のバックアップジョブの数が表示されます。グラフにマウスポインタを置くと、各ステータスの割合が表示されます。
  - ◆ **進行中の最新 10 件のジョブ:** 進行中の最新の 10 件のジョブが表示されます。すべての進捗中ジョブに対してログの表示またはジョブのキャンセルアクションがサポートされています。[View all jobs (すべてのジョブを表示)]リンクをクリックすると、[ジョブ]画面が表示されます。
  - ◆ **トップ 10 のソース:** 特定の条件ごとに上位 10 件のジョブが表示されます。選択された [バックアップジョブステータス]、[イベント]、[Job Durations (ジョブ期間)]、および [転送データ]がサポートされます。
  - ◆ **トップ 10 ポリシー:** 上位 10 件のポリシーが表示されます。これは [完了]、[失敗]、[キャンセル]、または [アクティブ]のジョブステータスでグループ化されます。
  - ◆ **Cloud Direct ボリュームの使用トレンド:** フルバックアップデータごとの Cloud Direct ボリュームの使用トレンドが表示されます。これはボリューム名でグループ化されます。

- ◆ **Cloud Hybrid ストアの使用トレンド:** Cloud Hybrid ストアの使用トレンドが表示されます。これは Cloud Hybrid ストア名でグループ化されます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリ:** Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリが表示されます。これは、[処理データ]、[転送データ]、または [書き込みデータ]に従ってグループ化されます。
- ◆ **Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンド:** Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンドが表示されます。これはソースデータまたはデデュープ節約サイズでグループ化されます。
- **Cloud Hybrid 詳細の表示:** Cloud Hybrid ストアの使用状況のトレンドとデデュープ節約トレンドが表示されます。詳細を表示するには、グラフにマウスポインタを置きます。
- **ウィジェットの展開または折りたたみ:** 表示されたウィジェットの上にあるアイコンを使用して、展開または折りたたみます。

---

## 保護

コンソールを使用すると、ソース、復旧されたリソース、デスティネーション、およびポリシーを保護できます。

### 次のトピック

- [ソースの保護](#)
- [復旧されたリソースの保護](#)
- [デスティネーションの保護](#)
- [ポリシーの保護](#)

## ソースの保護

[ソース]オプションを使用すると、ソースを追加したり、既存のソースを保護したりできます。ノードとは、保護の対象となる物理ソースマシン、またはハイパーバイザ上の仮想ソースマシンのことです。データをデスティネーションにバックアップすることにより、ノードを保護できます。[ソース]画面から、複数のオプションを実行できます。例：

- **最小化されたソース画面の最大化：** 上部のアイコン  をクリックすると、[ソース]画面が最大化され、デフォルトの最小化サイズになります。
- **既存ソースの表示：** [ソース]画面には、設定で定義した詳細を持つ利用可能なすべてのソースが表示されます。
- **設定の定義：** アイコン  をクリックして、ソースの詳細に表示するオプションを定義します。表示されたリストから、ソースに表示するオプションを選択します。
- **ソースの検索：** 追加したソースを検索するための複数のオプションが提供されます。
- **検索の保存：** 検索結果に名前を付けて、今後の参照用に一意の名前で保存できます。
- **保存した検索の管理：** 保存済みのすべての検索を表示し、グループに集合的なアクションを実行できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。
- **アクション：** [ソース]画面から、ソースに対してグローバルまたは個別のアクションを実行できます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- **Cloud Direct エージェントのダウンロード：** ソースを追加する必要があるエージェントをダウンロードできます。
- **ソースの追加：** 新しいソースを追加できます。ソースを追加する前に、エージェントをダウンロードする必要があります。

## 既存のソースの表示

[ソース]画面から、以前追加したソースの完全なリストを表示できます。すべてのソースで、複数の詳細が表示されます。最後にある種類、ソース名、およびアクション ドロップダウン リストはデフォルト オプションです。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法](#)

要件に従って、詳細フィールドに表示する他のオプションを選択できます。カスタマイズするには、**設定** アイコン  をクリックします。

ソースに表示される詳細のいくつかは以下のとおりです。

- **種類:** ソースの種類を示します。ソースはマシンまたはハイパーバイザ上のノードです。
- **名前:** ソースの名前を示します。名前をクリックすると、ソースの詳細を表示できます。ソースの画面から、ソースに対して複数のアクションを実行できます。詳細については、「[ソースの変更](#)」を参照してください。
- **OS:** ソースのオペレーティング システムを示します。オペレーティング システムは、Windows、Linux、または Mac です。
- **ステータス:** ソースの現在のステータスを示します。ソースは保護されているか、保護されていません。
- **接続:** インターネットへの接続に基づいて、ソースのオンラインまたはオフラインステータスを示します。
- **最新の復旧ポイント:** 最後の復旧の日時が表示されます。
- **最新のジョブ:** 最近実行されたジョブの名前またはジョブの数を表示します。
- **ポリシー:** ソースに割り当てられたポリシーの名前を表示します。
- **ソースグループ:** グループの名前またはソースに割り当てられたグループの数を表示します。
- **VM 名:** ソースの VM の名前を表示します。
- **エージェント:** ソースにリンクされたエージェントの名前を表示します。

- **組織:** ソースに割り当てられた組織の名前を示します。
- **ハイパーバイザ:** ソースのハイパーバイザの名前を示します。
- **アクションのドロップダウン オプション:** ソースの詳細の最後にあるドロップダウン オプションを使用すると、1 つのソースに対して複数のアクションを実行できます。このオプションは 1 つのソースにのみ適用されます。 [Cloud Direct](#) および [Cloud Hybrid](#) の個別のアクションの詳細と前提条件が表示されます。

## ソースの検索

複数のフィルタを使用してソースを検索できます。検索するには、直接名前を入力して検索をクリックするか、[検索]ボックスにあるドロップダウン矢印をクリックして1つ以上のフィルタを選択し、**検索**をクリックできます。

ソースに利用可能な検索フィルタは以下のとおりです。

- **保護ステータス:** ソースの現在のステータスを示します。ソースは保護されているか、保護されていません。
- **接続ステータス:** インターネットへの接続に基づいて、ソースのオンラインまたはオフラインステータスを示します。
- **ジョブステータス:** ソースのジョブステータスを示します。ステータスは以下のいずれかです: 進行中、完了、キャンセル、失敗、警告、スキップ、停止。
- **OS:** ソースのオペレーティングシステムの **[タイプ]**を示します。オペレーティングシステムは、Windows、Linux、または Mac です。
- **ソースグループ:** 選択できるグループの名前を示します。
- **保護ポリシー:** 選択できるポリシーの名前を示します。

結果と共に検索を保存することもできます。詳細については、「[検索の保存](#)」を参照してください。

## 検索の保存

検索を実行しました。結果が表示された後、今後の参照用に結果と検索を保持したいとします。どのようにすればよいでしょうか。

Arcserve® Business Continuity Cloud では、何度の検索する労力が削減されます。コンソールから、一意の名前で検索結果を保存できます。検索を実行すると、画面に検索結果が表示され、**[次の検索結果:]**オプションの**[検索]**ボックスの下に検索語が表示されます。検索語を**[すべてクリア]**するか、**[検索の保存]**を選択できます。

保存するには、**[検索の保存]**をクリックします。**[検索の保存]**のダイアログボックスが表示されます。**[検索名の保存]**ボックスに一意の名前を入力し、**[検索の保存]**をクリックします。アクションが成功したことを確認するメッセージが表示されます。常に**[検索の保存]**の前に保存した検索名が表示されます。名前をクリックすると、後で検索を繰り返す必要なく、結果を表示できます。

[\[Manage Saved Search \(保存した検索の管理\)\]](#)を使用して、保存した検索を後から削除または更新できます。

## ソースに対するグローバルアクションの実行

[ソース]画面から、1つ以上のソースに対して複数のアクションを同時に実行できます。1つ以上のソースのチェックボックスを選択し、画面上部の [アクション] のドロップダウン オプションをクリックするだけです。選択したオプションには選択したソースの数が表示されます。

ドロップダウン リストから、選択したソースに対して複数のグローバルアクションを実行できます。一部のグローバルアクションを以下に示します。

- **バックアップの開始:** クリックすると、選択したすべてのソースのバックアップが開始されます。
- **バックアップのキャンセル:** クリックすると、選択したすべてのソースのバックアップがキャンセルされます。
- **ポリシーの割り当て:** クリックすると、選択したすべてのソースに同じポリシーが割り当てられます。[ポリシーの割り当て] のダイアログ ボックスから、割り当てるポリシーを選択し、**確認** をクリックします。
- **ポリシーの削除:** クリックすると、選択したすべてのソースからポリシーが同時に削除されます。
- **削除:** クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

これらの集合的なアクションとは別に、特定のソースに対する個別のアクションを実行することもできます。詳細については、「[ソースに対する個別のアクションの実行](#)」を参照してください。

## ソースに対する個別のアクションの実行

[ソース]画面から、特定のソースに対する個別のアクションを実行できます。ソースの最後にあるドロップダウン矢印を選択し、表示されたアクションのリストから目的のオプションを選択するだけです。

ドロップダウンリストから、ソースに対して複数の個別のアクションを実行できます。一部の個別のアクションを以下に示します。

- **バックアップの開始:** クリックすると、ソースのバックアップが開始されます。
- **バックアップのキャンセル:** クリックすると、ソースのスケジュールされたバックアップがキャンセルされます。
- **復旧の開始:** クリックすると、ソースの復旧が開始されます。
- **ポリシーの割り当て:** クリックすると、ソースにポリシーが割り当てられます。  
[ポリシーの割り当て]のダイアログボックスから、割り当てるポリシーを選択し、**[確認]**をクリックします。
- **ポリシーの削除:** クリックすると、ソースからポリシーが削除されます。
- **削除:** クリックすると、コンソールからソースが削除されます。
- **レプリケーション(イン)のキャンセル:** クリックすると、ソースのスケジュール済みのレプリケーションがキャンセルされます。
- **ポリシーの展開:** ソースを選択し、コンテキストアクションメニューから**[展開]**をクリックして、選択したソースのポリシー設定を展開します。

**注:** 一時停止された組織に対しては、以下のアクションは表示されません。

- ◆ バックアップの開始
- ◆ ポリシーの割り当て
- ◆ ポリシーの削除
- ◆ ポリシーの展開
- ◆ レプリケーション(イン)のキャンセル

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

---

これらの個別のアクションとは別に、複数のソースに対して同時にグローバルアクションを実行することもできます。詳細については、「[ソースに対するグローバルアクションの実行](#)」を参照してください。

## Cloud Direct エージェントのダウンロード

**重要:** トライアル組織の場合、[モニタ]ページまたは[資格]ページから証跡がアクティブ化されると、[Cloud Direct エージェントのダウンロード]ボタンが使用できるようになります。

Windows、Linux、および Mac オペレーティング システムからソースを追加するオプションを使用します。選択された操作タイプについて、64 ビットまたは 32 ビットのシステムタイプを選択することもできます。ダウンロード後、エージェントの展開を完了させ、Arcserve® Business Continuity Cloud について設定する必要があります。詳細については、この[リンク](#)をクリックしてください。

**注:** [Download Cloud Direct Agent ( Cloud Direct エージェントのダウンロード) ]画面で仮想アプライアンスに使用される .OVA ファイルをダウンロードすることもできます。

## ソースの追加

ソースを追加する前に、エージェントをダウンロードする必要があります。

以下の手順に従います。

1. [ソース]画面で、[ソースの追加]をクリックします。  
ダウンロードしたエージェントが表示されている [ソースの追加]画面が表示されます。
2. ハイパーバイザを選択します。  
選択したハイパーバイザで利用可能な VM のリストが表示されます。
3. 表示された VM のリストから、目的の VM を選択します。
4. **[Add Selected VMs ( 選択した VM の追加 ) ]**をクリックします。  
選択に基づいて、ソースがマシンまたはエージェントVM として追加されます。

**警告:** 各 VM が順番にバックアップされるため、単一のホストから15 を超える VM をバックアップしようとしたときに、バックアップの遅延が発生することもあります。バックアップのパフォーマンスは、主にデータの変更率、ディスクパフォーマンス、およびネットワーク帯域幅によって異なります。このような問題が発生した場合は、複数ホストを使用してください。この警告は、VMware ハイパーバイザで実行されているエージェントレスマシンにのみ関係していません。

また、既存のソースの設定を変更することもできます。詳細については、「[ソースの変更](#)」を参照してください。

## ソースの変更

ソースの画面から、既存のソースの詳細を変更できます。画面にアクセスするには、ソースの名前をクリックするだけです。ソースの詳細は 4 つのタブに分類されます。

- **情報:** このタブでは一般的な情報が提供され、ソースに対して個別のアクションを実行できます。また、このタブでは、エージェントのハイパーリンク化された名前をクリックすると、エージェントをダウンロードすることもできます。[アクション] ドロップダウン オプションを使用して、ソースに対してすべての個別のアクションを実行することもできます。詳細については、「[ソースに対する個別のアクションの実行](#)」を参照してください。
- **ジョブ:** ソースに関連付けられているジョブのリストが提供されます。ジョブは次のステータスに従って分類されます: 進行中のジョブ、失敗済みのジョブ、キャンセル済みのジョブ、および成功したジョブ。ジョブの名前をクリックすると、それぞれのジョブに関する情報が表示されるジョブページに移動します。ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。
- **ログ:** [ログ] タブでは、ソースのログの完全なリストが提供されます。[ログ] タブから、検索を保存せずに特定のログを検索できます。ログを .csv ファイルとしてエクスポートすることもできます。ソースのログでは、以下の情報が提供されます。
  - ◆ **日付:** ログが生成された日付を示します。
  - ◆ **重大度:** 重大度に関連する情報を示します。
  - ◆ **生成元:** ログが生成された場所を示します。
  - ◆ **ジョブの種類:** 実行されたジョブの種類を示します。
  - ◆ **メッセージ ID:** ログのメッセージについて生成された一意の ID を示します。
  - ◆ **メッセージ:** 特定のログについて提供される詳細を示します。
  - ◆ **ジョブ名:** ジョブの名前を示します。ジョブの名前をクリックすると、ジョブ詳細を表示できます。
- **復旧ポイント:** [復旧ポイント] タブには、ソースにリンクされたすべての復旧ポイントが表示されます。検索を保存せずに復旧ポイントを検索できます。[復旧ポイント] リストには以下の情報が表示されます。

- 
- ◆ **作成日:** 復旧ポイントが作成された正確な日時を示します。
  - ◆ **コンテンツ:** 復旧ポイントの場所を示します。
  - ◆ **ポリシー:** ソースに関連付けられたポリシーの名前を示します。
  - ◆ **デステイネーション:** 復旧ポイントのデステイネーションを示します。
  - ◆ **ドロップダウン:** ドロップダウン矢印によって、復旧ポイントに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、復旧ポイントの **固定**]または **復旧**]を選択できます。

## 復旧されたリソースの保護

復旧されたリソース機能を使用すると、復旧したリソースのリストを表示できます。復旧されたリソースは、種類に従って分類されます。たとえば、復旧された VM などです。Arcserve® Business Continuity Cloud Disaster Recovery の主な利点は、災害の影響がオンプレミス環境に及んだときに、顧客がクラウド内の保護されているシステムの仮想インスタンスを実行できるようにすることです。クラウド内のサーバの仮想インスタンスの電源をオンにして、復旧サイトとしてクラウドを活用するプロセスは、多くの場合 フェールオーバーと呼ばれます。

### ソースの復旧されたリソースの作成に関する考慮事項

- ソースがマシンの場合、ソースに Cloud Direct 惨事復旧をサービスポリシーとして割り当てます。
- ソースがエージェントレス VM の場合、ハイパーバイザ ポリシー デステイネーションが惨事復旧 デステイネーションであることを確認してください。その結果、ハイパーバイザ ポリシー内のすべてのソースが復旧されたリソースとして追加されます。

### フェールオーバーについて

フェールオーバープロセスには、顧客がオンプレミス環境と同様にクラウドを活用して、重要な業務の実行を継続できるようにするために必要なすべての手順が含まれています。フェールオーバープロセスの重要な側面には、クラウド内の保護されているシステムの仮想インスタンスの電源をオンにし、復旧された環境への安全な接続を有効化することが含まれています。

### 次のトピック

- [Arcserve Business Continuity Cloud のアクティブ化](#)
- [Arcserve Business Continuity Cloud への接続](#)

---

## Arcserve® Business Continuity Cloud でのシステムのアクティブ化

Arcserve® Business Continuity Cloud でシステムをアクティブ化するには、以下の方法のいずれかを実行します。

- [保護]- [ソース]から、ソースを選択し、[アクション]メニューから [プロビジョン]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。
- [保護]- [Recovered VMs (復旧した VM)]から、復旧した VM を選択し、[アクション]メニューから [プロビジョン]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。
- [保護]- [ソース]から、ソースをクリックし、[詳細の表示]のオプションを選択します。[ソース]ページから [復旧ポイント]オプションをクリックし、復旧ポイントを選択して、アクション ドロップダウン オプションから [プロビジョニング]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。
- [保護]- [デステイネーション]から、デステイネーションをクリックし、[詳細の表示]のオプションを選択します。[デステイネーション]画面から [復旧ポイント]オプションをクリックし、復旧ポイントを選択して、アクション ドロップダウン オプションから [プロビジョニング]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。

クラウドのシステムが正常にアクティブ化されました。これで、Arcserve® Business Continuity Cloud に[接続](#)できます。

## クラウドへの接続

復旧されたサーバの仮想インスタンスを活用するため、Arcserve® Business Continuity Cloud に安全に接続するために複数のオプションを使用できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

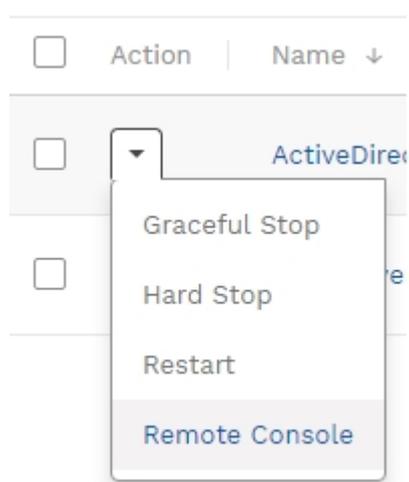
- [リモートコンソールに接続する方法](#)
- [サイトVPN に対するポイントに接続する方法](#)

## リモート コンソールに接続する方法

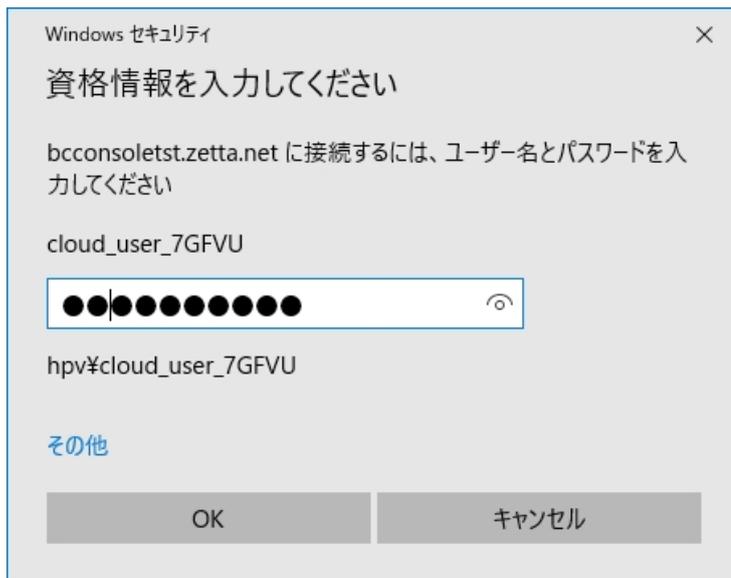
Arcserve® Business Continuity Cloud で実行されている単一の仮想インスタンスでリモート コンソールを確立できます。リモート コンソール接続を使用すると、ユーザがリモート デスクトップ プロトコルを使用して、クラウドで実行されている仮想インスタンスにアクセスできます。

**[復旧されたリソース]**ページからアクティブ化された仮想インスタンスとのリモート コンソール接続を確立するには、以下の手順を実行します。

1. アクティブ化されたシステムの **[アクション]**- **[リモート コンソール]**をクリックし、リモート デスクトップ プロトコル( .rdp) ファイルをダウンロードします。



2. リモート デスクトップ プロトコル( .rdp) ファイルを起動します。
3. RemoteApp プログラム ダイアログ ボックスの **[接続]**をクリックします。
4. Windows セキュリティダイアログ ボックスに、**[Login Credentials ( ログイン認証情報) ]**ポップアップ ウィンドウのパスワードを入力します。



5. **[OK]**をクリックし、リモート コンソール接続を開始します。Web ブラウザ ウィンドウで仮想インスタンスのログイン画面が表示されるはずです。
6. 証明書エラーが発生していても接続したいかどうかを尋ねられた場合は、**[はい]**をクリックします。
7. ブラウザ ウィンドウの上部の **Send Ctrl+Alt+Del** をクリックします。
8. リストア ポイントの時点のオンプレミス システムの **Windows** 認証情報と同じ、仮想インスタンスの **Windows** 認証情報を入力します。

正常にリモート コンソールに接続されました。

## サイト VPN に対するポイントに接続する方法

ポイント対サイト接続により、単一のクライアントマシンとArcserve® Business Continuity Cloud の仮想プライベートデータセンターの間で安全な VPN ( virtual private network、仮想プライベートネットワーク) 接続が有効になります。このような接続を使用すると、喫茶店にいるエンドユーザがクラウド内の復旧された環境に対して安全なプライベート接続を確立できます。

**注:** エンドユーザがオンプレミス環境で利用可能なシステムに対するアクセスも必要としている場合、個別の接続が必要です。オンプレミスシステムは、「ポイント対サイト」接続を使用してクラウド内の復旧されたシステムと通信することはできません。

ポイント対サイト接続の確立に役立つ手順にアクセスするには、[設定]-[ネットワーク設定]に移動し、**説明の表示**をクリックします。



設定 / インフラストラクチャ / ネットワーク設定

### ポイント対サイト

ローカルマシンをクラウドに接続して、アクティブな VM にアクセスします。

セッションログのダウンロード

説明の表示

## デステイネーションの保護

デステイネーションとは、バックアップデータを保存する場所です。デステイネーションには復旧ポイントサーバが必要です。[デステイネーション]タブを使用して、既存のデステイネーションを表示および管理します。新しいデステイネーションを追加することもできます。

- [デステイネーションの追加](#)
- [デステイネーションの表示と管理](#)
- [デステイネーションの変更](#)

## デスティネーションの追加

**重要:** トライアル組織の場合、[モニタ]ページまたは[資格]ページからトライアルをアクティブ化した後、デスティネーションを作成できます。

デスティネーションを追加するには、サーバとして機能するデータセンターが必要です。

**注:** Cloud Direct のデスティネーションを追加することができます。Arcserve UDP Cloud Hybrid のデスティネーションを追加するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

以下の手順に従います。

1. [デスティネーション]画面で、[クラウドボリュームの追加]をクリックします。  
[アカウント名]が表示された [クラウドボリュームの追加]ダイアログ ボックスが表示されます。以下の詳細を入力します。
  - ◆ ボリューム名: 一意の名前を入力します。
  - ◆ データセンター: 利用可能なオプションのリストから選択します。
  - ◆ 保存: 目的の保存期間を選択します。
2. [クラウドボリュームの追加]をクリックします。  
デスティネーションが追加され、[デスティネーション]画面から[表示](#)または[変更](#)できます。

## デステイネーションの表示と管理

[デステイネーション]タブでは、すでに[追加済み](#)のデステイネーションを表示および管理できます。[デステイネーション]画面から、以下のアクションを実行できます。

- **デステイネーションの検索:** 検索バーを使用し、フィルタオプションを提供して、デステイネーションを検索します。今後使用するため、[検索の保存](#)も可能です。
- **デステイネーションの詳細の表示:** デステイネーションについて、表示する詳細を指定できます。[設定]アイコンを使用して、オプションを選択します。たとえば、[ストレージの使用状況]、[最新のジョブ]、[ロケーション]、[データセンターの地域]などです。
- **デステイネーションの管理:** デステイネーションを編集または削除できます。デステイネーションに割り当てられた復旧ポイントを表示することもできます。
  - ◆ **デステイネーションの編集:** デステイネーションのドロップダウンオプションから、[編集](#)]をクリックし、デステイネーションを編集します。
  - ◆ **復旧ポイントの表示:** デステイネーションのドロップダウンオプションから、[復旧ポイントの表示](#)]をクリックします。そのデステイネーションの[復旧ポイント](#)]タブから、復旧ポイントの詳細を表示できます。
  - ◆ **削除:** デステイネーションのドロップダウンオプションから、[削除](#)]をクリックします。確認のダイアログボックスが表示されます。削除するには、[確認](#)]をクリックします。

**注:** デステイネーションがポリシーにリンクされている場合は削除できません。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

デステイネーションの名前をクリックして、[容量の使用状況のトレンド](#)]を[編集](#)および表示することもできます。

## デスティネーションの変更

[デスティネーション]画面で、変更するデスティネーションの名前をクリックします。選択したデスティネーションが新しい画面に表示され、以下の3つのタブが表示されます。

- **情報:** このタブでは、一般的な情報が提供されます。[名前]を更新して**[変更の保存]**をクリックできます。以下の情報も表示できます。
  - ◆ **Cloud Direct:** [ステータス]、[地域]、[ボリュームタイプ]、[保持期間]に関する情報を表示します。

**注:** 保持期間は時間、週、月、日、年で分割されます。詳細については、「[保持設定を使用する方法](#)」を参照してください。
  - ◆ **Cloud Hybrid:** [ステータス]、[地域]、[同時アクティブノードの制限]、[ソース]、[デデュプによる節約]、[ポリシー]、[ストレージの使用状況]、[最新のジョブ]に関するジョブを表示します。デデュプリケーションおよび圧縮ステータスも表示できます。
- **復旧ポイント:** 復旧ポイントの検索、[復旧または固定](#)、および[ファイル/フォルダのダウンロード](#)も可能です。タブから、選択されたデスティネーションに関する以下の詳細を表示できます。
  - ◆ **作成日:** 作成の日時を示します。
  - ◆ **ソース:** 割り当てられているソースの名前を示します。
  - ◆ **コンテンツ:** データの場所を示します。
- **メトリクス:** デスティネーションの**[容量の使用状況のトレンド]**を表示できます。レポートを表示する日数を選択できます。レポートでは、フルバックアップデータのプライマリおよびスナップショットに分割された情報が提供されません。

## ポリシーの保護

ポリシーとは、データを保護するために作成されたルールのセットを指します。ポリシーの追加には、データを保護するデスティネーションとスケジュールの設定が必要です。

コンソールのポリシー機能を使用して、ソースに割り当てられたポリシーを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索して保存:** 複数のフィルタを使用してポリシーを検索することができます。検索するには、直接ポリシー名を入力して検索をクリックするか、**[検索]**ボックスにあるドロップダウン矢印をクリックして1つ以上のフィルタを選択し、**[検索]**をクリックできます。結果と共に検索を保存することもできます。詳細については、「[検索の保存](#)」を参照してください。
- **ポリシー詳細の表示:** ポリシー画面から、以下の詳細と共に、利用可能なポリシーのリストを表示できます。
  - ◆ **ステータス:** 展開、無効、成功、失敗などのポリシーの現在のステータスを示します。
  - ◆ **保護されたソース:** ポリシーを使用している保護されたソースの数を示します。
  - ◆ **保護されていないソース:** ポリシーを使用している保護されていないソースの数を示します。
  - ◆ **ソースグループ:** ポリシーを使用しているソースグループの名前または数を示します。
  - ◆ **最新のジョブ:** 最新のジョブの種類を指します。ジョブの種類をクリックすると、ジョブ詳細を表示できます。
  - ◆ **説明:** 関連する詳細を示すフィールドを示します。
  - ◆ **ポリシータイプ:** 作成したポリシーのタイプ( Cloud Direct BaaS、Cloud Direct DRaaS、Cloud Hybrid Replication、Cloud Direct Agentless など)が表示されるフィールドを参照します。
  - ◆ **ドロップダウン:** オプションを使用して、ポリシーに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、削除や修正です。
- **ポリシーの変更:** ポリシーを変更するには、個々のアクションとして利用可能な **[変更]**オプションを使用するか、ポリシーの名前をクリックし、ポリシー画面でポリシーの詳細を変更します。任意の保護タイプの利用可能なすべてのポリシーを変更できます。ハイパーバイザポリシーを変更することもできます。詳細については、「[ハイパーバイザポリシーを変更する方法](#)」を参照してください。

- **ポリシーの削除:** ポリシーを選択し、[アクション]メニューから **削除**]をクリックしてポリシーを削除します。
- **ポリシーの展開:** ソースを選択し、コンテキストアクションメニューから **展開**]をクリックして、選択したソースのポリシー設定を展開します。
- **ポリシーの追加:** [ポリシー]画面で、新しいポリシーを作成できます。ハイパーバイザについてはポリシーを追加できません。

ポリシーを追加するには、以下のオプションを表示します。

- [Cloud Direct バックアップ用のポリシーの追加](#)
- [Cloud Direct 惨事復旧用のポリシーの追加](#)
- [Cloud Hybrid レプリケーション用のポリシーの追加](#)
- **ポリシーの有効化:** ポリシーを有効にするには、[ポリシー]画面の [アクション]ドロップダウンリストから **有効化**]をクリックします。詳細については、「[ポリシーの有効化](#)」を参照してください。
- **ポリシーの無効化:** ポリシーを無効にするには、[ポリシー]画面の [アクション]ドロップダウンリストから **無効化**]をクリックします。詳細については、「[ポリシーの無効化](#)」を参照してください。
- **グローバルアクション:** 複数のポリシーを選択し、上部の [アクション]ドロップダウン矢印をクリックします。表示されたオプションから、選択されたポリシーに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、**削除**]をクリックしてすべてのポリシーを削除します。
- **個々のアクション:** ポリシーのドロップダウン矢印をクリックし、表示されたオプションから、選択されたポリシーに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、**削除**]をクリックしてポリシーを削除するか、**編集**]をクリックして既存のポリシーの詳細を変更します。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

## Cloud Direct バックアップ用のポリシーの追加

**重要:** 最初のポリシーは、デフォルトで Direct バックアップの登録に追加されます。後でポリシーを変更したり、新しいポリシーを追加したりできます。

注:

- トライアル組織の場合、デフォルトポリシーとデステイネーションは、[モニタ] ページまたは [資格] ページからトライアルがアクティブ化されたときに使用できます。
- 組織が一時停止された場合、**Cloud Direct バックアップ用のポリシーの追加**は機能しません。

Cloud Direct バックアップのポリシーの追加には、複数の手順が含まれます。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある [ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ **基本情報**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ **保護タイプ**]として、Cloud Direct バックアップを選択します。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。
3. ソースを割り当てる場合は、2番目のタブ - **ソース(オプション)**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ **検索**]ボックスを使用してすでに追加されたソースから一致するソースを検索するか、直接 **ソースの選択**]をクリックして利用可能なソースを表示できます。
  - ◆ 表示されたソースのリストから、ポリシーに追加する1つ以上のソースのチェックボックスをオンにします。  
**注:** 同じオペレーティングシステムのソースを追加します。たとえば、すべて Windows または Mac または Linux とします。
  - ◆ **ソースの追加**]をクリックします。

画面には追加したソースが表示されます。

4. 3つ目のタブ **デステイネーション**]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。

アクティビティの種類、保存する場所、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。

**注:** 選択したアクティビティの種類が Cloud Direct ファイル フォルダの場合、**追加の設定** タブも表示されます。除外]設定は、追加の設定]にあります。

- ◆ **保護対象** タブから、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。  
**File Folder ( ファイル フォルダ )** では、Windows の場合は UNC またはローカル ドライブ パスを、Mac/Linux の場合は Linux パスを入力します。UNC パスを入力した場合、以下のオプションのいずれかを使用して、Cloud Direct エージェント オプションの実行 ユーザを UNC パスでのフル コントロールおよびビルトイン/管理者権限を持つユーザに変更します。
  - バックアップを開始し、Cloud Direct エージェントが UNC パスのマウントを試行するまで待機します。認証情報プロンプトでは、入力した認証情報が今後のバックアップのために保存されません。
  - Cloud Direct エージェントシステム トレイを右クリックし、**[ローカル設定]** をクリックします。参照] をクリックして目的のユーザを検索し、パスワードを入力します。

**Windows イメージ** の場合は、フル システムを選択するか、1 つ以上のドライブを指定できます。フル システムで構成されたソースによって、Cloud Direct エージェントサービスが起動するたびにバックアップされるドライブのリストが更新されます。

**SQL Server** の場合は、以下のいずれかを選択します。

- **データベースから直接同期:** SQL バックアッププロバイダを使用して、SQL データベース ファイルおよびログ ファイルをローカルにステージングされた領域に書き込むことなく、クラウドにストリーミングします。
- **ステージングされたバックアップをローカルで同期:** 空き容量のあるドライブ上にステージング ディレクトリがバックアップするすべてのインスタンスのすべてのデータベースの合計サイズよりも大きいかどうかを確認します。選択されたユーザ( Cloud Direct エージェントのユーザとして実行するオプションが有効なユーザ) がバックアップするインスタンスの sysadmin 権限を持っているかどうかを確認します。デフォルトでは、Cloud Direct エージェントの実行ユーザは NT Authority\SYSTEM ユーザです。

**Exchange** の場合、Microsoft Exchange Server データベースをバックアップできます。

**注:** 複数のアクティビティの種類が [保護対象] に一覧表示されている場合、[デスティネーションの追加] ボタンをクリックすることで、それぞれ一意のアクティビティの種類を設定できます。

- ◆ **保護する場所]** タブから、ソースを保護するデスティネーションを選択します。**ローカル バックアップを作成** する必要がある場合、タスク設定でまだバックアップされていないデスティネーションとしてローカル パスを入力します。

**主要な考慮事項:**

- ポリシーのソースが Windows システムの場合、UNC パスまたはローカル ドライブ パスを入力できます。[Windows Image Backup (Windows イメージ バックアップ)] - [フル システム] タスクを選択する場合、フル システム タスクによってすべてのドライブがバックアップされるため、クラウドにバックアップするドライブに対してローカル バックアップを実行しないように、UNC パスを使用します。
  - ソースが Linux または Mac の場合、Linux パスを入力します。
  - タスクがファイル フォルダ以外のタスクである場合、エージェントは最初に新しいローカル コピーを作成してから古いローカル コピーを削除するため、ローカル コピー デスティネーションに 2.1 倍の空き容量があるかどうかを確認します。ファイル フォルダ タスクの場合、推奨される空き容量は、ソース パスのサイズの 1.1 倍です。
  - UNC パスを入力した場合、CD エージェントの実行 ユーザを、UNC パスでのフル コントロールおよびソース システムでのビルトイン/管理者権限を持つユーザに変更します。実行 ユーザを変更するには、Cloud Direct エージェントシステム トレイを右クリックし、[ローカル設定] をクリックします。[参照] をクリックしてユーザを検索し、パスワードを入力します。バックアップを開始し、Cloud Direct エージェントが UNC パスのマウントを試行するまで待機します。認証情報プロンプトでは、入力した認証情報が今後のバックアップのために保存されます。
  - データが重複しないように、バックアップするパスまたはドライブのサブ パスにローカル コピーを作成しないでください。
- ◆ **保護するタイミング]** タブでは、バックアップのスケジュールを設定できます。15 分ごと、1 時間ごと、6 時間ごと、開始時刻を指定して 1 日ごとなど、BaaS ポリシーでは複数のバックアップ スケジュールを利用できます。さらに、[スロットル スケジュール](#) を追加できます。

**注:** CD BaaS ポリシーに対して複数のバックアップスケジュールを有効化するには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

- ◆ **追加設定** タブで、以下の操作を行います。
  - **[キャッシュの場所]**に、キャッシュが格納される場所を入力します。**[キャッシュの場所]**には、キャッシュがローカルに保存され、転送のパフォーマンスが最適化されます。これは、データセットの合計の約 1% です。ディスクの空き容量が問題の場合は、キャッシュの場所を別の場所に指定します。
  - **[バックアップ前のスクリプト]**に、バックアップジョブを実行する前に実行するスクリプトの場所を入力します。
  - (オプション) スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止するには、**[スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止します]** チェックボックスをオンにします。
  - **[バックアップ後のスクリプト]**に、バックアップが完了した後に実行するスクリプトの場所を入力します。

**[ポリシーの作成]** ボタンが有効化されます。

**注:** **[デステイネーションの削除]**を使用して、ポリシーからデステイネーションを削除することもできます。

5. **[ポリシーの作成]** をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが **[展開]** となって **[ポリシー]** 画面に表示されます。展開の完了後、ステータスが **[成功]** または **[失敗]** に変更されます。

## Cloud Direct 惨事復旧用のポリシーの追加

### 前提条件

- Disaster Recovery のライセンス
- DRaaS (ゼロコピー) ボリューム

注: 組織が一時停止された場合、**Cloud Direct 惨事復旧用のポリシーの追加**は機能しません。

Arcserve® Business Continuity Cloud のポリシーの追加には、複数の手順があります。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[**ポリシーの追加**]をクリックします。  
3つのタブがある[ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ [**基本情報**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ [保護タイプ]として、Cloud Direct Disaster Recovery を選択します。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。
3. ソースを割り当てる場合は、2番目のタブ - [ソース(オプション)]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ 利用可能なソースを表示するには、[ソースの選択]をクリックします。
  - ◆ 表示されたソースのリストから、ポリシーに追加する1つ以上のソースのチェックボックスをオンにします。
  - ◆ [ソースの追加]をクリックします。

画面には追加したソースが表示されます。

4. 3つ目のタブ [**デステイネーション**]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。

アクティビティの種類、保存する場所、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。

- ◆ [保護対象]タブから、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。  
Windows イメージの場合は、フルシステムまたは個々のドライブを指定できます。フルシステムで構成されたソースによって、Cloud Direct エージェントサービスが起動するたびにバックアップされるドライブのリス

トが更新されます。個々のドライブを選択する場合、ブートドライブが含まれていることを確認してください。

- ◆ **保護する場所**]タブから、ソースを保護する惨事復旧デスティネーションを選択します。**ローカルバックアップを作成**する必要がある場合、以下の考慮事項を確認してください。
  - **[Windows Image Backup ( Windows イメージ バックアップ) ]-** **[フルシステム]**タスクを選択する場合、フルシステム タスクによってポリシー内の各ソースのすべてのドライブがバックアップされるため、クラウドにバックアップするドライブに対してローカルバックアップを実行しないように、UNC パスを使用します。
  - **UNC** パスを入力した場合、**Cloud Direct エージェント オプション**の実行ユーザを、**UNC** パスでのフル コントロールおよびソースシステムでのビルトイン/管理者権限を持つユーザに変更します。実行ユーザを変更するには、**Cloud Direct エージェントシステム**トレイを右クリックし、**[ローカル設定]**をクリックします。**[参照]**をクリックして目的のユーザを検索し、パスワードを入力します。別のオプションとして、バックアップを開始し、**Cloud Direct エージェント**が **UNC** パスのマウントを試行するまで待機することもできます。認証情報プロンプトでは、入力した認証情報が今後のバックアップのために保存されます。
  - エージェントは最初に新しいローカルコピーを作成してから古いローカルコピーを削除するため、ローカルコピーデスティネーションに **2.1 倍**の空き容量があるかどうかを確認します。
- ◆ **保護するタイミング**]タブから、バックアップのスケジュールを設定します。惨事復旧では、複数のバックアップスケジュールが利用可能です。たとえば、**15 分ごと**、**1 時間ごと**、**6 時間ごと**、開始時刻を指定して**1 日ごと**などです。**[スロットル スケジュール]**を追加することもできます。

**[ポリシーの作成]**ボタンが有効化されます。

5. **[ポリシーの作成]**をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが **[展開]**となって **[ポリシー]**画面に表示されます。展開の完了後、ステータスが **[成功]**または **[失敗]**に変更されます。

正常に展開された後、ソースの復旧されたリソースが作成され、**[復旧されたリソース]**タブに表示されます。

## Cloud Hybrid レプリケーション用のポリシーの追加

注：組織が一時停止された場合、Cloud Hybrid レプリケーション用のポリシーの追加は機能しません。

Arcserve® Business Continuity Cloud のポリシーの追加には、複数の手順があります。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある[ポリシーの追加]画面が表示されます。
  2. 最初のタブ **基本情報**]をクリックし、以下の手順を実行します。
    - ◆ [ポリシー名]を入力します。
    - ◆ **保護タイプ**]として、Cloud Hybrid レプリケーションを選択します。
    - ◆ 必要に応じて説明を入力します。[ソース]タブは無効です。
  3. 3つ目のタブ **デステイネーション**]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。  
アクティビティの種類、保存する場所、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。
    - ◆ **保護対象**]タブで、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。  
リモートで管理されたRPSからレプリケートします。このアクティビティを設定するには、Arcserve UDP ソリューションガイドの「[リモートで管理されたRPSからのレプリケート](#)」を参照してください。
    - ◆ **保護する場所**]タブで、ソースを保護するデステイネーションを選択します。
    - ◆ **保護するタイミング**]タブで、マージスケジュールを設定します。
    - ◆ タブ **追加の設定**]で、保存ポリシーの追加を選択することで、**日単位のバックアップ**]、**月単位のバックアップ**]、**週単位のバックアップ**]、および**手動バックアップ**]を保持することもできます。
- 注：[**デステイネーションの削除**]を使用して、ポリシーからデステイネーションを削除することもできます。ただし、リモートで管理されたRPSへのレプリケートタスクを設定している場合は、リモートで管理されたRPSからのレプリケートタスクを削除する前に、まずそれを削除する必要があります。
4. (オプション) 3つ目のタブ **デステイネーション**]から、リバースレプリケーションに新しいタスク **リモートで管理されたRPSへのレプリケート**]を追加します。

このアクティビティを設定するには、Arcserve UDP ソリューションガイドの「[リモートで管理された RPS へのレプリケート](#)」を参照してください。

- ◆ [リモートで管理された RPS タスクからのレプリケート]を閉じるには、バツ印のアイコンをクリックします。
- ◆ [リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート]を追加するには、ハイパーリンクアイコンをクリックします。
- ◆ [リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート]をクリックします。
- ◆ **保護する場所**]タブで、共有プランを取得するためのリモート UDP コンソール アクセス情報を指定します。
- ◆ **保護するタイミング**]タブで、レプリケートスケジュールとスロットル スケジュールを追加します。

**注:** [デスティネーションの削除]を使用して、ポリシーからデスティネーションを削除することもできます。

[ポリシーの作成]ボタンが有効化されます。

5. **[ポリシーの作成]**をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが [成功]、[失敗]、または [展開]として [ポリシー]画面に表示されます。後でポリシーを変更することもできます。[ポリシー]画面からポリシー名をクリックし、更新を実行します。

**注:** Cloud Hybrid レプリケーション タスクを設定することで、Arcserve Cloud 内の Arcserve UDP のエージェントベース、OneDrive、CIFS、エージェントレス ノードを保護できます。詳細については、「[Arcserve Cloud へのレプリケート設定](#)」を参照してください。

## ハイパーバイザ ポリシーの変更

すべてのポリシー タイプのポリシーを変更できます。ここでは、ハイパーバイザのポリシーを変更する方法の例を示します。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある[ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ **基本情報**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ **保護タイプ**]を選択します。たとえば、Cloud Direct バックアップまたは Cloud Hybrid レプリケーションなどです。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。
3. ソースを割り当てている場合は、2番目のタブ - **ソース(オプション)**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ **検索**]ボックスを使用したり、**ソースの選択**]を直接クリックしたりして利用可能なソースを表示できます。
  - ◆ 表示されたソースのリストから、ポリシーに追加する1つ以上のソースのチェックボックスをオンにします。
  - ◆ **ソースの追加**]をクリックします。

画面には追加したソースが表示されます。

4. 3つ目のタブ **デステイネーション**]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。

ソース、ロケーション、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。

- ◆ タブ **What to protect (保護対象)**]で、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。

Windows イメージの場合は、フルシステムを選択するか、1つ以上のドライブを指定できます。

- ◆ タブ **Where to protect (保護する場所)**]で、ソースを保護するデステイネーションを選択します。**ローカルバックアップを作成**する必要がある場合、**デステイネーション**]としてローカルパスを入力します。

- ◆ タブ **「When to protect ( 保護するタイミング) 」**で、バックアップのスケジュールを設定します。[「スロットル スケジュール」](#)を追加することもできます。

[ポリシーの作成]ボタンが有効化されます。

5. **「ポリシーの作成」**をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが **「展開」**となって [ポリシー]画面に表示されます。展開の完了後、ステータスが **「成功」**または **「失敗」**に変更されます。

## 分析

分析機能を使用すると、ジョブ、ログ、およびレポートを表示できます。上部のアイコンを使用すると、画面を折りたたんだり展開したりすることができます。

### 次のトピック

- [ジョブの分析](#)
- [ログの分析](#)
- [レポートの分析](#)

## ジョブの分析

カスタマイズできる詳細を含むジョブの完全なリストが表示されます。

### 主要なハイライト

- 検索バーは、選択したフィルタに従ってジョブを検索するのに役立ちます。たとえば、ステータス、ジョブの種類、日付範囲、または保護ポリシーなどです。
- 今後使用するためにも、検索を保存できます。
- **[Manage Saved Search (保存した検索の管理)]** オプションを使用すると、保存している場合、検索を管理できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。
- すべてのジョブには、**[設定]** アイコンを使用することでカスタマイズできる詳細が表示されます。ジョブはステータスに基づいて複数のカテゴリに分割されます。たとえば、進行中のジョブ、失敗したジョブ、キャンセルされたジョブ、成功したジョブです。
- ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。ソースの画面の **[ジョブ]** タブからジョブの説明を表示することもできます。
- すべてのジョブで、**ログを表示** できます。ジョブのすべての行の最後にあるドロップダウン オプションをクリックすると、そのジョブのログが表示されます。
- 進行中のジョブを**キャンセル**することもできます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法](#)

## ログの分析

[ログ]タブには、保護済みノード、デステイネーションサーバ、データストアおよびポリシーのすべてのアクティビティログが表示されます。ログを表示して、重大度、マシンから生成されたログ、ジョブの種類、ログコンテンツなどさまざまなフィルタを適用できます。ログをエクスポートすることもできます。メッセージIDは、詳細なドキュメントにアクセスするためのハイパーリンクを提供します。MessageID列のハイパーリンクをクリックすると、そのメッセージの説明と解決策が表示されます。[ログ]画面では、レプリケーション(イン)ジョブのメッセージIDのみが表示されます。

**ログのエクスポート:** [ログ]画面から、ログを受信トレイにエクスポートできます。

[ログ]画面の上部の[エクスポート]をクリックすると、登録されている電子メールIDにログが送信されます。受信トレイで、受信トレイで、「ログのエクスポート」という件名のArcserveクラウドサポートからの電子メールを探し、**Download Export (エクスポートのダウンロード)**をクリックし、.csvファイルとしてダウンロードします。

**ログの検索:** 利用可能なフィルタの組み合わせ、および以下のいずれかのオプションを使用するか、**検索**をクリックして、アクティビティログを検索できます。

- **重大度**タイプを選択して、選択したタイプに関連するすべてのログを表示します。
- **ジョブの種類**を選択します。
- **日付範囲**を選択します。
- **生成元**の場所を選択します。
- **検索**ボックスにメッセージの語句を入力します。

---

## アラートレポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用し、アラートタイプに基づいてアラートを個別またはまとめて分析します。

アラートの一覧から、アラート名、アラートの種類、レポート対象、作成日、最終生成日、受信者などのアラートの詳細を表示できます。

[アラート]画面から、以下のアクションを実行できます。

- [新しいアラートレポートの作成](#)
- [アラートレポートの編集](#)

## 新しいアラートレポートの作成

[アラートの作成]を使用すると、新しいアラートレポートを追加できます。アラートレポートは、電子メールのリンクとして受信者(追加受信者を含む)に送信されます。新しいレポートを作成するには、[アラートの作成]レポートウィザードを使用します。[アラート]ページで [アラートの作成] をクリックすると、ウィザードが表示されます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面から、[アラート]タブをクリックします。  
[アラート]画面が表示されます。
2. [アラート]画面で、[アラートの作成]をクリックします。  
[アラートの作成]ウィザードが表示されます。
3. [アラートの作成]ウィザードの [アラートの種類] から、いずれかのオプションを選択します。
4. [アラート名]に、新しいアラートレポートの一意の名前を入力します。
5. 以下のオプションから1つを選択します。
  - **すべてのソースのレポート:** 利用可能なすべてのソースからレポートを生成できます。
  - **選択したソースグループのレポート:** 選択したソースグループのみからレポートを生成できます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウンオプションから [ソースグループ] を選択し、**追加** をクリックします。複数のグループを選択するには、この操作を繰り返します。
6. (オプション) 他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力し、**追加** をクリックします。
7. **作成** をクリックします。  
アラートレポートの生成が正常に完了したことを示す確認ダイアログボックスが表示されます。

[アラートレポート]画面には、成功レポートが表示されます。バックアップが完了すると、ログインしているユーザとその他の受信者(存在する場合)に電子メールが送信されます。

---

## アラートレポートの編集

[アラート] ページでアラートレポートを編集できます。

以下の手順に従います。

1. [分析] 画面から、[アラート] をクリックします。

[アラート]- [レポート] 画面にレポートの一覧が表示されます。一覧からアラートレポートの名前をクリックするか、ドロップダウン オプションを使用してレポートを選択し、**編集** をクリックします。

[レポート設定の編集] 画面が表示されます。

2. 画面から、いずれかのオプションを選択してソースを選択します。

- **すべてのソースのレポート:** 利用可能なすべてのソースからレポートを編集できます。
- **選択したソースグループのレポート:** 選択したソースグループのみからレポートを編集できます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウン オプションから [ソースグループ] を選択し、**追加** をクリックします。複数のグループを選択するには、この操作を繰り返します。

3. 他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力し、**追加** をクリックします。

4. **変更の保存** をクリックします。

レポートが変更されます。

## レポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud では、レポートの種類に従って、レポートをまとめて分析したり、個別に分析したりできます。[レポート]画面から、[日付範囲]、[スケジュール対象]、[生成日]のフィルタを使用して、レポートを検索できます。また、検索アイテムを保存することもできます。

レポートのリストから、レポートの詳細を表示できます。たとえば、レポート名、日付範囲、レポート対象、生成日、スケジュール対象、レポートの種類、作成者、受信者などです。レポート画面および関連する画面から、以下のアクションを実行することもできます。

- [レポートの作成](#)
- [レポートの表示](#)
- [レポート スケジュールの管理](#)
- [レポートのエクスポート](#)
- [レポート スケジュールの編集](#)

## レポートの表示方法

コンソールを使用すると、[レポート]画面から直接レポートを削除したり、特定の種類に移動して関連するレポートを表示したりすることができます。レポート画面から、以下のアクションを実行できます。

- **レポートの詳細の表示:** レポートのリストには、バックアップジョブレポート、復旧ジョブレポート、データ転送レポート、容量の使用状況レポートを含むすべてのレポートが表示されます。[検索]バーを使用して、表示するレポートの種類をフィルタリングできます。レポート名をクリックすると、ダッシュボードに完全な詳細を表示できます。レポート画面から1つ以上のレポートを削除できます。
  - ◆ **レポートの削除:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、[レポートの削除]をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。[確認]をクリックすると、レポートが削除されます。
  - ◆ **複数のレポートの削除:** 同時に複数のレポートを削除するには、目的のレポートのチェックボックスをオンにし、[アクション]のドロップダウンオプションから[削除]を選択します。
- **特定の種類のレポートの表示:** 1つの種類の特定のレポートのみを表示するには、利用可能ないずれかのレポートの種類に移動します。特定の種類のレポート画面から、新しいレポートの作成やレポートのエクスポートも可能です。

使用できるレポートの種類:

- ◆ [バックアップジョブ](#)
- ◆ [ポリシータスク](#)
- ◆ [復旧ジョブ](#)
- ◆ [データ転送](#)
- ◆ [容量使用率](#)

## バックアップ ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の [バックアップ ジョブ]をクリックすると、すべてのバックアップ ジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[保護ポリシー]、[デステイネーション]または [ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。複数のフィルタの使用が許可されます。[[Manage Saved Searches \(保存した検索の保存\)](#)]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ 画面から、[レポートを作成](#)して、.csv ファイルとしてエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[失敗]、[完了]、[キャンセル]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、バックアップ ジョブ ステータス、イベント、ジョブ 期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのバックアップ ジョブの **詳細**]を表示します。

## ポリシー タスクのレポート

完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの詳細を表示するには、[\[分析\]](#)- [\[ポリシー タスク\]](#)に移動します。

[\[ポリシー タスク\]](#)をクリックして、完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの概要を表示します。[\[日付範囲\]](#)、[\[保護ポリシー\]](#)、[\[デスティネーション\]](#)、[\[ソースグループ\]](#)などの複数のフィルタを使用してソースを検索できます。[\[ポリシー タスク\]](#)ページの右上にある [保存した検索内容の管理](#) をクリックし、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト

- ◆ 画面から、レポートを作成および .csv ファイルとしてエクスポートするには、[\[レポートの作成\]](#)および [\[レポートのエクスポート\]](#)をそれぞれクリックします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの割合が表示されます。
- ◆ フィルタを適用して、イベントやジョブ期間などの上位 10 ソースを表示します。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表から、完了したバックアップ ジョブのすべてのポリシー タスクの詳細を表示します。

## 復旧ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の[復旧ジョブ]をクリックすると、復旧されたすべてのジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[デステイネーション]、または[ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。[設定]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[キャンセル]、[完了]、[失敗]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、復旧ジョブステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのリストアジョブの **詳細** ]を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

---

## データ転送のレポート

コンソールから、[レポート]の[データ転送]をクリックすると、データ転送のサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]および[ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、特定の日付における処理データ、転送データ、書き込みデータが表示されます。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのデータ転送の[詳細]を表示します。
- ◆ レポートをCSVファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

## 容量使用率のレポート

コンソールから、[レポート]の [容量の使用状況]をクリックすると、使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドを表示できる画面が表示されます。日付範囲]および [デスティネーション]のフィルタを使用してデスティネーションを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、さまざまな日付の使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドが表示されます。
- ◆ 表から容量の使用状況の **詳細**]を表示します。
- ◆ 利用可能なすべてのデスティネーションの詳細を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

## レポート スケジュールの管理

[レポート スケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポート スケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
- **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。[レポート名]をクリックして、レポートの設定を編集できます。
- **グローバルアクション:** 1つ以上のレポート名のチェックボックスをオンにすると、上部のバー **Selected (選択済み)** にオンにしたチェックボックスの数が表示され、選択したレポートに対して集合的なアクションを実行するのに役立つ **[アクション]** オプションが有効になります。たとえば、選択したすべてのレポートを **削除** したり、**今すぐ生成** を使用して、選択したすべてのレポートのコピーを準備したりします。
- **個別のアクション:** 特定のレポートに対して、以下の個別のアクションを実行できます。
  - ◆ **レポートの編集:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**編集** をクリックすると、**[レポート設定の編集]** のダイアログ ボックスが表示されます。必要な変更を実行し、**変更の保存** をクリックします。詳細については、「[レポート スケジュールを編集する方法](#)」を参照してください。
  - ◆ **今すぐ生成:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**今すぐ生成** をクリックすると、そのレポートのインスタンスが作成され、すぐにレポートのリストに表示されます。
  - ◆ **レポートの削除:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**[レポートの削除]** をクリックすると、確認ダイアログ ボックスが表示されます。**確認** をクリックすると、レポートが削除されます。

**注:** 個別またはグローバルアクションとしてレポートを削除すると、レポートスケジュールによって作成されたすべてのレポートインスタンスも削除できます。確認メッセージから、**[delete the report instances (レポートインスタンスを削除する)]** のチェックボックスもオンにします。

## 設定

Arcserve® Business Continuity Cloud は、より詳細に制御できる複数のオプションを設定するのに役立ちます。たとえば、インフラストラクチャ、ソースグループ、アクセス制御、資格、および組織のブランディングを設定できます。

### 次のトピック

- [インフラストラクチャの設定](#)
- [ソースグループの設定](#)
- [アクセス制御の設定](#)
- [資格の設定](#)
- [ブランディングの設定](#)

---

## インフラストラクチャの設定

インフラストラクチャ機能を使用すると、Arcserve® Business Continuity Cloud にハイパーバイザを追加できます。組織に追加されたハイパーバイザのリストが画面に表示されます。ハイパーバイザを追加するには、以下の手順を実行する必要があります。

1. [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスのセットアップ](#)
2. [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの設定](#)
3. [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの削除](#)

## UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスをセットアップする方法

VMware 仮想環境では、UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスを展開して、1 つ以上の VMware 仮想 マシンのエージェントレス保護を有効化します。仮想 アプライアンスでは、各仮想 マシンに UDP Cloud Direct エージェントをインストールする必要がありません。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスのダウンロード](#)
- [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの展開](#)
- [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの登録](#)

---

## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスのダウンロード

UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスは、Arcserve® Business Continuity Cloud コンソールで .ova ファイルとして利用できます。コンソールで、[設定]- [インフラストラクチャ]- [ハイパーバイザ]から、**[VMware アプライアンス(.OVA) のダウンロード]**をクリックし、ファイルをダウンロードします。

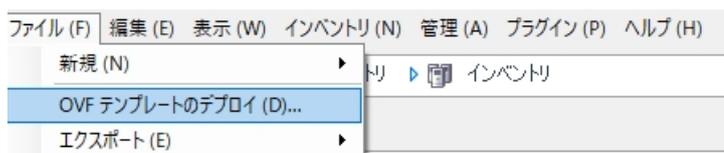
次は、アプライアンスを[展開](#)する必要があります。

## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスの展開

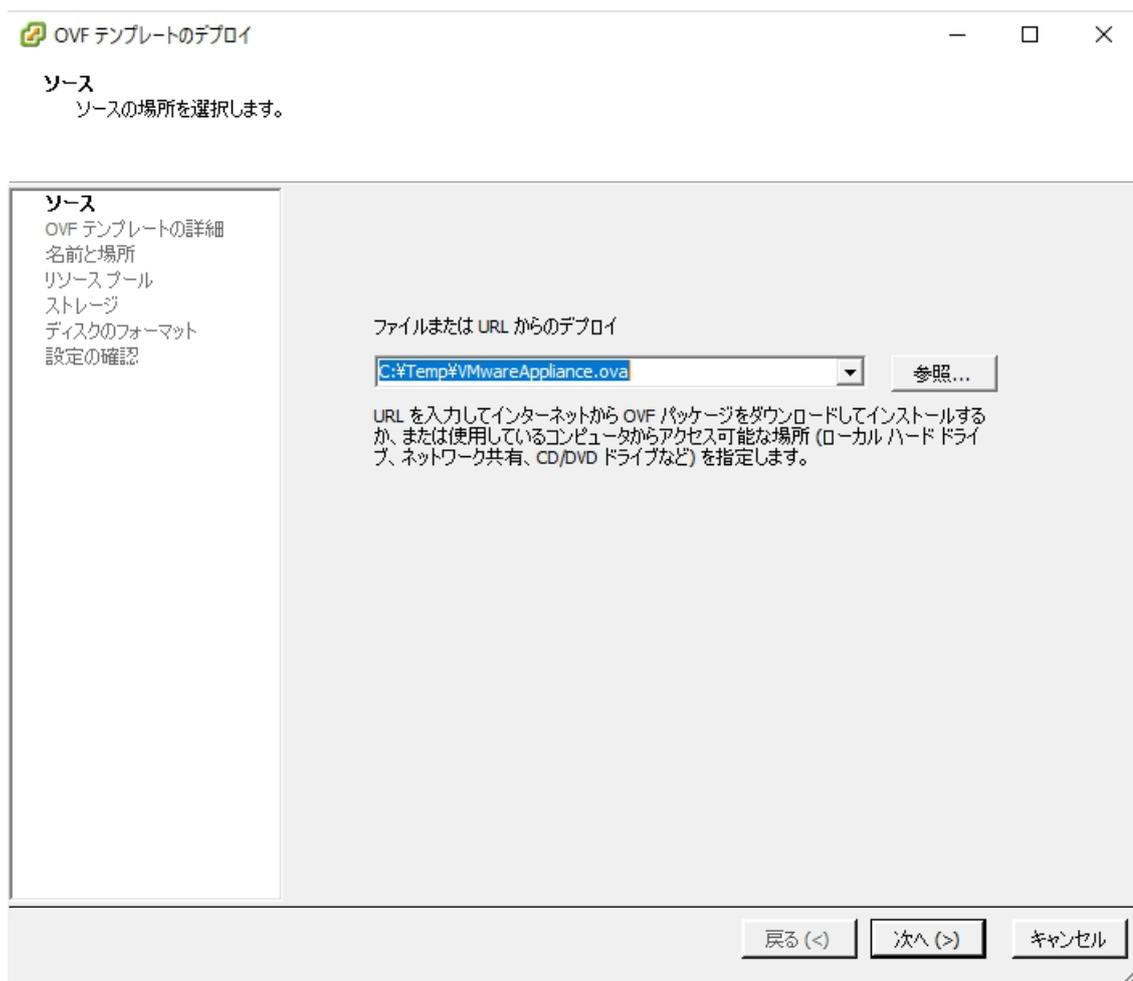
UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスをVMware vSphere 環境に展開するには、VMware vSphere Web クライアントを使用します。

以下の手順に従います。

1. VMware vSphere Web クライアントを起動し、ログインします。
2. vSphere Web クライアントで、[ファイル]をクリックし、[OVF テンプレートのデプロイ]を選択します。



3. [参照]をクリックし、.ova ファイルをダウンロードした場所からファイルを選択して、[次へ]をクリックします。



4. [終了準備の完了]に到達するまで残りのセットアッププロセスを続行し、**終了**]をクリックします。  
UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスが展開されます。
5. 完了したら、**閉じる**]をクリックします。
6. [Getting Started ( 導入 ガイド )]に移動し、UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスを選択し、[仮想マシンの電源をオンにする]をクリックします。

はじめに
サマ
リソース割り当て
パフォーマンス
イベント
コンソール
権限

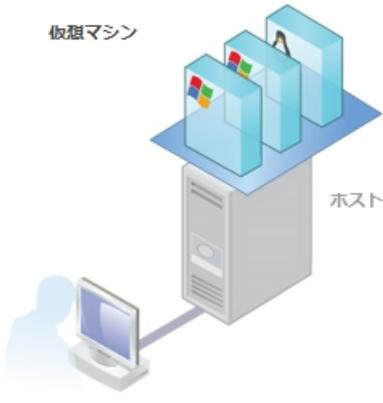
[タブを閉じる](#) ✕

### 仮想マシンについて

仮想マシンとは、物理コンピュータのようにオペレーティングシステムとアプリケーションを実行するソフトウェアコンピュータです。仮想マシン上にインストールしたオペレーティングシステムのことを、ゲストオペレーティングシステム（ゲストOS）といいます。

仮想マシンはそれぞれ隔離されたコンピュータ環境であるため、それらの仮想マシンを、デスクトップまたはワークステーション環境として、あるいはテスト環境として使用したり、サーバアプリケーションの統合に使用したりできます。

仮想マシンはホストで動作します。同一のホストで多数の仮想マシンを実行できます。



The diagram illustrates a vSphere Client (represented by a person icon and a monitor) connected to a Host (a server tower). On top of the Host, several Virtual Machines (represented by blue icons with windows) are shown running. Labels include '仮想マシン' (Virtual Machine), 'vSphere Client', and 'ホスト' (Host).

---

### 基本タスク

- ▶ [仮想マシンのパワーオン](#)
- 🔧 [仮想マシン設定の編集](#)

UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスが正常に展開されました。

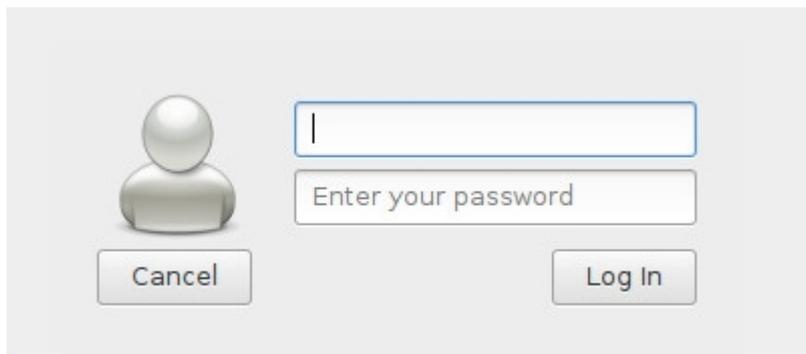
次は、アプライアンスを[登録](#)する必要があります。

## UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの登録

仮想 アプライアンスがインストールされ、電源がオンになると、Arcserve® Business Continuity Cloud に UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスを登録する必要があります。

以下の手順に従います。

1. VMware vSphere Web クライアントで、仮想 アプライアンスの [コンソール] タブに移動します。



2. デフォルトユーザ名 *zetta*、デフォルトパスワード *zettazetta* を入力し、[ログイン]をクリックします。
3. 仮想 アプライアンスを利用するアカウントで作成したユーザのユーザ アカウントの認証情報(電子メール/パスワード)を入力し、[Center の設定を続行します]をクリックします。

## アプライアンスの設定

電子メール

パスワード

 プロキシを使用

システム名

VMwareAppliance

タイムゾーン

日本国 ▼

[vCenter の設定を続行](#)

4. vCenter サーバ アドレス、vCenter ユーザ名、および vCenter パスワードを入力し、**設定の完了** をクリックします。

## vCenter の設定

vCenter Server

ユーザ名

パスワード

設定完了

登録が正常に完了したについて確認メッセージが表示されるはずで  
す。また、5分以内に UDP Cloud Direct ポータルでデータが利用可能になり  
ます。

# 成功!

管理ポータルにログインして、バックアップする仮想マシンを設定してください。データが  
利用可能になるまでに、約 5 分間待機する必要があります。

5. **オプションの手順:** [アプライアンスパスワードの変更]をクリックすると、現在の  
デフォルトパスワードを使用して UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスのパス  
ワードを変更できます。

UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスが正常に登録されました。アプライアンスのポ  
リシーが作成されます。ポリシーの名前は <System Name> + Policy です。これで、  
アプライアンスの[設定](#)は完了です。

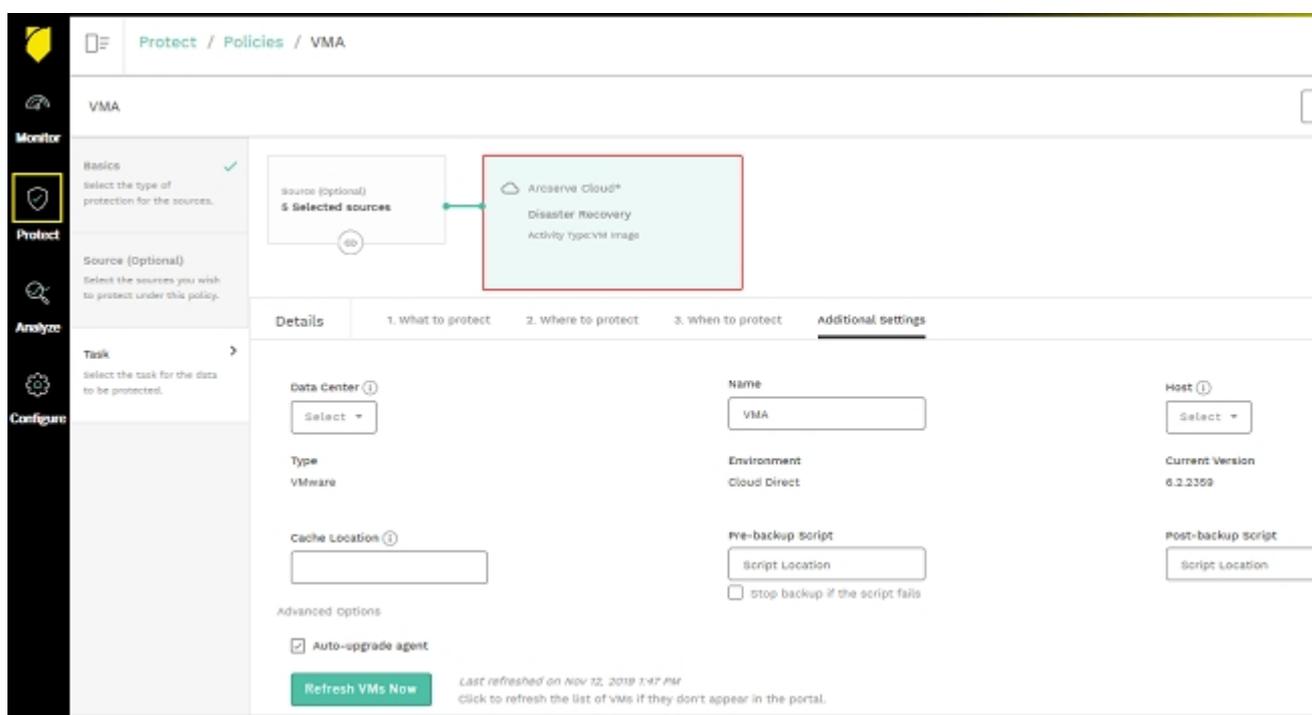
## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスの設定

コンソールへの[登録](#)が完了すると、仮想アプライアンスを設定できます。設定するには、仮想マシンをソースとして追加する必要があります。詳細については、「[ソースの追加](#)」を参照してください。必要に応じて設定を実行できます。

以下の手順に従います。

1. [設定]- [インフラストラクチャ]- [ハイパーバイザ]で表示されるリストから目的の仮想アプライアンスの名前をクリックするか、[保護]- [ポリシー]からアプライアンスポリシーを変更します。

仮想アプライアンスポリシー変更ページが表示されます。



2. [デスティネーション]タブをクリックし、以下の手順を実行します。
  - a. [保護する場所]から、データを格納する目的のデスティネーションを指定します。
  - b. [保護するタイミング]タブから、実行するバックアップスケジュールを割り当てます。

**注:** [スロットルスケジュールを追加して](#)帯域幅の使用率を制限することもできます。

惨事復旧デスティネーションを選択すると、ポリシーに追加されたすべてのソースに対して復旧されたリソースが作成されます。

3. **追加の設定** タブでは、以下のフィールドの情報の追加/更新し、**保存** をクリックできます。

#### データセンター/ホスト

デフォルトは [なし] に設定されています。値が設定されている場合、このデータセンター/ホストからの仮想マシンのみが保護されます。

**注:** 外部の VM がすでに無効化されていることを確認します。

#### 名前

登録時に指定されたシステム名を示します。必要に応じて変更できます。

#### キャッシュの場所

キャッシュが格納される場所を入力します。[キャッシュの場所]には、キャッシュがローカルに保存され、転送のパフォーマンスが最適化されます。これは、データセットの合計の約 1% です。ディスクの空き容量が問題の場合は、キャッシュの場所を別の場所に指定します。

#### バックアップ前のスクリプト

バックアップジョブが実行される前に実行するスクリプトの場所を入力します。スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止するには、[スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止します](オプション) チェックボックスをオンにします。

#### バックアップ後のスクリプト

バックアップが完了した後に実行するスクリプトの場所を入力します。

#### エージェントの自動アップグレード

エージェントを示します。デフォルトでは有効になっており、仮想アプライアンスでエージェントを自動的にアップグレードできます。

#### 新しいVMの自動同期

vCenter から毎日 VM を同期できます。オプションはデフォルトで無効になっています。VM を手動で同期するには、**今すぐVMを更新** をクリックします。

仮想アプライアンスの設定が完了しました。

## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスの削除

既存の UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスを削除できます。

### 考慮事項:

- 有効化された仮想マシンで復旧されたリソースが実行中の場合、仮想アプライアンスを削除できません。
- 有効化されたすべての仮想マシンも削除されます。

以下の手順に従います。

1. [設定]- [インフラストラクチャ]- [ハイパーバイザ]に移動します。  
追加したすべての仮想アプライアンスが表示されます。
2. 表示されたリストから、目的の仮想アプライアンスの [アクション] ドロップダウン オプションをクリックします。  
削除するオプションが表示されます。
3. [削除] をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。
4. [はい] ボタンをクリックして確定します。  
仮想アプライアンスが削除されます。

## Hyper-V の UDP Cloud Direct エージェントのセットアップ

Hyper-V 統合を実行して、Hyper-V の VM に存在するデータを保護します。

以下の手順に従います。

1. [保護]画面に移動し、[Download Cloud Direct Agent ( Cloud Direct エージェントのダウンロード)]に移動します。
2. ダウンロードしたファイルをコピーし、Hyper-V マシンにファイルを貼り付けます。
3. セットアップ手順に従ってファイルを実行し、Cloud Direct エージェントのインストールを完了させます。
4. Cloud Direct エージェントをインストールした後、登録ウィンドウでクラウドアカウントの詳細を指定し、Hyper-V をクラウドコンソールに追加します。

**保護**画面の**[マシン]**フィールドに Hyper-V が表示されます。しばらくすると、**[VM のバックアップ]**オプションが表示されます。

5. ソース ノードの右端までスクロールし、コンテキストビューから **[VM のバックアップ]**オプションを選択します。

ソースリストで Hyper-V が赤く強調表示され、**設定**画面の**[ハイパーバイザ]**フィールドに表示されます。しばらくすると、Hyper-V が **[ハイパーバイザ]**フィールドに表示されます。

その後、デフォルトポリシーが **保護**画面の**[ポリシー]**フィールドに作成されます。

6. 以下の方法のいずれかを実行し、Hyper-V に VM を追加します。

#### 環境設定画面を使用

1. **[ハイパーバイザ]**フィールドに移動し、Hyper-V 名を選択して、**[ポリシーの編集]**ページに進みます。
2. **[ソース]**フィールドをクリックし、**[ソースの選択]**をクリックして、Hyper-V に存在する VM を表示します。
3. バックアップする VM 名のチェックボックスをオンにし、**[ソースの追加]**をクリックします。

#### 保護画面を使用

1. **[ポリシー]**フィールドに移動し、Hyper-V 名があるポリシーを選択します。
2. **[ソース]**フィールドをクリックし、**[ソースの選択]**をクリックして、Hyper-V に存在する VM を表示します。
3. バックアップする VM 名のチェックボックスをオンにし、**[ソースの追加]**をクリックします。
4. **[デステイネーション]**フィールドをクリックし、**[アクティビティの種類]-[VM イメージ]**をクリックして、要件に従って以下のフィールドを編集します。
  - ◆ 保護する場所
  - ◆ 保護するタイミング
  - ◆ 追加の設定
5. **追加設定**タブで、以下の操作を行います。
  - **[キャッシュの場所]**に、キャッシュが格納される場所を入力します。**[キャッシュの場所]**には、キャッシュがローカルに保存され、転送のパフォーマンスが最適化されます。これは、データセット

の合計の約 1% です。ディスクの空き容量が問題の場合は、キャッシュの場所を別の場所に指定します。

- [バックアップ前のスクリプト]に、バックアップジョブを実行する前に実行するスクリプトの場所を入力します。
- (オプション) スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止するには、[スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止します] チェックボックスをオンにします。
- [バックアップ後のスクリプト]に、バックアップが完了した後に実行するスクリプトの場所を入力します。

**注:** エージェントレスバックアップを実行した後は、オペレーティングシステムの情報は表示されません。オペレーティングシステムの情報を表示するには、ゲストOSに統合サービスをインストールし、VMの電源を入れます。

7. (オプション) 新しいVMがHyper-Vに追加されたら、ポリシーの編集に [今すぐVMを更新] をクリックし、それらをクラウドコンソールで利用できるようにします。手順6を実行し、手動でVMをクラウドコンソールに追加します。

Hyper-VのVMに存在するデータを保護するためのHyper-V統合が完了しました。

## ソースグループの設定

ソースグループとは、複数のソースを含むグループを指します。この機能を使用すると、特定のタイプのソースのグループを維持管理できます。[ソースグループ]画面には既存のグループが表示され、グループを作成または削除するオプションが提供されます。検索オプションを使用してグループを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- **グループの検索:** [ソースグループ]画面から、**検索**オプションを使用してグループを検索できます。
- **ソースグループ詳細の表示:** ソースグループに関する詳細を表示します。たとえば、グループ名、割り当て済みソースの合計、保護されたソース、および保護されていないソースなどです。
- **ソースグループの削除:** すべてのソースで利用可能なドロップダウンオプションを使用してグループを削除します。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

### 次のトピック

- [ソースグループの作成](#)
- [ソースグループへのソースの割り当て](#)

---

## 新しいソースグループの作成

[ソースグループ]機能から、ソースの複数のグループを作成できます。

以下の手順に従います。

1. [ソースグループ]画面から、**[グループの作成]**をクリックします。  
[グループの作成]ダイアログボックスが表示されます。
2. **[グループ名]**として一意の名前を入力します。
3. **[作成]**をクリックします。  
[ソースグループ]画面に新しいソースグループが表示されます。

## ソースグループへのソースの割り当て

利用可能なソースをソースグループに割り当てることができます。ソースグループを開き、関連ソースを割り当てるだけです。

以下の手順に従います。

1. [ソースグループ]画面から、ソースグループの名前をクリックします。  
ソースグループの画面には、関連する詳細が表示されます。
2. [グループへのソースの追加]をクリックします。  
[グループへのソースの追加]画面には、利用可能なソースのリストが表示されます。
3. 追加するソースのチェックボックスをオンにします。  
上部の **Selected (選択済み)** フィールドには、追加するように選択したソースの数が表示されます。
4. **選択したソースの追加** をクリックします。  
ソースグループ名画面には、追加された選択済みのソースの数が表示されます。

[アクション]ドロップダウンリストから、ソースグループから一部のソースを削除できます。1つ以上のソースを削除するには、以下の手順を実行します。

1. 目的のソースのチェックボックスをオンにします。
2. [アクション]ドロップダウンリストの **グループから削除** オプションをクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されます。
3. 削除するには、**確認** をクリックします。

---

## アクセス制御の設定

この機能では、ユーザを管理できます。新しいユーザを追加したり、既存のユーザに対して特定のアクションを実行したりすることもできます。

**注：**このオプションを使用して自分の詳細を管理することはできません。追加したユーザのみを管理できます。パスワードをリセットするには、[ユーザプロファイル]に移動します。

### 次のトピック

- [ユーザ アカウントの管理](#)
- [役割の管理](#)

## ユーザ アカウントの管理

ユーザ アカウント機能を使用して、ユーザを管理できます。新しいユーザを追加したり、既存のユーザに対して特定のアクションを実行したりすることもできます。たとえば、検証メールの再送信、パスワードのリセット、ユーザの削除などです。[Manage Saved Search (保存した検索の管理)] オプションを使用して、ユーザに対して集合的なアクションを実行することもできます。検索オプションを使用して、[ステータス]、[ブロック済み]、[役割]などの選択したフィルタに従ってユーザを検索し、検索結果を保存できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

### 注:

- このオプションを使用して自分の詳細を管理することはできません。追加したユーザのみを管理できます。パスワードをリセットするには、[ユーザプロフィール]に移動します。
- 追加したユーザに対する二要素認証(2FA)の要件を有効にする場合は、「[組織レベルで2FAの要件を有効にする方法](#)」を参照してください。
- 追加したユーザに対する二要素認証(2FA)の要件を無効にする場合は、「[組織レベルで2FAの要件を無効にする方法](#)」を参照してください。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

### 次のトピック

- [ユーザ アカウントの表示および更新](#)
- [ユーザの追加](#)

## ユーザ アカウントを表示および更新する方法

Arcserve® Business Continuity Cloud では、ユーザ アカウントを表示したり、ユーザ アカウントに対して複数のアクションを実行したりできます。[ユーザ アカウント]画面から、ユーザを検索したり、詳細を表示したり、既存のアカウントに対して複数のアクションを実行したりすることができます。

### ユーザ アカウントに対して実行される主要なアクション

- **ユーザ名の更新:** ユーザの氏名を編集できます。
- **ユーザ アカウントの検索:** 検索ボックスに検索語を入力するか、目的のフィルタを使用してアカウントを検索します。検索を保存したり、保存した検索を管理したりすることもできます。
- **ユーザ アカウント詳細の表示:** [ユーザ アカウント]画面には、アイコンを使用して設定した、指定された詳細を持つすべての追加済みのユーザ アカウントが表示されます。たとえば、電子メール、役割、最終ログイン日、ブロック済みなどです。
- **ユーザ アカウントの削除:** 複数のアカウントを選択し、[アクション]のドロップダウンオプションから削除を選択して、同時に複数のアカウントを削除します。1件のユーザ アカウントを削除するには、ユーザ アカウント詳細に配置されているドロップダウン矢印をクリックし、**削除**をクリックします。**確認**ダイアログボックスが表示されます。削除するには、**確認**をクリックします。
- **パスワードのリセット:** このオプションは、ステータスが**検証済み**と表示される、または**ブロック済み**ステータスがfalseとして表示される既存のユーザに対して表示されます。あるユーザのドロップダウンリストから**パスワードのリセット**オプションをクリックすると、**確認**ダイアログボックスが表示されます。**電子メールの送信**をクリックしてパスワードのリセットを確認すると、選択されたユーザの登録された電子メールIDに対してリンクが送信されます。

**注:** [パスワードのリセット]リンクを送信すると、ユーザは古いパスワードを使用してコンソールにログインできなくなります。

- **二要素のリセット:** 特定のユーザに対する二要素認証を無効にするには、[アクション]ドロップダウンリストから**Reset Two Factor (二要素のリセット)**オプションを選択します。二要素認証を無効にすることを確認するメッセージが表示されます。**Reset User Two Factor (ユーザの二要素のリセット)**をクリックして確定します。

**注:** 二要素がリセットされると、2FAが無効になります。

- **確認メールの再送信**: 追加されたが確認されていないユーザーに対して、このオプションが表示されます。ユーザーのドロップダウンリストから **Resend Verification Email (確認メールの再送信)** をクリックします。確認メッセージによって、選択されたユーザーの電子メールIDに対して電子メールが送信されたことが通知されます。
- **ユーザーの追加**: [ユーザーアカウント]画面から、オプションをクリックしてユーザーを追加します。詳細については、「[ユーザーを追加する方法](#)」を参照してください。

## ユーザを追加する方法

[ユーザ アカウント]画面から、新しいユーザを追加して役割を割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. [ユーザの追加]をクリックします。  
[ユーザの追加]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 以下の詳細を入力します。
  - **名および姓:** ユーザの氏名を入力します。
  - **電子メールアドレス:** ユーザの電子メールアドレスを入力します。電子メールアドレスは他のユーザに再利用できません。確認メールは指定された電子メール ID に送信されます。確認するため、新しいユーザは、指定された電子メールアドレスに送信されたアクティベーションリンクをクリックする必要があります。確認の成功後、ユーザは役割に割り当てられ、その後ユーザのみがアクションを実行できます。確認メールで共有されるアクティベーションリンクをクリックしてパスワードを作成しないと、ユーザは未確認のままとなり、コンソールにログインできません。
  - **役割:** 新しいユーザを割り当てる役割を選択します。たとえば、[管理]などです。
3. [ユーザの追加]をクリックします。  
[ユーザの追加]ダイアログ ボックスは閉じられ、[ユーザ アカウント]画面に新しいユーザが表示されます。

## 役割の管理

「役割」画面から、アクティブな役割の詳細を表示できます。

### 主要なハイライト:

- 役割に割り当てられた権限を表示するには、役割の名前を展開します。
- 役割が割り当てられたユーザ数を表示します。
- 役割の説明を表示します。

## 資格の設定

Arcserve® Business Continuity Cloud では、コンソールから直接、資格を管理できます。[資格]をクリックすると、アカウントのサマリ、Arcserve Cloud および Hybrid の資格などの詳細が表示されます。

### Cloud Direct のトライアル期間：

- Cloud Direct のトライアル期間は 15 日間です。トライアル期間が終了すると、すべての Cloud Direct ポリシーが無効化され、バックアップが実行されなくなります。
- トライアル有効期限の 30 日後、組織の Cloud Direct リソース(ソース、デステイネーション、ポリシーなど)がコンソールから削除されます。

### Cloud Hybrid のトライアル期間：

- Cloud Hybrid のトライアル期間は 15 日間です。トライアル期間が終了すると、すべての Cloud Hybrid ポリシーが無効化され、バックアップが実行されなくなります。
- トライアル有効期限の 30 日後、組織の Cloud Hybrid リソース(ソース、デステイネーション、ポリシーなど)がコンソールから削除されます。

画面から、新しいオーダーを有効化することもできます。

以下の手順に従います。

1. [Entitlements (資格)]画面から、**新しいオーダーの有効化**]をクリックします。  
新しいオーダーの有効化]ダイアログボックスが表示されます。
2. [オーダーID]および [フルフィルメント番号]を入力します。  
両方の詳細は同じオーダーに属している必要があります。
3. [アクティブ化]をクリックします。  
確認ダイアログボックスによってステータスが提供されます。

## 組織ブランディングの設定

ブランディングによって、顧客が一般的に必要な組織の詳細をカスタマイズできます。たとえば、ログイン時に表示される電子メール、法的な連絡先、およびブランディングメッセージの更新などです。

以下の手順に従います。

1. Arcserve® Business Continuity Cloud から、**[Branding]**をクリックします。  
タブが3つある**[Branding]**画面が表示されます。
2. 利用可能なオプションを追加または更新するには、**[ブランド]**タブをクリックします。例：
  - 組織の**[名前]**と**[ポータル URL/ホスト名]**に関する説明を指定します。
  - **[ロゴおよび色]**を選択します。  
**注：**ロゴはブランドページに表示されます。デフォルトロゴは Arcserve のロゴです。**[プライマリカラー]**および**[セカンダリカラー]**はコンソールの境界線を示します。
3. 組織の詳細、サポート番号、ソーシャルメディアリンク、サポート電子メール、問い合わせ先などの法的な詳細、注意、プライバシー、および著作権情報を設定するには、タブ**[電子メール]**をクリックします。
4. **[変更の保存]**をクリックします。  
ログインタブは、**[ポータル URL/ホスト名]**が確認されている場合にのみ有効です。
5. ロゴを更新したり、既存のロゴを使用したりするには、タブ**[ログイン]**をクリックします。ログインページに表示される**[ブランディングメッセージ]**も指定できます。  
**注：****[ログイン]**タブは、タブ**[ブランド]**の**[ポータル URL]**が指定されている場合にのみ表示されます。
6. **[ログイン]**タブで詳細を更新したら、**[変更の保存]**をクリックします。  
ブランディング詳細が更新されました。

---

## 4 章: MSP 管理者としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用

MSP 管理者は、MSP および MSP ベースの組織の Arcserve® Business Continuity Cloud を管理します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">Dashboard</a>	112
<a href="#">モニタ</a>	113
<a href="#">保護</a>	115
<a href="#">分析</a>	120
<a href="#">設定</a>	135

## Dashboard

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタ機能の複数の一般的なオプションと詳細を確認できるコンソールダッシュボードが表示されます。ダッシュボードから、パスワードの変更、ユーザ詳細の更新、サポートへの連絡に関する詳細の確認、重要なメッセージの表示、ログアウトが可能です。

ダッシュボードには、以下のオプションがあります。

- **Arcserve アイコン:** 左上にある Arcserve アイコンをクリックすると、コンソールのどこからでもダッシュボードに戻ることができます。
- **ヘルプ アイコン:** 右上のヘルプアイコンを使用すると、Arcserve に連絡するための複数のオプションを選択したり、コンソールのオンラインヘルプを表示したりできる **[サポート]** ページが表示されます。
- **アラートアイコン:** 右上のエクスクラメーションマークでは、考慮事項に関するコンソールからのメッセージが表示されます。メッセージは、**[クリティカル]**、**[警告]**、または **[情報]** として分類されます。メッセージを確認し、必要に応じてアクションを実行できます。詳細については、「[アラートを管理する方法](#)」を参照してください。
- **ユーザ ログインアイコン:** 右上のアイコンには、ログインしたユーザのプロファイル画像が表示されます。アイコンでは、クラウドコンソールからログアウトするオプション、およびログインしたユーザのユーザプロファイルを更新するオプションが提供されます。

[ユーザプロファイル]を使用すると、以下の2つの更新を実行できます。

- **連絡先情報の更新:** **[My Profile (マイプロファイル)]** 画面から、連絡先詳細を更新し、写真をアップロードできます。更新後、**[変更の保存]** をクリックします。
- **パスワードの変更:** 新しいパスワードを指定し、**[パスワードの更新]** をクリックします。
- **二要素認証:** 現在のパスワードを入力し、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ 二要素認証を有効にするには、**[[Enable Two Factor Authentication \(二要素認証の有効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素認証を無効にするには、**[[Disable Two Factor Authentication \(二要素認証の無効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素コードを生成するには、**[[Generate Two Factor Codes \(二要素コードの生成\)](#)]** をクリックします。

## モニタ

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタが複数のウィザードを使用して製品の詳細を表示するコンソールダッシュボードが表示されます。モニタから、以下のオプションを実行できます。

- **サマリの表示:** モニタに組織の顧客、使用状況、ソースのサマリが表示されます。
  - ◆ **顧客のサマリ:** 合計顧客数と、前回のバックアップのジョブ結果に基づいてステータスが [失敗] および [成功] の顧客の数が表示されます。
  - ◆ **顧客全体の使用状況のサマリ:** Cloud Direct または Cloud Hybrid のライセンス容量に従って、顧客の使用状況のサマリが表示されます。
  - ◆ **顧客全体のソースのサマリ:** ステータスに従って、すべての顧客のソースの数が表示されます。たとえば、保護済み、保護されていない、およびオフラインなどです。
- **グラフとして詳細を表示:** 主要な詳細をより詳細にモニタリングするため、モニタによって複数のフィールドのグラフィカルなビューが表示されます。例:
  - ◆ **バックアップジョブのサマリ:** [完了]、[キャンセル]、[失敗] ステータスの過去 24 時間のバックアップジョブの数が表示されます。グラフにマウスポインタを置くと、各ステータスの割合が表示されます。
  - ◆ **進行中の最新 10 件のジョブ:** 進行中の最新の 10 件のジョブが表示されます。すべての進行中ジョブに対してログの表示またはジョブのキャンセルアクションがサポートされています。[View all jobs (すべてのジョブを表示)] リンクをクリックすると、[ジョブ] 画面が表示されます。
  - ◆ **トップ 10 のソース:** 特定の条件ごとに上位 10 件のジョブが表示されます。選択された [バックアップジョブステータス]、[イベント]、[Job Durations (ジョブ期間)]、および [転送データ] がサポートされます。
  - ◆ **トップ 10 ポリシー:** 上位 10 件のポリシーが表示されます。これは [完了]、[失敗]、[キャンセル]、または [アクティブ] のジョブステータスでグループ化されます。
- **トップ 10 の顧客の表示:** MSP ユーザのトップ 10 の顧客をモニタするのに役立ちます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームの使用トレンド:** フルバックアップデータごとの Cloud Direct ボリュームの使用トレンドが表示されます。これはボリューム名でグループ化されます。

- ◆ **Cloud Hybrid ストアの使用トレンド:** Cloud Hybrid ストアの使用トレンドが表示されます。これは Cloud Hybrid ストア名でグループ化されます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリ:** Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリが表示されます。これは、[処理データ]、[転送データ]、および [書き込みデータ]に従ってグループ化されます。
- ◆ **Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンド:** Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンドが表示されます。これはソースデータおよびデデュープ節約サイズでグループ化されます。
- **Cloud Hybrid 詳細の表示:** Cloud Hybrid ストアの使用状況のトレンドとデデュープ節約トレンドが表示されます。詳細を表示するには、グラフにマウスポインタを置きます。
- **ウィジェットの展開または折りたたみ:** 表示されたウィジェットの上にあるアイコンを使用して、展開または折りたたみます。

---

## 保護

MSP 管理者は、顧客アカウントを保護できます。顧客アカウントから、MSP 管理者は以下のアクションを実行できます。

- [すべての顧客アカウントの詳細の選択および表示](#)
- [新しい顧客アカウントの追加および変更](#)

## 顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクションを実行する方法

顧客アカウント画面では、複数のオプションが提供されます。たとえば、詳細の表示、顧客アカウントの変更、および複数のアクションの実行などです。

**アカウントの検索：**検索バーから、顧客の名前を使用して顧客アカウントを検索します。

**アカウント詳細の表示：**顧客アカウント画面には、利用可能なすべての顧客アカウントのリストが表示されます。各アカウントについて、顧客名、ステータス、アカウントの状態、合計ソース、製品使用状況、追加者、追加日などの詳細を表示します。

**アカウント数の表示：**ページの右上の **合計顧客アカウント数**には、追加された顧客アカウントの数が表示されます。

**停止中のアカウント数の表示：**ページの右上の **停止中の合計顧客アカウント数**には、停止中の顧客アカウントの数が表示されます。

**顧客アカウントの追加：**画面から顧客アカウントを追加できます。詳細については、「[顧客アカウントを追加する方法](#)」を参照してください。

**複数のアクションの実行：**すべてのアカウントの最後にはアクションのドロップダウンがあります。ドロップダウンオプションから、以下のオプションのいずれかを選択できます。

- **使用しきい値の設定：** [使用しきい値の設定]ダイアログボックスで特定の顧客アカウントの使用のしきい値を設定します。使用しきい値を選択し、**保存**をクリックします。制限はTB、GB、PBで選択できます。
- **MSP アカウント管理者の割り当て：** MSP 管理者を顧客アカウントに割り当てます。 **顧客への管理者の割り当て**ダイアログボックスから、1人以上の管理者を選択し、**追加**をクリックして **割り当て**をクリックします。
- **エンドユーザ管理者として表示：** 顧客アカウントの名前の前に配置されているアイコンを使用するか、ドロップダウンオプションから、これをクリックして、役割を切り替えて顧客アカウントを表示します。
- **削除：** 組織から顧客アカウントを削除します。 **削除**をクリックすると、顧客アカウントの削除を確認するメッセージが表示されます。メッセージの **削除**をクリックすると、顧客アカウントが削除されます。
- **一時停止：** MSP 管理者は、顧客アカウントを一時停止できます。一時停止するには、**アクション**ドロップダウンリストから **有効化**をクリックします。詳細については、「[組織の一時停止](#)」を参照してください。

- **有効化**: MSP 管理者は、顧客アカウントを再開できます。再開するには、[アクション] ドロップダウン リストから **有効化** をクリックします。詳細については、「[組織の有効化](#)」を参照してください。

## 顧客アカウントを追加および変更する方法

顧客アカウント画面から、顧客アカウントを追加または変更できます。

顧客アカウントの追加は簡単です。

以下の手順に従います。

1. **[Add Customer Account (顧客アカウントの追加)]** をクリックします。
2. 表示されたダイアログに名前を入力します。
3. **[顧客の追加]** をクリックします。

新しい顧客アカウントが顧客アカウント画面に表示されます。顧客アカウントの詳細を表示したり、複数のアクションを実行したりできます。詳細については、[「顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクションを実行する方法」](#)を参照してください。

顧客アカウントの詳細を変更することもできます。

顧客アカウントを変更するには、以下の手順を実行します。

1. **[Customer Accounts (顧客アカウント)]** ダッシュボードから、顧客アカウントの名前をクリックします。  
特定の顧客アカウントの画面に **[情報]** と **[メトリクス]** の 2 つのタブが表示されます。
2. **[情報]** タブから、一般的な情報を表示したり、以下の更新を実行したりできます。
  - 顧客の名前を変更します。
  - 顧客アカウントの管理者を割り当てます。 **[Assign Admin (管理者の割り当て)]** をクリックし、 **[Assign Admin to customer (顧客への管理者の割り当て)]** ダイアログ ボックスから管理者を選択して、 **[追加]** をクリックし、 **[割り当て]** をクリックします。
  - その顧客アカウントの **[情報]** タブに割り当てられた管理者が表示されます。
  - 顧客アカウントから管理者の割り当てを解除します。管理者の割り当てを解除するには、管理者の名前に対してドロップダウン オプションから **[アカウントの割り当て解除]** をクリックする必要があります。
  - 目的の更新を実行したら、画面の上部の **[変更の保存]** をクリックします。

3. [メトリクス]タブから、そのアカウントの [容量の使用状況のトレンド]および [Protection Summary (保護のサマリ)]を表示します。期間を示すそれぞれのドロップダウンからさまざまな期間を選択できます。

## 分析

MSP 管理者は、ジョブ、ログ、およびレポートを分析できます。

- [ジョブの分析](#)
- [ログの分析](#)
- [レポートの分析](#)

## ジョブの分析

カスタマイズできる詳細を含むジョブの完全なリストが表示されます。

### 主要なハイライト

- 検索バーは、選択したフィルタに従ってジョブを検索するのに役立ちます。たとえば、ステータス、ジョブの種類、日付範囲、または保護ポリシーなどです。
- 今後使用するためにも、検索を保存できます。
- **[Manage Saved Search (保存した検索の管理)]** オプションを使用すると、保存している場合、検索を管理できます。詳細については、[「保存した検索を管理する方法」](#)を参照してください。
- すべてのジョブには、**[設定]** アイコンを使用することでカスタマイズできる詳細が表示されます。ジョブはステータスに基づいて複数のカテゴリに分割されます。たとえば、進行中のジョブ、失敗したジョブ、キャンセルされたジョブ、成功したジョブです。
- ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。ソースの画面の **[ジョブ]** タブからジョブの説明を表示することもできます。
- すべてのジョブで、**ログを表示** できます。ジョブのすべての行の最後にあるドロップダウン オプションをクリックすると、そのジョブのログが表示されます。
- 進行中のジョブを**キャンセル**することもできます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法](#)

## ログの分析

[ログ]タブには、保護済みノード、デステイネーションサーバ、データストアおよびポリシーのすべてのアクティビティログが表示されます。ログを表示して、重大度、マシンから生成されたログ、ジョブの種類、ログコンテンツなどさまざまなフィルタを適用できます。ログをエクスポートすることもできます。メッセージIDは、詳細なドキュメントにアクセスするためのハイパーリンクを提供します。MessageID列のハイパーリンクをクリックすると、そのメッセージの説明と解決策が表示されます。[ログ]画面では、レプリケーション(イン)ジョブのメッセージIDのみが表示されます。

**ログのエクスポート:** [ログ]画面から、ログを受信トレイにエクスポートできます。

[ログ]画面の上部の [エクスポート] をクリックすると、登録されている電子メールIDにログが送信されます。受信トレイで、受信トレイで、「ログのエクスポート」という件名の Arcserve クラウドサポートからの電子メールを探し、**Download Export (エクスポートのダウンロード)** をクリックし、.csv ファイルとしてダウンロードします。

**ログの検索:** 利用可能なフィルタの組み合わせ、および以下のいずれかのオプションを使用するか、**検索** をクリックして、アクティビティログを検索できます。

- **重大度** タイプを選択して、選択したタイプに関連するすべてのログを表示します。
- **ジョブの種類** を選択します。
- **日付範囲** を選択します。
- **生成元** の場所を選択します。
- **検索** ボックスにメッセージの語句を入力します。

---

## アラートレポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用し、アラートタイプに基づいてアラートを個別またはまとめて分析します。

アラートの一覧から、アラート名、アラートの種類、レポート対象、作成日、最終生成日、受信者などのアラートの詳細を表示できます。

[アラート]画面から、以下のアクションを実行できます。

- [新しいアラートレポートの作成](#)
- [アラートレポートの編集](#)

## 新しいアラートレポートの作成

[アラートの作成]を使用すると、新しいアラートレポートを追加できます。アラートレポートは、電子メールのリンクとして受信者(追加受信者を含む)に送信されます。新しいレポートを作成するには、[アラートの作成]レポートウィザードを使用します。[アラート]ページで [アラートの作成] をクリックすると、ウィザードが表示されます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面から、[アラート]タブをクリックします。  
[アラート]画面が表示されます。
2. [アラート]画面で、[アラートの作成]をクリックします。  
[アラートの作成]ウィザードが表示されます。
3. [アラートの作成]ウィザードの [アラートの種類] から、いずれかのオプションを選択します。
4. [アラート名]に、新しいアラートレポートの一意の名前を入力します。
5. 以下のオプションから1つを選択します。
  - **すべての組織のレポート:** 利用可能なすべての組織からレポートを生成できます。
  - **選択した組織のレポート:** 選択した組織のみからレポートを生成できます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウンオプションから [組織] を選択し、[追加] をクリックします。組織を選択するには、この操作を繰り返します。
6. (オプション) 他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力し、[追加] をクリックします。
7. [作成] をクリックします。  
アラートレポートの生成が正常に完了したことを示す確認ダイアログボックスが表示されます。

[アラートレポート]画面には、成功レポートが表示されます。バックアップが完了すると、ログインしているユーザとその他の受信者(存在する場合)に電子メールが送信されます。

---

## アラートレポートの編集

[アラート]ページでアラートレポートを編集できます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面から、[アラート]をクリックします。  
[アラート]-[レポート]画面にレポートの一覧が表示されます。一覧からアラートレポートの名前をクリックするか、ドロップダウン オプションを使用してレポートを選択し、**編集**をクリックします。  
[レポート設定の編集]画面が表示されます。
2. 画面から、いずれかのオプションを選択して組織を選択します。
  - **すべての組織のレポート:** 利用可能なすべての組織からレポートを編集できます。
  - **選択した組織のレポート:** 選択した組織のみからレポートを編集できます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウン オプションから**組織**を選択し、**追加**をクリックします。組織を選択するには、この操作を繰り返します。
3. 他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力し、**追加**をクリックします。
4. **変更の保存**をクリックします。  
レポートが変更されます。

## レポートの分析

コンソールを使用すると、[バックアップジョブ]、[復旧ジョブ]、[データ転送]、[容量の使用状況]の4種類のレポートを表示できます。検索バーを使用すると、[生成日]、[スケジュール対象]、[日付範囲]などのフィルタ条件でレポートを検索できます。レポートを作成したり、[バックアップジョブ]、[復旧ジョブ]、[データ転送]、[容量の使用状況]に関するレポートを表示したりできます。レポートを.csvファイルとしてエクスポートすることもできます。

- [レポートの作成](#)
- [レポートの表示](#)
- [レポートスケジュールの管理](#)
- [レポートのエクスポート](#)
- [レポートスケジュールの編集](#)

## レポートの表示方法

[レポートスケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポートスケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
  - **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。[レポート名]をクリックして、レポートの設定を編集できます。
  - **グローバルアクション:** 1つ以上のレポート名のチェックボックスをオンにすると、上部のバー **Selected (選択済み)** にオンにしたチェックボックスの数が表示され、選択したレポートに対して集合的なアクションを実行するのに役立つ **[アクション]** オプションが有効になります。たとえば、選択したすべてのレポートを **削除** したり、**今すぐ生成** を使用して、選択したすべてのレポートのコピーを準備したりします。
  - **個別のアクション:** 特定のレポートに対して、以下の個別のアクションを実行できます。
    - ◆ **レポートの編集:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、**編集** をクリックすると、**[レポート設定の編集]** のダイアログボックスが表示されます。必要な変更を実行し、**変更の保存** をクリックします。詳細については、「[レポートスケジュールを編集する方法](#)」を参照してください。
    - ◆ **今すぐ生成:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、**今すぐ生成** をクリックすると、そのレポートのインスタンスが作成され、すぐにレポートのリストに表示されます。
    - ◆ **レポートの削除:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、**[レポートの削除]** をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。**確認** をクリックすると、レポートが削除されます。
- 注:** 個別またはグローバルアクションとしてレポートを削除すると、レポートスケジュールによって作成されたすべてのレポートインスタンスも削除できます。確認メッセージから、**[delete the report instances (レポートインスタンスを削除する)]** のチェックボックスもオンにします。

特定のレポートの詳細を表示するには、以下のレポートタイプのいずれかをクリックします。

- ◆ バックアップジョブ
- ◆ ポリシータスク
- ◆ 復旧ジョブ
- ◆ データ転送
- ◆ 容量使用率

## バックアップジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の[バックアップジョブ]をクリックすると、すべてのバックアップジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[保護ポリシー]、[ステイネーション]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。複数のフィルタの使用が許可されます。[[Manage Saved Searches \(保存した検索の保存\)](#)]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ 画面から、[レポートを作成](#)して、.csv ファイルとしてエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[失敗]、[完了]、[キャンセル]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、バックアップジョブステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのバックアップジョブの **詳細**]を表示します。

## ポリシー タスクのレポート

完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの詳細を表示するには、[\[分析\]](#)- [\[ポリシー タスク\]](#)に移動します。

[\[ポリシー タスク\]](#)をクリックして、完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの概要を表示します。[\[日付範囲\]](#)、[\[保護ポリシー\]](#)、[\[デスティネーション\]](#)、[\[組織\]](#)などの複数のフィルタを使用してソースを検索できます。[\[ポリシー タスク\]](#)ページの右上にある [保存した検索内容の管理](#) をクリックし、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト

- ◆ 画面から、レポートを作成および .csv ファイルとしてエクスポートするには、[\[レポートの作成\]](#)および [\[レポートのエクスポート\]](#)をそれぞれクリックします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの割合が表示されます。
- ◆ フィルタを適用して、イベントやジョブ期間などの上位 10 ソースを表示します。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表から、完了したバックアップ ジョブのすべてのポリシー タスクの詳細を表示します。

## 復旧ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の[復旧ジョブ]をクリックすると、リストアップされたすべてのジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[デスティネーション]、[組織]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。[設定]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[キャンセル]、[完了]、[失敗]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、復旧ジョブステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべての復旧ジョブの **詳細** ]を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

## データ転送のレポート

コンソールから、[レポート]の[データ転送]をクリックすると、データ転送のサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、特定の日付における処理データ、転送データ、書き込みデータが表示されます。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのデータ転送の[詳細]を表示します。
- ◆ レポートをCSVファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

---

## 容量使用率のレポート

コンソールから、[レポート]の [容量の使用状況]をクリックすると、使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドを表示できる画面が表示されます。日付範囲]および [デスティネーション]のフィルタを使用してデスティネーションを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、さまざまな日付の使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドが表示されます。
- ◆ 表から容量の使用状況の **詳細**]を表示します。
- ◆ 利用可能なすべてのデスティネーションの詳細を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

## レポートスケジュールの管理

[レポートスケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポートスケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
  - **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。[レポート名]をクリックして、レポートの設定を編集できます。
  - **グローバルアクション:** 1つ以上のレポート名のチェックボックスをオンにすると、上部のバー **Selected (選択済み)** にオンにしたチェックボックスの数が表示され、選択したレポートに対して集合的なアクションを実行するのに役立つ [アクション] オプションが有効になります。たとえば、選択したすべてのレポートを **削除** したり、**今すぐ生成** を使用して、選択したすべてのレポートのコピーを準備したりします。
  - **個別のアクション:** 特定のレポートに対して、以下の個別のアクションを実行できます。
    - ◆ **レポートの編集:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**編集** をクリックすると、[レポート設定の編集] のダイアログボックスが表示されます。必要な変更を実行し、**変更の保存** をクリックします。詳細については、「[レポートスケジュールを編集する方法](#)」を参照してください。
    - ◆ **今すぐ生成:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**今すぐ生成** をクリックすると、そのレポートのインスタンスが作成され、すぐにレポートのリストに表示されます。
    - ◆ **レポートの削除:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、[レポートの削除] をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。**確認** をクリックすると、レポートが削除されます。
- 注:** 個別またはグローバルアクションとしてレポートを削除すると、レポートスケジュールによって作成されたすべてのレポートインスタンスも削除できます。確認メッセージから、**delete the report instances (レポートインスタンスを削除する)** のチェックボックスもオンにします。

---

## 設定

コンソールを使用すると、組織のアクセス制御、資格、およびブランディングを設定できます。

### 次のトピック

- [アクセス制御の設定](#)
- [資格の設定](#)
- [組織ブランディングの設定](#)

## アクセス制御の設定

この機能では、ユーザを管理できます。新しいユーザを追加したり、既存のユーザに対して特定のアクションを実行したりすることもできます。

**注：**このオプションを使用して自分の詳細を管理することはできません。追加したユーザのみを管理できます。パスワードをリセットするには、[ユーザプロファイル]に移動します。

### 次のトピック

- [ユーザ アカウントの管理](#)
- [役割の管理](#)

## ユーザ アカウントの管理

ユーザ アカウント機能を使用して、ユーザを管理できます。新しいユーザを追加したり、既存のユーザに対して特定のアクションを実行したりすることもできます。たとえば、検証メールの再送信、パスワードのリセット、ユーザの削除などです。[Manage Saved Search (保存した検索の管理)] オプションを使用して、ユーザに対して集合的なアクションを実行することもできます。検索オプションを使用して、[ステータス]、[ブロック済み]、[役割]などの選択したフィルタに従ってユーザを検索し、検索結果を保存できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

### 注:

- このオプションを使用して自分の詳細を管理することはできません。追加したユーザのみを管理できます。パスワードをリセットするには、[ユーザプロフィール]に移動します。
- 追加したユーザに対する二要素認証(2FA)の要件を有効にする場合は、「[組織レベルで2FAの要件を有効にする方法](#)」を参照してください。
- 追加したユーザに対する二要素認証(2FA)の要件を無効にする場合は、「[組織レベルで2FAの要件を無効にする方法](#)」を参照してください。

### 次のトピック

- [ユーザ アカウントの表示および更新](#)
- [ユーザの追加](#)

## ユーザ アカウントを表示および更新する方法

Arcserve® Business Continuity Cloud では、ユーザ アカウントを表示したり、ユーザ アカウントに対して複数のアクションを実行したりできます。[ユーザ アカウント]画面から、ユーザを検索したり、詳細を表示したり、既存のアカウントに対して複数のアクションを実行したりすることができます。

### ユーザ アカウントに対して実行される主要なアクション

- **ユーザ名の更新:** ユーザの氏名を編集できます。
- **ユーザ アカウントの検索:** 検索ボックスに検索語を入力するか、目的のフィルタを使用してアカウントを検索します。検索を保存したり、保存した検索を管理したりすることもできます。
- **ユーザ アカウント詳細の表示:** [ユーザ アカウント]画面には、[設定]アイコンを使用して設定した、指定された詳細を持つすべての追加済みのユーザ アカウントが表示されます。たとえば、電子メール、役割、最終ログイン日、ブロック済みなどです。
- **ユーザ アカウントの削除:** 複数のアカウントを選択し、[アクション]のドロップダウン オプションから削除を選択して、同時に複数のアカウントを削除します。1 件のユーザ アカウントを削除するには、ユーザ アカウント詳細に配置されているドロップダウン矢印をクリックし、**削除**をクリックします。[確認]ダイアログ ボックスが表示されます。削除するには、**確認**をクリックします。
- **アカウントの割り当て:** MSP アカウント管理者のユーザ役割では、ユーザを選択して、[アクション]のドロップダウン オプションから**アカウントの割り当て**をクリックし、ユーザに 1 つ以上のアカウントを割り当てることができます。  
[Assign accounts to users ( ユーザへのアカウントの割り当て )]ダイアログ ボックスから、1 人以上の顧客を選択し、**割り当て**をクリックします。
- **パスワードのリセット:** ステータスが確認済みと表示されている既存のユーザに対して、このオプションが表示されます。選択したユーザのドロップダウン リストから**パスワードのリセット**オプションをクリックすると、[確認]ダイアログ ボックスが表示されます。**電子メールの送信**をクリックしてパスワードのリセットを確認すると、選択されたユーザの登録された電子メール ID に対してリンクが送信されます。  
**注:** [パスワードのリセット]リンクを送信すると、ユーザは古いパスワードを使用してクラウド コンソールにログインできなくなります。
- **二要素のリセット:** 特定のユーザに対する二要素認証を無効にするには、[アクション]ドロップダウン リストから**Reset Two Factor ( 二要素のリセット )**オプションを選択します。二要素認証を無効にすることを確認するメッセー

---

ジが表示されます。[Reset User Two Factor ( ユーザの二要素のリセット) ] をクリックして確定します。

**注:** 二要素がリセットされると、2FA が無効になります。

- **確認メールの再送信:** 追加されたが確認されていないユーザに対して、このオプションが表示されます。選択されたユーザのドロップダウンリストから [Resend Verification Email ( 確認メールの再送信) ] をクリックします。確認メッセージによって、選択されたユーザの電子メール ID に対して電子メールが送信されたことが通知されます。
- **ユーザの追加:** [ユーザ アカウント]画面 から、オプションをクリックしてユーザを追加します。詳細については、「[ユーザを追加する方法](#)」を参照してください。

## ユーザを追加する方法

[ユーザ アカウント]画面から、新しいユーザを追加して役割を割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. [ユーザの追加]をクリックします。  
[ユーザの追加]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 以下の詳細を入力します。
  - **名および姓:** ユーザの氏名を入力します。
  - **電子メール アドレス:** ユーザの電子メール アドレスを入力します。電子メール アドレスは他のユーザに再利用できません。確認メールは指定された電子メール ID に送信されます。確認するため、新しいユーザは、指定された電子メール アドレスに送信されたアクティベーションリンクをクリックする必要があります。確認の成功後、ユーザは役割に割り当てられ、その後ユーザのみがアクションを実行できます。確認メールで共有されたアクティベーションリンクをクリックしてパスワードを作成しない場合、ユーザは未確認のままとなり、クラウド コンソールにログインできません。
  - **役割:** 新しいユーザを割り当てる役割を選択します。たとえば、[管理]などです。
3. [ユーザの追加]をクリックします。  
[ユーザの追加]ダイアログ ボックスが閉じられ、[ユーザ アカウント]画面に新しいユーザが表示されます。

---

## 役割の管理

「役割」画面から、アクティブな役割の詳細を表示できます。

### 主要なハイライト:

- 役割に割り当てられた権限を表示するには、役割の名前を展開します。
- 役割が割り当てられたユーザ数を表示します。
- 役割の説明を表示します。

## 資格の設定

Arcserve® Business Continuity Cloud では、コンソールから直接、資格を管理できます。[Entitlements (資格)]をクリックすると、アカウントのサマリ、Arcserve Cloud および Hybrid の資格などの詳細が表示されます。

### Cloud Direct のトライアル期間：

- Cloud Direct のトライアル期間は 15 日間です。トライアル期間が終了すると、すべての Cloud Direct ポリシーが無効化され、バックアップが実行されなくなります。
- トライアル有効期限の 30 日後、組織の Cloud Direct リソース(ソース、デステイネーション、ポリシーなど)がコンソールから削除されます。

### Cloud Hybrid のトライアル期間：

- Cloud Hybrid のトライアル期間は 15 日間です。トライアル期間が終了すると、すべての Cloud Hybrid ポリシーが無効化され、バックアップが実行されなくなります。
- トライアル有効期限の 30 日後、組織の Cloud Hybrid リソース(ソース、デステイネーション、ポリシーなど)がコンソールから削除されます。

画面から、新しいオーダーを有効化することもできます。

以下の手順に従います。

1. [Entitlements (資格)]画面から、**新しいオーダーの有効化**]をクリックします。  
新しいオーダーの有効化]ダイアログボックスが表示されます。
2. [オーダーID]および [フルフィルメント番号]を入力します。  
両方の詳細は同じオーダーに属している必要があります。
3. [アクティブ化]をクリックします。  
確認ダイアログボックスによってステータスが提供されます。

## 組織ブランディングの設定

ブランディングによって、顧客が一般的に必要な組織の詳細をカスタマイズできます。たとえば、ログイン時に表示される電子メール、法的な連絡先、およびブランディングメッセージの更新などです。

以下の手順に従います。

1. Arcserve® Business Continuity Cloud から、**[Branding]**をクリックします。  
タブが3つある**[Branding]**画面が表示されます。
2. 利用可能なオプションを追加または更新するには、**[ブランド]**タブをクリックします。例：
  - 組織の**[名前]**と**[ポータル URL/ホスト名]**に関する説明を指定します。
  - **[ロゴおよび色]**を選択します。  
**注：**ロゴはブランドページに表示されます。デフォルトロゴは Arcserve のロゴです。**[プライマリカラー]**および**[セカンダリカラー]**はコンソールの境界線を示します。
3. 組織の詳細、サポート番号、ソーシャルメディアリンク、サポート電子メール、問い合わせ先などの法的な詳細、注意、プライバシー、および著作権情報を設定するには、タブ**[電子メール]**をクリックします。
4. **[変更の保存]**をクリックします。  
ログインタブは、**[ポータル URL/ホスト名]**が確認されている場合にのみ有効です。
5. ロゴを更新したり、既存のロゴを使用したりするには、タブ**[ログイン]**をクリックします。ログインページに表示される**[ブランディングメッセージ]**も指定できます。  
**注：****[ログイン]**タブは、タブ**[ブランド]**の**[ポータル URL]**が指定されている場合にのみ表示されます。
6. **[ログイン]**タブで詳細を更新したら、**[変更の保存]**をクリックします。  
ブランディング詳細が更新されました。



---

## 5 章: MSP アカウント管理者としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用

MSP アカウント管理者は、MSP ベースの組織の Arcserve® Business Continuity Cloud を管理します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">Dashboard</a>	146
<a href="#">モニタ</a>	147
<a href="#">保護</a>	149
<a href="#">分析</a>	152

## Dashboard

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタ機能の複数の一般的なオプションと詳細を確認できるコンソールダッシュボードが表示されます。ダッシュボードから、パスワードの変更、ユーザ詳細の更新、サポートへの連絡に関する詳細の確認、重要なメッセージの表示、ログアウトが可能です。

ダッシュボードには、以下のオプションがあります。

- **Arcserve アイコン:** 左上にある Arcserve アイコンをクリックすると、コンソールのどこからでもダッシュボードに戻ることができます。
- **ヘルプ アイコン:** 右上のヘルプアイコンを使用すると、Arcserve に連絡するための複数のオプションを選択したり、コンソールのオンラインヘルプを表示したりできる **[サポート]** ページが表示されます。
- **アラートアイコン:** 右上のエクスクラメーションマークでは、考慮事項に関するコンソールからのメッセージが表示されます。メッセージは、**[クリティカル]**、**[警告]**、または **[情報]** として分類されます。メッセージを確認し、必要に応じてアクションを実行できます。詳細については、「[アラートを管理する方法](#)」を参照してください。
- **ユーザ ログインアイコン:** 右上のアイコンには、ログインしたユーザのプロファイル画像が表示されます。アイコンでは、クラウドコンソールからログアウトするオプション、およびログインしたユーザのユーザプロファイルを更新するオプションが提供されます。

[ユーザプロファイル]を使用すると、以下の2つの更新を実行できます。

- **連絡先情報の更新:** **[My Profile (マイプロファイル)]** 画面から、連絡先詳細を更新し、写真をアップロードできます。更新後、**[変更の保存]** をクリックします。
- **パスワードの変更:** 新しいパスワードを指定し、**[パスワードの更新]** をクリックします。
- **二要素認証:** 現在のパスワードを入力し、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ 二要素認証を有効にするには、**[[Enable Two Factor Authentication \(二要素認証の有効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素認証を無効にするには、**[[Disable Two Factor Authentication \(二要素認証の無効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素コードを生成するには、**[[Generate Two Factor Codes \(二要素コードの生成\)](#)]** をクリックします。

## モニタ

MSP アカウント管理者は、[顧客のサマリ]、顧客全体の [使用状況のサマリ]、顧客全体の [ソースのサマリ]を表示できます。

- **サマリの表示:** モニタに組織の顧客、使用状況、ソースのサマリが表示されます。
  - ◆ **顧客のサマリ:** 合計顧客数と、前回のバックアップのジョブ結果に基づいてステータスが [失敗]および [成功]の顧客の数が表示されます。
  - ◆ **顧客全体の使用状況のサマリ:** Cloud Direct または Cloud Hybrid のライセンス容量に従って、顧客の使用状況のサマリが表示されます。
  - ◆ **顧客全体のソースのサマリ:** ステータスに従って、すべての顧客のソースの数が表示されます。たとえば、保護済み、保護されていない、およびオフラインなどです。

**注:** ハイパーリンクされたステータスのテキストをクリックすると、それぞれの詳細画面に直接移動できます。たとえば、[ソースのサマリ]から、[保護済み]をクリックすると、保護されているソースのリストが表示される [ソース]画面に移動できます。

- **グラフとして詳細を表示:** 主要な詳細をより詳細にモニタリングするため、モニタによって複数のフィールドのグラフィカルなビューが表示されます。例:
  - ◆ **バックアップジョブのサマリ:** [完了]、[キャンセル]、[失敗]ステータスの過去 24 時間のバックアップジョブの数が表示されます。グラフにマウスポインタを置くと、各ステータスの割合が表示されます。
  - ◆ **進行中の最新 10 件のジョブ:** 進行中の最新の 10 件のジョブが表示されます。すべての進捗中ジョブに対してログの表示またはジョブのキャンセルアクションがサポートされています。[View all jobs (すべてのジョブを表示)]リンクをクリックすると、[ジョブ]画面が表示されます。
  - ◆ **トップ 10 のソース:** 特定の条件ごとに上位 10 件のジョブが表示されます。選択された [バックアップジョブステータス]、[イベント]、[Job Durations (ジョブ期間)]、および [転送データ]がサポートされます。
  - ◆ **トップ 10 ポリシー:** 上位 10 件のポリシーが表示されます。これは [完了]、[失敗]、[キャンセル]、または [アクティブ]のジョブステータスでグループ化されます。
  - ◆ **Cloud Direct ボリュームの使用トレンド:** フルバックアップデータごとの Cloud Direct ボリュームの使用トレンドが表示されます。これはボリューム名でグループ化されます。

- ◆ **Cloud Hybrid ストアの使用トレンド:** Cloud Hybrid ストアの使用トレンドが表示されます。これは Cloud Hybrid ストア名でグループ化されます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリ:** Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリが表示されます。これは、[処理データ]、[転送データ]、または [書き込みデータ]に従ってグループ化されます。
- ◆ **Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンド:** Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンドが表示されます。これはソースデータまたはデデュープ節約サイズでグループ化されます。
- **Cloud Hybrid 詳細の表示:** Cloud Hybrid ストアの使用状況のトレンドとデデュープ節約トレンドが表示されます。詳細を表示するには、グラフにマウスポインタを置きます。
- **ウィジェットの展開または折りたたみ:** 表示されたウィジェットの上にあるアイコンを使用して、展開または折りたたみます。
- **トップ 10 の顧客の表示:** トップ 10 の顧客の詳細をモニタするのに役立ちます。

---

## 保護

MSP アカウント管理者は、サブ組織の顧客アカウントを保護できます。

- [顧客アカウントの検索、表示、複数のアクションの実行](#)
- [顧客アカウントを変更する方法](#)

注:

- 代理ビューでテナントに対する二要素認証 (2FA) の要件を有効にする場合は、「[代理ビューによる2FAの要件の有効化](#)」を参照してください。
- 代理ビューでテナントに対する二要素認証 (2FA) の要件を無効にする場合は、「[組織レベルでの2FAの要件の有効化](#)」を参照してください。

## 顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクションを実行する方法

顧客アカウント画面では、複数のオプションが提供されます。たとえば、詳細の表示、顧客アカウントの変更、および複数のアクションの実行などです。

**アカウントの検索：**検索バーから、顧客の名前を使用して顧客アカウントを検索します。

**アカウント詳細の表示：**顧客アカウント画面には、利用可能なすべての顧客アカウントのリストが表示されます。各アカウントについて、顧客名、ステータス、アカウントの状態、合計ソース、製品使用状況、追加者、追加日などの詳細を表示します。

**アカウント数の表示：**ページの右上の **[合計顧客アカウント数]**には、追加された顧客アカウントの数が表示されます。

**停止中のアカウント数の表示：**ページの右上の **[停止中の合計顧客アカウント数]**には、停止中の顧客アカウントの数が表示されます。

**複数のアクションの実行：**すべてのアカウントの最後にはアクションのドロップダウンがあります。ドロップダウンオプションから、以下のオプションのいずれかを選択できます。

- **使用しきい値の設定：** **[使用しきい値の設定]**ダイアログボックスで特定の顧客アカウントの使用のしきい値を設定します。使用しきい値を選択し、**[保存]**をクリックします。制限はTB、GB、PBで選択できます。
- **エンドユーザー管理者として表示：**顧客アカウントの名前の前に配置されているアイコンを使用するか、ドロップダウンオプションから、これをクリックして、役割を切り替えて顧客アカウントを表示します。
- **一時停止：** MSP アカウント管理者は、顧客アカウントを一時停止できます。一時停止するには、**[アクション]**ドロップダウンリストから **[有効化]**をクリックします。詳細については、「[組織の一時停止](#)」を参照してください。
- **有効化：** MSP アカウント管理者は、顧客アカウントを再開できます。再開するには、**[アクション]**ドロップダウンリストから **[有効化]**をクリックします。詳細については、「[組織の有効化](#)」を参照してください。

---

## 顧客アカウントを変更する方法

MSP アカウント管理者は顧客アカウントを変更できます。管理者は顧客アカウント関連の詳細を変更できますが、顧客アカウントから管理者の割り当てを解除することはできません。

以下の手順に従います。

1. [Customer Accounts (顧客アカウント)]ダッシュボードから、顧客アカウントの名前をクリックします。  
[情報]と[メトリクス]の2つのタブがある顧客アカウントの画面が表示されます。
2. [情報]タブで、顧客の名前を変更し、画面の上部の [変更の保存] をクリックします。
3. [メトリクス]タブから期間を変更します。  
期間を示すそれぞれのドロップダウンからさまざまな期間を選択できます。

## 分析

MSP アカウント管理者は、ジョブおよびログを分析できます。

[ジョブの分析](#)

[ログの分析](#)

## ジョブの分析

カスタマイズできる詳細を含むジョブの完全なリストが表示されます。

### 主要なハイライト

- 検索バーは、選択したフィルタに従ってジョブを検索するのに役立ちます。たとえば、ステータス、ジョブの種類、日付範囲、または保護ポリシーなどです。
- 今後使用するためにも、検索を保存できます。
- **[Manage Saved Search (保存した検索の管理)]** オプションを使用すると、保存している場合、検索を管理できます。詳細については、[「保存した検索を管理する方法」](#)を参照してください。
- すべてのジョブには、**[設定]** アイコンを使用することでカスタマイズできる詳細が表示されます。ジョブはステータスに基づいて複数のカテゴリに分割されます。たとえば、進行中のジョブ、失敗したジョブ、キャンセルされたジョブ、成功したジョブです。
- ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。ソースの画面の **[ジョブ]** タブからジョブの説明を表示することもできます。
- すべてのジョブで、**ログを表示** できます。ジョブのすべての行の最後にあるドロップダウン オプションをクリックすると、そのジョブのログが表示されます。
- 進行中のジョブを**キャンセル**することもできます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法](#)

## ログの分析

[ログ]タブには、保護済みノード、デステイネーションサーバ、データストアおよびポリシーのすべてのアクティビティログが表示されます。ログを表示して、重大度、マシンから生成されたログ、ジョブの種類、ログコンテンツなどさまざまなフィルタを適用できます。ログをエクスポートすることもできます。メッセージIDは、詳細なドキュメントにアクセスするためのハイパーリンクを提供します。MessageID列のハイパーリンクをクリックすると、そのメッセージの説明と解決策が表示されます。[ログ]画面では、レプリケーション(イン)ジョブのメッセージIDのみが表示されます。

**ログのエクスポート:** [ログ]画面から、ログを受信トレイにエクスポートできます。

[ログ]画面の上部の[エクスポート]をクリックすると、登録されている電子メールIDにログが送信されます。受信トレイで、受信トレイで、「ログのエクスポート」という件名のArcserveクラウドサポートからの電子メールを探し、**Download Export (エクスポートのダウンロード)**をクリックし、.csvファイルとしてダウンロードします。

**ログの検索:** 利用可能なフィルタの組み合わせ、および以下のいずれかのオプションを使用するか、**検索**をクリックして、アクティビティログを検索できます。

- **重大度**タイプを選択して、選択したタイプに関連するすべてのログを表示します。
- **ジョブの種類**を選択します。
- **日付範囲**を選択します。
- **生成元**の場所を選択します。
- **検索**ボックスにメッセージの語句を入力します。

---

## 6 章: エンドユーザ管理者としての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用

エンドユーザ管理者は、MSP のエンドユーザの Arcserve® Business Continuity Cloud を管理します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">ユーザプロフィール</a> .....	156
<a href="#">モニタ</a> .....	157
<a href="#">保護</a> .....	159
<a href="#">分析</a> .....	195
<a href="#">設定</a> .....	210

## ユーザープロフィール

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタ機能の複数の一般的なオプションと詳細を確認できるコンソールダッシュボードが表示されます。ダッシュボードから、パスワードの変更、ユーザー詳細の更新、サポートへの連絡に関する詳細の確認、重要なメッセージの表示、ログアウトが可能です。

ダッシュボードには、以下のオプションがあります。

- **Arcserve アイコン:** 左上にある Arcserve アイコンをクリックすると、コンソールのどこからでもダッシュボードに戻ることができます。
- **ヘルプアイコン:** 右上のヘルプアイコンを使用すると、Arcserve に連絡するための複数のオプションを選択したり、コンソールのオンラインヘルプを表示したりできる [サポート] ページが表示されます。
- **アラートアイコン:** 右上のエクスクラメーションマークでは、考慮事項に関するコンソールからのメッセージが表示されます。メッセージは、**[クリティカル]**、**[警告]**、または **[情報]** として分類されます。メッセージを確認し、必要に応じてアクションを実行できます。詳細については、「[アラートを管理する方法](#)」を参照してください。
- **ユーザーログインアイコン:** 右上のアイコンには、ログインしたユーザーのプロファイル画像が表示されます。アイコンでは、クラウドコンソールからログアウトするオプション、およびログインしたユーザーのユーザープロフィールを更新するオプションが提供されます。

[ユーザープロフィール]を使用すると、以下の2つの更新を実行できます。

- **連絡先情報の更新:** **[My Profile (マイプロフィール)]** 画面から、連絡先詳細を更新し、写真をアップロードできます。更新後、**[変更の保存]** をクリックします。
- **パスワードの変更:** 新しいパスワードを指定し、**[パスワードの更新]** をクリックします。
- **二要素認証:** 現在のパスワードを入力し、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ 二要素認証を有効にするには、**[[Enable Two Factor Authentication \(二要素認証の有効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素認証を無効にするには、**[[Disable Two Factor Authentication \(二要素認証の無効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素コードを生成するには、**[[Generate Two Factor Codes \(二要素コードの生成\)](#)]** をクリックします。

## モニタ

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタが複数のウィザードを使用して製品の詳細を表示するコンソールダッシュボードが表示されます。モニタから、以下のオプションを実行できます。

- **サマリの表示:** モニタによって、組織の [ソースのサマリ]、[使用状況のサマリ]、[ポリシーのサマリ]が表示されます。
  - ◆ **ソースのサマリ:** 前回のバックアップジョブの結果に基づいて、合計ソース数と、[保護済み]、[オフライン]、[Unprotected (未保護)]ステータスのソースの数が表示されます。
  - ◆ **使用状況のサマリ:** Cloud Direct ボリュームおよび Cloud Hybrid ストアの使用状況のサマリが表示されます。
  - ◆ **ポリシーのサマリ:** 合計ポリシー数と、[成功]、[展開]、[失敗]または [無効]のステータスのポリシーの数が表示されます。

**注:** ハイパーリンクされたステータスのテキストをクリックすると、それぞれの詳細画面に直接移動できます。たとえば、[ソースのサマリ]から、[保護済み]をクリックすると、保護されているソースのリストが表示される [ソース]画面に移動できます。

- **グラフとして詳細を表示:** 主要な詳細をより詳細にモニタリングするため、モニタによって複数のフィールドのグラフィカルなビューが表示されます。例:
  - ◆ **バックアップジョブのサマリ:** [完了]、[キャンセル]、[失敗]ステータスの過去 24 時間のバックアップジョブの数が表示されます。グラフにマウスポインタを置くと、各ステータスの割合が表示されます。
  - ◆ **進行中の最新 10 件のジョブ:** 進行中の最新の 10 件のジョブが表示されます。すべての進捗中ジョブに対してログの表示またはジョブのキャンセルアクションがサポートされています。[View all jobs (すべてのジョブを表示)]リンクをクリックすると、[ジョブ]画面が表示されます。
  - ◆ **トップ 10 のソース:** 特定の条件ごとに上位 10 件のジョブが表示されます。選択された [バックアップジョブステータス]、[イベント]、[Job Durations (ジョブ期間)]、および [転送データ]がサポートされます。
  - ◆ **トップ 10 ポリシー:** 上位 10 件のポリシーが表示されます。これは [完了]、[失敗]、[キャンセル]、または [アクティブ]のジョブステータスでグループ化されます。
  - ◆ **Cloud Direct ボリュームの使用トレンド:** フルバックアップデータごとの Cloud Direct ボリュームの使用トレンドが表示されます。これはボリューム名でグループ化されます。

- ◆ **Cloud Hybrid ストアの使用トレンド:** Cloud Hybrid ストアの使用トレンドが表示されます。これは Cloud Hybrid ストア名でグループ化されます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリ:** Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリが表示されます。これは、[処理データ]、[転送データ]、または [書き込みデータ]に従ってグループ化されます。
- ◆ **Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンド:** Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンドが表示されます。これはソースデータまたはデデュープ節約サイズでグループ化されます。
- **Cloud Hybrid 詳細の表示:** Cloud Hybrid ストアの使用状況のトレンドとデデュープ節約トレンドが表示されます。詳細を表示するには、グラフにマウスポインタを置きます。
- **ウィジェットの展開または折りたたみ:** 表示されたウィジェットの上にあるアイコンを使用して、展開または折りたたみます。

---

## 保護

コンソールを使用すると、ソース、復旧されたリソース、デスティネーション、およびポリシーを保護できます。

### 次のトピック

- [ソースの保護](#)
- [復旧されたリソースの保護](#)
- [デスティネーションの保護](#)
- [ポリシーの保護](#)

## ソースの保護

[ソース]オプションを使用すると、ソースを追加したり、既存のソースを保護したりできます。ノードとは、保護の対象となる物理ソースマシン、またはハイパーバイザ上のエージェントレス仮想ソースマシンのことです。データをデスティネーションにバックアップすることにより、ノードを保護できます。[ソース]画面から、複数のオプションを実行できます。例：

- **最小化されたソース画面の最大化：** 上部のアイコン  をクリックすると、[ソース]画面が最大化され、デフォルトの最小化サイズになります。
- **既存ソースの表示：** [ソース]画面には、設定で定義した詳細を持つ利用可能なすべてのソースが表示されます。
- **設定の定義：** アイコン  をクリックして、ソースの詳細に表示するオプションを定義します。表示されたリストから、ソースに表示するオプションを選択します。
- **ソースの検索：** 追加したソースを検索するための複数のオプションが提供されます。
- **検索の保存：** 検索結果に名前を付けて、今後の参照用に一意の名前で保存できます。
- **保存した検索の管理：** 保存済みのすべての検索を表示し、グループに集合的なアクションを実行できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。
- **アクション：** [ソース]画面から、ソースに対してグローバルまたは個別のアクションを実行できます。グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。
  - グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。
    - ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
    - ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
    - ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
    - ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
    - ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- **Cloud Direct エージェントのダウンロード：** ソースを追加する必要があるエージェントをダウンロードできます。

- **ソースの追加**: 新しいソースを追加できます。ソースを追加する前に、エージェントをダウンロードする必要があります。

## 既存のソースの表示

[ソース]画面から、以前追加したソースの完全なリストを表示できます。すべてのソースで、複数の詳細が表示されます。最後にある種類、ソース名、およびアクション ドロップダウン リストはデフォルト オプションです。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法](#)

要件に従って、詳細フィールドに表示する他のオプションを選択できます。カスタマイズするには、**設定** アイコン  をクリックします。

ソースに表示される詳細のいくつかは以下のとおりです。

- **種類:** ソースの種類を示します。ソースはマシンまたはマシン上のノードです。
- **名前:** ソースの名前を示します。名前をクリックすると、ソースの詳細を表示できます。ソースの画面から、ソースに対して複数のアクションを実行できます。詳細については、「[ソースの表示](#)」を参照してください。
- **OS:** ソースのオペレーティング システムを示します。オペレーティング システムは、Windows、Linux、または Mac です。
- **ステータス:** ソースの現在のステータスを示します。ソースは保護されているか、保護されていません。
- **接続:** インターネットへの接続に基づいて、ソースのオンラインまたはオフラインステータスを示します。
- **最新の復旧ポイント:** 最後の復旧の日時が表示されます。
- **最新のジョブ:** 最近実行されたジョブの名前またはジョブの数を表示します。
- **ポリシー:** ソースに割り当てられたポリシーの名前を表示します。
- **ソースグループ:** グループの名前またはソースに割り当てられたグループの数を表示します。
- **VM 名:** ソースの VM の名前を表示します。
- **エージェント:** ソースにリンクされたエージェントの名前を表示します。

- 
- **組織:** ソースに割り当てられた組織の名前を示します。
  - **ハイパーバイザ:** ソースのハイパーバイザの名前を示します。
  - **アクションのドロップダウン オプション:** ソースの詳細の最後にあるドロップダウン オプションを使用すると、1 つのソースに対して複数のアクションを実行できます。このオプションは 1 つのソースにのみ適用されます。 [Cloud Direct](#) および [Cloud Hybrid](#) の個別のアクションの詳細と前提条件が表示されます。

## ソースの検索

複数のフィルタを使用してソースを検索できます。検索するには、直接名前を入力して検索をクリックするか、[検索]ボックスにあるドロップダウン矢印をクリックして1つ以上のフィルタを選択し、**検索**をクリックできます。

ソースに利用可能な検索フィルタは以下のとおりです。

- **保護ステータス:** ソースの現在のステータスを示します。ソースは保護されているか、保護されていません。
- **接続ステータス:** インターネットへの接続に基づいて、ソースのオンラインまたはオフラインステータスを示します。
- **ジョブステータス:** ソースのジョブステータスを示します。ステータスは以下のいずれかです: 進行中、完了、キャンセル、失敗、警告、スキップ、停止。
- **OS:** ソースのオペレーティングシステムの **[タイプ]**を示します。オペレーティングシステムは、Windows、Linux、または Mac です。
- **ソースグループ:** 選択できるグループの名前を示します。
- **保護ポリシー:** 選択できるポリシーの名前を示します。

結果と共に検索を保存することもできます。詳細については、「[検索の保存](#)」を参照してください。

## 検索の保存

検索を実行しました。結果が表示された後、今後の参照用に結果と検索を保持したいとします。どのようにすればよいでしょうか。

Arcserve® Business Continuity Cloud では、何度の検索する労力が削減されます。コンソールから、一意の名前で検索結果を保存できます。検索を実行すると、画面に検索結果が表示され、**次の検索結果:** オプションの **検索** ボックスの下に検索語が表示されます。検索語を **すべてクリア** するか、**検索の保存** を選択できます。

保存するには、**検索の保存** をクリックします。**検索の保存** のダイアログボックスが表示されます。**検索名の保存** ボックスに一意の名前を入力し、**検索の保存** をクリックします。アクションが成功したことを確認するメッセージが表示されます。常に **検索の保存** の前に保存した検索名が表示されます。名前をクリックすると、後で検索を繰り返す必要なく、結果を表示できます。

**Manage Saved Search (保存した検索の管理)** を使用して、保存した検索を後から削除または更新できます。

## ソースに対するグローバルアクションの実行

[ソース]画面から、1つ以上のソースに対して複数のアクションを同時に実行できます。1つ以上のソースのチェックボックスを選択し、画面上部の [アクション] のドロップダウン オプションをクリックするだけです。選択したオプションには選択したソースの数が表示されます。

ドロップダウン リストから、選択したソースに対して以下のアクションを実行できます。

- **バックアップの開始:** クリックすると、選択したすべてのソースのバックアップが開始されます。
- **バックアップのキャンセル:** クリックすると、選択したすべてのソースのバックアップがキャンセルされます。
- **ポリシーの割り当て:** クリックすると、選択したすべてのソースに同じポリシーが割り当てられます。[ポリシーの割り当て] のダイアログ ボックスから、割り当てるポリシーを選択し、**確認** をクリックします。
- **ポリシーの削除:** クリックすると、選択したすべてのソースからポリシーが同時に削除されます。
- **削除:** クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

これらの集合的なアクションとは別に、特定のソースに対する個別のアクションを実行することもできます。詳細については、「[ソースに対する個別のアクションの実行](#)」を参照してください。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

## ソースに対する個別のアクションの実行

[ソース]画面から、特定のソースに対する個別のアクションを実行できます。ソースの最後にあるドロップダウン矢印を選択し、表示されたアクションのリストから目的のオプションを選択するだけです。

ドロップダウン リストから、ソースに対して以下のアクションを実行できます。

- **バックアップの開始:** クリックすると、ソースのバックアップが開始されます。
- **バックアップのキャンセル:** クリックすると、ソースのバックアップがキャンセルされます。
- **復旧の開始:** クリックすると、ソースの復旧が開始されます。
- **ポリシーの割り当て:** クリックすると、ソースにポリシーが割り当てられます。  
[ポリシーの割り当て]のダイアログ ボックスから、割り当てるポリシーを選択し、**[確認]**をクリックします。
- **ポリシーの削除:** クリックすると、ソースからポリシーが削除されます。
- **削除:** クリックすると、コンソールからソースが削除されます。
- **レプリケーション(イン)のキャンセル:** クリックすると、ソースのスケジュール済みのレプリケーションがキャンセルされます。
- **ポリシーの展開:** ソースを選択し、コンテキストアクション メニューから **[展開]**をクリックして、選択したソースのポリシー設定を展開します。

**注:** 一時停止された組織に対しては、以下のアクションは表示されません。

- ◆ バックアップの開始
- ◆ ポリシーの割り当て
- ◆ ポリシーの削除
- ◆ ポリシーの展開
- ◆ レプリケーション(イン)のキャンセル

これらの個別のアクションとは別に、複数のソースに対して同時にグローバルアクションを実行することもできます。詳細については、「[ソースに対するグローバルアクションの実行](#)」を参照してください。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

---

## Cloud Direct エージェントのダウンロード

**重要:** トライアル組織の場合、[モニタ]ページまたは[資格]ページから証跡がアクティブ化されると、[Cloud Direct エージェントのダウンロード]ボタンが使用できるようになります。

Windows、Linux、および Mac オペレーティング システムからソースを追加するオプションを使用します。選択された操作タイプについて、64 ビットまたは 32 ビットのシステムタイプを選択することもできます。ダウンロード後、エージェントの展開を完了させ、Arcserve® Business Continuity Cloud について設定する必要があります。詳細については、この[リンク](#)をクリックしてください。

**注:** [Download Cloud Direct Agent ( Cloud Direct エージェントのダウンロード) ]画面で仮想アプライアンスに使用される .OVA ファイルをダウンロードすることもできます。

## ソースの追加

ソースを追加する前に、エージェントをダウンロードする必要があります。

以下の手順に従います。

1. [ソース]画面で、[ソースの追加]をクリックします。  
ダウンロードしたエージェントが表示されている [ソースの追加]画面が表示されます。
2. ハイパーバイザを選択します。  
選択したハイパーバイザで利用可能な VM のリストが表示されます。
3. 表示された VM のリストから、目的の VM を選択します。
4. **[Add Selected VMs ( 選択した VM の追加 ) ]**をクリックします。  
選択に基づいて、ソースがマシンまたはエージェントVM として追加されます。

**警告:** 各 VM が順番にバックアップされるため、単一のホストから15 を超える VM をバックアップしようとしたときに、バックアップの遅延が発生することもあります。バックアップのパフォーマンスは、主にデータの変更率、ディスクパフォーマンス、およびネットワーク帯域幅によって異なります。このような問題が発生した場合は、複数ホストを使用してください。この警告は、VMware ハイパーバイザで実行されているエージェントレスマシンにのみ関係していません。

また、既存のソースの設定を表示することもできます。詳細については、「[ソースの表示](#)」を参照してください。

## ソースの表示

ソースの画面から、既存のソースの詳細を表示できます。画面にアクセスするには、ソースの名前をクリックするだけです。ソースの詳細は 4 つのタブに分類されます。

- **情報:** このタブでは一般的な情報が提供され、ソースに対して個別のアクションを実行できます。また、このタブでは、エージェントのハイパーリンク化された名前をクリックすると、エージェントをダウンロードすることもできます。[アクション] ドロップダウン オプションを使用して、ソースに対してすべての個別のアクションを実行することもできます。詳細については、「[ソースに対する個別のアクションの実行](#)」を参照してください。
- **ジョブ:** ソースに関連付けられているジョブのリストが提供されます。ジョブは次のステータスに従って分類されます: 進行中のジョブ、失敗済みのジョブ、キャンセル済みのジョブ、および成功したジョブ。ジョブの名前をクリックすると、それぞれのジョブに関する情報が表示されるジョブページに移動します。ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。
- **ログ:** [ログ] タブでは、ソースのログの完全なリストが提供されます。[ログ] タブから、検索を保存せずに特定のログを検索できます。ログを .csv ファイルとしてエクスポートすることもできます。ソースのログでは、以下の情報が提供されます。
  - ◆ **日付:** ログが生成された日付を示します。
  - ◆ **重大度:** 重大度に関連する情報を示します。
  - ◆ **生成元:** ログが生成された場所を示します。
  - ◆ **ジョブの種類:** 実行されたジョブの種類を示します。
  - ◆ **メッセージ ID:** ログのメッセージについて生成された一意の ID を示します。
  - ◆ **メッセージ:** 特定のログについて提供される詳細を示します。
  - ◆ **ジョブ名:** ジョブの名前を示します。ジョブの名前をクリックすると、ジョブ詳細を表示できます。
- **復旧ポイント:** [復旧ポイント] タブには、ソースにリンクされたすべての復旧ポイントが表示されます。検索を保存せずに復旧ポイントを検索できます。[復旧ポイント] リストには以下の情報が表示されます。

- ◆ **作成日:** 復旧ポイントが作成された正確な日時を示します。
- ◆ **コンテンツ:** 復旧ポイントの場所を示します。
- ◆ **ポリシー:** ソースに関連付けられたポリシーの名前を示します。
- ◆ **デステイネーション:** 復旧ポイントのデステイネーションを示します。
- ◆ **ドロップダウン:** ドロップダウン矢印によって、復旧ポイントに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、復旧ポイントの **固定**]または **復旧**]を選択できます。

## 復旧されたリソースの保護

復旧されたリソース機能を使用すると、復旧したリソースのリストを表示できます。復旧されたリソースは、種類に従って分類されます。たとえば、復旧された VM などです。Arcserve® Business Continuity Cloud Disaster Recovery の主な利点は、災害の影響がオンプレミス環境に及んだときに、顧客がクラウド内の保護されているシステムの仮想インスタンスを実行できるようにすることです。クラウド内のサーバの仮想インスタンスの電源をオンにして、復旧サイトとしてクラウドを活用するプロセスは、多くの場合 フェールオーバーと呼ばれます。

### ソースの復旧されたリソースの作成に関する考慮事項

- ソースがマシンの場合、ソースに Cloud Direct 惨事復旧をサービスポリシーとして割り当てます。
- ソースがエージェントレス VM の場合、ハイパーバイザ ポリシー デステイネーションが惨事復旧 デステイネーションであることを確認してください。その結果、ハイパーバイザ ポリシー内のすべてのソースが復旧されたリソースとして追加されます。

### フェールオーバーについて

フェールオーバープロセスには、顧客がオンプレミス環境と同様にクラウドを活用して、重要な業務の実行を継続できるようにするために必要なすべての手順が含まれています。フェールオーバープロセスの重要な側面には、クラウド内の保護されているシステムの仮想インスタンスの電源をオンにし、復旧された環境への安全な接続を有効化することが含まれています。

### 次のトピック

- [Arcserve Business Continuity Cloud のアクティブ化](#)
- [Arcserve Business Continuity Cloud への接続](#)

## Arcserve® Business Continuity Cloud でのシステムのアクティブ化

Arcserve® Business Continuity Cloud でシステムをアクティブ化するには、以下の方法のいずれかを実行します。

- [保護]- [ソース]から、ソースを選択し、[アクション]メニューから [プロビジョニング]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。
- [保護]- [Recovered VMs (復旧した VM)]から、復旧した VM を選択し、[アクション]メニューから [プロビジョニング]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。
- [保護]- [ソース]から、ソースをクリックし、**詳細の表示**]のオプションを選択します。[ソース]ページから **復旧ポイント**]オプションをクリックし、復旧ポイントを選択して、アクション ドロップダウン オプションから **プロビジョニング**]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。
- [保護]- [デステイネーション]から、デステイネーションをクリックし、**詳細の表示**]のオプションを選択します。[デステイネーション]画面から **復旧ポイント**]オプションをクリックし、復旧ポイントを選択して、アクション ドロップダウン オプションから **プロビジョニング**]をクリックします。システムは最新の復旧ポイントから開始されます。

クラウドのシステムが正常にアクティブ化されました。これで、Arcserve® Business Continuity Cloud に[接続](#)できます。

---

## クラウドへの接続

復旧されたサーバの仮想インスタンスを活用するため、Arcserve® Business Continuity Cloud に安全に接続するために複数のオプションを使用できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

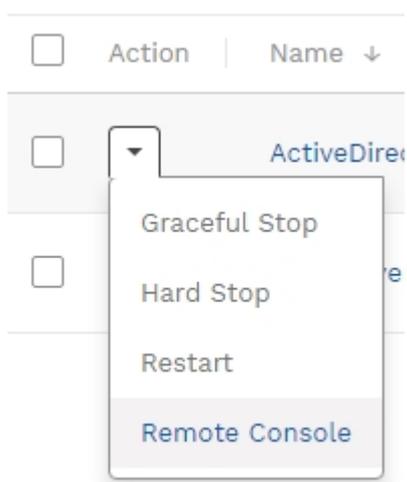
- [リモートコンソールに接続する方法](#)
- [サイトVPN に対するポイントに接続する方法](#)

## リモート コンソールに接続する方法

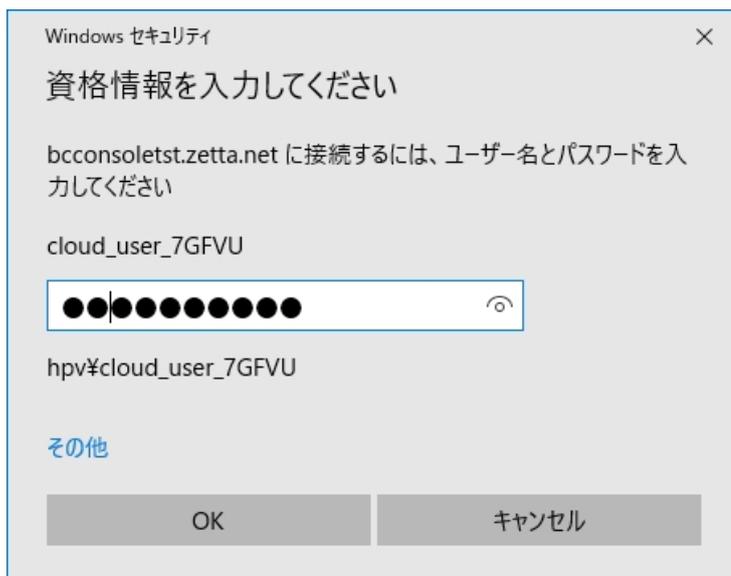
Arcserve® Business Continuity Cloud で実行されている単一の仮想インスタンスでリモート コンソールを確立できます。リモート コンソール接続を使用すると、ユーザがリモート デスクトップ プロトコルを使用して、クラウドで実行されている仮想インスタンスにアクセスできます。

**[復旧されたリソース]**ページからアクティブ化された仮想インスタンスとのリモート コンソール接続を確立するには、以下の手順を実行します。

1. アクティブ化されたシステムの **[アクション]**- **[リモート コンソール]**をクリックし、リモート デスクトップ プロトコル( .rdp) ファイルをダウンロードします。



2. リモート デスクトップ プロトコル( .rdp) ファイルを起動します。
3. RemoteApp プログラム ダイアログ ボックスの **[接続]**をクリックします。
4. Windows セキュリティダイアログ ボックスに、**[Login Credentials ( ログイン認証情報) ]**ポップアップ ウィンドウのパスワードを入力します。



5. **[OK]** をクリックし、リモート コンソール接続を開始します。Web ブラウザ ウィンドウで仮想インスタンスのログイン画面が表示されるはずです。
6. 証明書エラーが発生していても接続したいかどうかを尋ねられた場合は、**[はい]** をクリックします。
7. ブラウザ ウィンドウの上部の **Send Ctrl+Alt+Del** をクリックします。
8. リストア ポイントの時点のオンプレミスシステムの Windows 認証情報と同じ、仮想インスタンスの Windows 認証情報を入力します。

正常にリモート コンソールに接続されました。

## サイトVPN に対するポイントに接続する方法

ポイント対サイト接続により、単一のクライアントマシンとArcserve® Business Continuity Cloud の仮想プライベートデータセンターの間で安全なVPN ( virtual private network、仮想プライベートネットワーク) 接続が有効になります。このような接続を使用すると、喫茶店にいるエンドユーザがクラウド内の復旧された環境に対して安全なプライベート接続を確立できます。

**注:** エンドユーザがオンプレミス環境で利用可能なシステムに対するアクセスも必要としている場合、個別の接続が必要です。オンプレミスシステムは、「ポイント対サイト」接続を使用してクラウド内の復旧されたシステムと通信することはできません。

ポイント対サイト接続の確立に役立つ手順にアクセスするには、[設定]- [ネットワーク設定]に移動し、**説明の表示**]をクリックします。



設定 / インフラストラクチャ / ネットワーク設定

### ポイント対サイト

ローカルマシンをクラウドに接続して、アクティブなVMにアクセスします。

セッションログのダウンロード

説明の表示

---

## デステイネーションの保護

デステイネーションとは、バックアップデータを保存する場所です。デステイネーションには復旧ポイントサーバが必要です。[デステイネーション]タブを使用して、既存のデステイネーションを表示および管理します。新しいデステイネーションを追加することもできます。

- [デステイネーションの表示と管理](#)
- [デステイネーションの変更](#)

## デスティネーションの追加

**重要:** トライアル組織の場合、[モニタ]ページまたは[資格]ページからトライアルをアクティブ化した後、デスティネーションを作成できます。

デスティネーションを追加するには、サーバとして機能するデータセンターが必要です。

### 注:

- MSP (サブ組織) の顧客については、MSP/MSP アカウント管理者のみがデスティネーションを追加できます。
- Cloud Direct デスティネーションを追加するには、MSP/MSP アカウント管理者が [エンドユーザ管理者として表示] を使用して接続する必要があります。
- Arcserve UDP Cloud Hybrid のデスティネーションを追加するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

以下の手順に従います。

1. [デスティネーション]画面で、[クラウドボリュームの追加]をクリックします。  
[アカウント名]が表示された [クラウドボリュームの追加]ダイアログボックスが表示されます。
2. 以下の詳細を入力します。
  - ◆ ボリューム名: 一意の名前を入力します。
  - ◆ データセンター: 利用可能なオプションのリストから選択します。
  - ◆ 保存: 目的の保存期間を選択します。詳細については、「[保持設定を使用する方法](#)」を参照してください。
3. [クラウドボリュームの追加]をクリックします。  
デスティネーションが追加され、[デスティネーション]画面から[表示](#)または[変更](#)できます。

## デステイネーションの表示と管理

[デステイネーション]タブでは、すでに[追加済み](#)のデステイネーションを表示および管理できます。[デステイネーション]画面から、以下のアクションを実行できます。

- **デステイネーションの検索:** 検索バーを使用し、フィルタオプションを提供して、デステイネーションを検索します。今後使用するため、[検索の保存](#)も可能です。
- **デステイネーションの詳細の表示:** デステイネーションについて、表示する詳細を指定できます。[設定]アイコンを使用して、オプションを選択します。たとえば、[ストレージの使用状況]、[最新のジョブ]、[ロケーション]、[データセンターの地域]などです。
- **デステイネーションの管理:** デステイネーションを編集または削除できます。デステイネーションに割り当てられた復旧ポイントを表示することもできます。
  - ◆ **デステイネーションの編集:** デステイネーションのドロップダウンオプションから、[編集](#)]をクリックし、デステイネーションを編集します。
  - ◆ **復旧ポイントの表示:** デステイネーションのドロップダウンオプションから、[復旧ポイントの表示](#)]をクリックします。そのデステイネーションの[復旧ポイント](#)]タブから、復旧ポイントの詳細を表示できます。
  - ◆ **削除:** デステイネーションのドロップダウンオプションから、[削除](#)]をクリックします。確認のダイアログボックスが表示されます。削除するには、[確認](#)]をクリックします。

**注:** サブ組織の場合、MSP/MSP アカウント管理者のみがデステイネーションを削除できます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

デステイネーションの名前をクリックして、[容量の使用状況のトレンド](#)]を[編集](#)および表示することもできます。

## デスティネーションの変更

[デスティネーション]画面で、変更するデスティネーションの名前をクリックします。選択したデスティネーションが新しい画面に表示され、以下の3つのタブが表示されます。

- **情報:** このタブでは、一般的な情報が提供されます。[名前]を更新して**[変更の保存]**をクリックできます。以下の情報も表示できます。
  - ◆ **Cloud Direct:** [ステータス]、[地域]、[ボリュームタイプ]、[保持期間]に関する情報を表示します。

注: 保持期間は時間、週、月、日、年で分割されます。詳細については、「[保持設定を使用する方法](#)」を参照してください。
  - ◆ **Cloud Hybrid:** [ステータス]、[地域]、[同時アクティブノードの制限]、[ソース]、[デデュープによる節約]、[ポリシー]、[ストレージの使用状況]、[最新のジョブ]に関するジョブを表示します。デデュプリケーションおよび圧縮ステータスも表示できます。
- **復旧ポイント:** 復旧ポイントの検索、[復旧または固定](#)、および[ファイル/フォルダのダウンロード](#)が可能です。タブから、選択されたデスティネーションに関する以下の詳細を表示できます。
  - ◆ **作成日:** 作成の日時を示します。
  - ◆ **ソース:** 割り当てられているソースの名前を示します。
  - ◆ **コンテンツ:** データの場所を示します。
- **メトリクス:** デスティネーションの**[容量の使用状況のトレンド]**を表示できます。レポートを表示する日数を選択できます。レポートでは、フルバックアップデータのプライマリおよびスナップショットに分割された情報が提供されません。

## ポリシーの保護

ポリシーとは、データを保護するために作成されたルールのセットを指します。ポリシーの追加には、データを保護するデスティネーションとスケジュールの設定が必要です。

コンソールのポリシー機能を使用して、ソースに割り当てられたポリシーを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索して保存:** 複数のフィルタを使用してポリシーを検索することができます。検索するには、直接ポリシー名を入力して検索をクリックするか、**[検索]**ボックスにあるドロップダウン矢印をクリックして1つ以上のフィルタを選択し、**[検索]**をクリックできます。結果と共に検索を保存することもできます。詳細については、「[検索の保存](#)」を参照してください。
- **ポリシー詳細の表示:** ポリシー画面から、以下の詳細と共に、利用可能なポリシーのリストを表示できます。
  - ◆ **ステータス:** 展開、無効、成功、失敗などのポリシーの現在のステータスを示します。
  - ◆ **保護されたソース:** ポリシーを使用している保護されたソースの数を示します。
  - ◆ **保護されていないソース:** ポリシーを使用している保護されていないソースの数を示します。
  - ◆ **ソースグループ:** ポリシーを使用しているソースグループの名前または数を示します。
  - ◆ **最新のジョブ:** 日時と共に最新のジョブのタイプを示します。ジョブの種類をクリックすると、ジョブ詳細を表示できます。
  - ◆ **説明:** 関連する詳細を示すフィールドを示します。
  - ◆ **ポリシータイプ:** 作成したポリシーのタイプ( Cloud Direct BaaS、Cloud Direct DRaaS、Cloud Hybrid Replication、Cloud Direct Agentless など)が表示されるフィールドを参照します。
  - ◆ **ドロップダウン:** オプションを使用して、ポリシーに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、削除や修正です。
- **ポリシーの変更:** ポリシーを変更するには、個々のアクションとして利用可能な **[変更]** オプションを使用するか、ポリシーの名前をクリックし、ポリシー画面でポリシーの詳細を変更します。任意の保護タイプの利用可能なすべてのポリシーを変更できます。

- **ポリシーの削除:** ポリシーを選択し、[アクション]メニューから **削除**]をクリックしてポリシーを削除します。
- **ポリシーの展開:** ソースを選択し、コンテキストアクションメニューから **展開**]をクリックして、選択したソースのポリシー設定を展開します。
- **ポリシーの追加:** [ポリシー]画面で、新しいポリシーを作成できます。ハイパーバイザについてはポリシーを追加できません。

ポリシーを追加するには、以下のオプションを表示します。

- ◆ [Cloud Direct バックアップ用のポリシーの追加](#)
- ◆ [Cloud Direct 惨事復旧用のポリシーの追加](#)
- ◆ [Cloud Hybrid レプリケーション用のポリシーの追加](#)
- **ポリシーの有効化:** ポリシーを有効にするには、[ポリシー]画面の [アクション]ドロップダウンリストから **有効化**]をクリックします。詳細については、「[ポリシーの有効化](#)」を参照してください。
- **ポリシーの無効化:** ポリシーを無効にするには、[ポリシー]画面の [アクション]ドロップダウンリストから **無効化**]をクリックします。詳細については、「[ポリシーの無効化](#)」を参照してください。
- **グローバルアクション:** 複数のポリシーを選択し、上部の [アクション]ドロップダウン矢印をクリックします。表示されたオプションから、選択されたポリシーに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、**削除**]をクリックしてすべてのポリシーを削除します。
- **個々のアクション:** ポリシーのドロップダウン矢印をクリックし、表示されたオプションから、選択されたポリシーに対して複数のアクションを実行できます。たとえば、**削除**]をクリックしてポリシーを削除するか、**編集**]をクリックして既存のポリシーの詳細を変更します。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

## Cloud Direct バックアップ用のポリシーの追加

**重要:** 最初のポリシーは、デフォルトで Direct バックアップの登録に追加されます。後でポリシーを変更したり、新しいポリシーを追加したりできます。

注:

- トライアル組織の場合、デフォルトポリシーとデスティネーションは、[モニタ] ページまたは [資格] ページからトライアルがアクティブ化されたときに使用できます。
- 組織が一時停止された場合、**Cloud Direct バックアップ用のポリシーの追加**は機能しません。

Cloud Direct バックアップのポリシーの追加には、複数の手順が含まれます。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある [ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ **基本情報**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ **保護タイプ**]として、Cloud Direct バックアップを選択します。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。
3. ソースを割り当てる場合は、2番目のタブ - **ソース(オプション)**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ **検索**]ボックスを使用してすでに追加されたソースから一致するソースを検索するか、直接 **ソースの選択**]をクリックして利用可能なソースを表示できます。
  - ◆ 表示されたソースのリストから、ポリシーに追加する1つ以上のソースのチェックボックスをオンにします。  
**注:** 同じオペレーティングシステムのソースを追加します。たとえば、すべて Windows または Mac または Linux とします。
  - ◆ **ソースの追加**]をクリックします。画面には追加したソースが表示されます。
4. 3つ目のタブ **デスティネーション**]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。  
アクティビティの種類、保存する場所、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。

**注:** 選択したアクティビティの種類が Cloud Direct ファイル フォルダの場合、**追加の設定** タブも表示されます。[除外]設定は、[追加の設定]にあります。

- ◆ **保護対象** タブから、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。
  - File Folder ( ファイル フォルダ )** では、Windows の場合は UNC またはローカル ドライブ パスを、Mac/Linux の場合は Linux パスを入力します。UNC パスを入力した場合、以下のオプションのいずれかを使用して、Cloud Direct エージェント オプションの実行 ユーザを UNC パスでのフル コントロールおよびビルトイン/管理者権限を持つユーザに変更します。
    - バックアップを開始し、Cloud Direct エージェントが UNC パスのマウントを試行するまで待機します。認証情報プロンプトでは、入力した認証情報が今後のバックアップのために保存されません。
    - Cloud Direct エージェントシステム トレイを右クリックし、**[ローカル設定]** をクリックします。[参照] をクリックして目的のユーザを検索し、パスワードを入力します。

**Windows イメージ** の場合は、フル システムを選択するか、1 つ以上のドライブを指定できます。フル システムで構成されたソースによって、Cloud Direct エージェントサービスが起動するたびにバックアップされるドライブのリストが更新されます。

**SQL Server** の場合は、以下のいずれかを選択します。

- **データベースから直接同期:** SQL バックアッププロバイダを使用して、SQL データベース ファイルおよびログ ファイルをローカルにステージングされた領域に書き込むことなく、クラウドにストリーミングします。
- **ステージングされたバックアップをローカルで同期:** 空き容量のあるドライブ上にステージング ディレクトリがバックアップするすべてのインスタンスのすべてのデータベースの合計サイズよりも大きいかどうかを確認します。選択されたユーザ( Cloud Direct エージェントのユーザとして実行するオプションが有効なユーザ) がバックアップするインスタンスの sysadmin 権限を持っているかどうかを確認します。デフォルトでは、Cloud Direct エージェントの実行ユーザは NT Authority\SYSTEM ユーザです。

**Exchange** の場合、Microsoft Exchange Server データベースをバックアップできます。

注：複数のアクティビティの種類が [保護対象] に一覧表示されている場合、[デスティネーションの追加] ボタンをクリックすることで、それぞれ一意のアクティビティの種類を設定できます。

- ◆ **保護する場所**] タブから、ソースを保護するデスティネーションを選択します。ローカルバックアップを作成する必要がある場合、タスク設定でまだバックアップされていないデスティネーションとしてローカルパスを入力します。

#### 主要な考慮事項：

- ポリシーのソースが Windows システムの場合、UNC パスまたはローカルドライブパスを入力できます。[Windows Image Backup (Windows イメージ バックアップ)] - [フル システム] タスクを選択する場合、フル システム タスクによってすべてのドライブがバックアップされるため、クラウドにバックアップするドライブに対してローカルバックアップを実行しないように、UNC パスを使用します。
  - ソースが Linux または Mac の場合、Linux パスを入力します。
  - タスクがファイル フォルダ以外のタスクである場合、エージェントは最初に新しいローカルコピーを作成してから古いローカルコピーを削除するため、ローカルコピーデスティネーションに 2.1 倍の空き容量があるかどうかを確認します。ファイル フォルダ タスクの場合、推奨される空き容量は、ソースパスのサイズの 1.1 倍です。
  - UNC パスを入力した場合、CD エージェントの実行ユーザを、UNC パスでのフル コントロールおよびソースシステムでのビルトイン/管理者権限を持つユーザに変更します。実行ユーザを変更するには、Cloud Direct エージェントシステム トレイを右クリックし、[ローカル設定] をクリックします。[参照] をクリックしてユーザを検索し、パスワードを入力します。バックアップを開始し、Cloud Direct エージェントが UNC パスのマウントを試行するまで待機します。認証情報プロンプトでは、入力した認証情報が今後のバックアップのために保存されます。
  - データが重複しないように、バックアップするパスまたはドライブのサブパスにローカルコピーを作成しないでください。
- ◆ **保護するタイミング**] タブでは、バックアップのスケジュールを設定できます。15 分ごと、1 時間ごと、6 時間ごと、開始時刻を指定して 1 日ごとなど、BaaS ポリシーでは複数のバックアップスケジュールを利用できます。さらに、[スロットル スケジュール](#) を追加できます。

注：CD BaaS ポリシーに対して複数のバックアップスケジュールを有効化するには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

- ◆ **追加設定** タブで、以下の操作を行います。
  - **[キャッシュの場所]**に、キャッシュが格納される場所を入力します。**[キャッシュの場所]**には、キャッシュがローカルに保存され、転送のパフォーマンスが最適化されます。これは、データセットの合計の約 1% です。ディスクの空き容量が問題の場合は、キャッシュの場所を別の場所に指定します。
  - **[バックアップ前のスクリプト]**に、バックアップジョブを実行する前に実行するスクリプトの場所を入力します。
  - (オプション) スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止するには、**[スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止します]** チェックボックスをオンにします。
  - **[バックアップ後のスクリプト]**に、バックアップが完了した後に実行するスクリプトの場所を入力します。

**[ポリシーの作成]** ボタンが有効化されます。

注：**[デステイネーションの削除]**を使用して、ポリシーからデステイネーションを削除することもできます。

5. **[ポリシーの作成]** をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが **[展開]** となって **[ポリシー]** 画面に表示されます。展開の完了後、ステータスが **[成功]** または **[失敗]** に変更されます。

## Cloud Direct 惨事復旧用のポリシーの追加

### 前提条件

- Disaster Recovery のライセンス
- DRaaS (ゼロコピー) ボリューム

注: 組織が一時停止された場合、Cloud Direct 惨事復旧用のポリシーの追加は機能しません。

Arcserve® Business Continuity Cloud のポリシーの追加には、複数の手順があります。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある [ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ **基本情報** をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ **保護タイプ**として、Cloud Direct Disaster Recovery を選択します。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。
3. ソースを割り当てる場合は、2番目のタブ - **ソース(オプション)** をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ 利用可能なソースを表示するには、**ソースの選択** をクリックします。
  - ◆ 表示されたソースのリストから、ポリシーに追加する1つ以上のソースのチェックボックスをオンにします。
  - ◆ **ソースの追加** をクリックします。

画面には追加したソースが表示されます。

4. 3つ目のタブ **デステイネーション** をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。

アクティビティの種類、保存する場所、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。

- ◆ **保護対象** タブから、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。  
Windows イメージの場合は、フルシステムまたは個々のドライブを指定できます。フルシステムで構成されたソースによって、Cloud Direct エージェントサービスが起動するたびにバックアップされるドライブのリス

トが更新されます。個々のドライブを選択する場合、ブートドライブが含まれていることを確認してください。

- ◆ **保護する場所**]タブから、ソースを保護する惨事復旧デスティネーションを選択します。**ローカルバックアップを作成**する必要がある場合、以下の考慮事項を確認してください。
  - **[Windows Image Backup ( Windows イメージ バックアップ) ]-** **[フルシステム]**タスクを選択する場合、フルシステム タスクによってポリシー内の各ソースのすべてのドライブがバックアップされるため、クラウドにバックアップするドライブに対してローカルバックアップを実行しないように、UNC パスを使用します。
  - **UNC** パスを入力した場合、**Cloud Direct エージェント オプション**の実行ユーザを、**UNC** パスでのフル コントロールおよびソースシステムでのビルトイン/管理者権限を持つユーザに変更します。実行ユーザを変更するには、**Cloud Direct エージェントシステム**トレイを右クリックし、**[ローカル設定]**をクリックします。**[参照]**をクリックして目的のユーザを検索し、パスワードを入力します。別のオプションとして、バックアップを開始し、**Cloud Direct エージェント**が **UNC** パスのマウントを試行するまで待機することもできます。認証情報プロンプトでは、入力した認証情報が今後のバックアップのために保存されます。
  - エージェントは最初に新しいローカル コピーを作成してから古いローカル コピーを削除するため、ローカル コピーデスティネーションに **2.1 倍**の空き容量があるかどうかを確認します。
- ◆ **保護するタイミング**]タブから、バックアップのスケジュールを設定します。惨事復旧では、複数のバックアップ スケジュールが利用可能です。たとえば、**15 分ごと**、**1 時間ごと**、**6 時間ごと**、開始時刻を指定して**1 日ごと**などです。**[スロットル スケジュール]**を追加することもできます。

**[ポリシーの作成]**ボタンが有効化されます。

5. **[ポリシーの作成]**をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが **[展開]**となって **[ポリシー]**画面に表示されます。展開の完了後、ステータスが **[成功]**または **[失敗]**に変更されます。

正常に展開された後、ソースの復旧されたリソースが作成され、**[復旧されたリソース]**タブに表示されます。

## Cloud Hybrid レプリケーション用のポリシーの追加

注：組織が一時停止された場合、Cloud Hybrid レプリケーション用のポリシーの追加は機能しません。

Arcserve® Business Continuity Cloud のポリシーの追加には、複数の手順があります。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある[ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ **基本情報**]をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ [保護タイプ]として、Cloud Hybrid レプリケーションを選択します。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。[ソース]タブは無効です。  
これで、ポリシーに2つのタスクを追加できます。
3. 3つ目のタブ **デスティネーション**]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。  
アクティビティの種類、保存する場所、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。
  - ◆ **保護対象**]タブで、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。  
リモートで管理されたRPSからレプリケートします。このアクティビティを設定するには、Arcserve UDP ソリューションガイドの「[リモートで管理されたRPSからのレプリケート](#)」を参照してください。
  - ◆ **保護する場所**]タブで、ソースを保護するデスティネーションを選択します。
  - ◆ **保護するタイミング**]タブで、マージスケジュールを設定します。
  - ◆ タブ **追加の設定**]で、保存ポリシーの追加を選択することで、**日単位のバックアップ**]、**月単位のバックアップ**]、**週単位のバックアップ**]、および **手動バックアップ**]を保持することもできます。

注：[デスティネーションの削除]を使用して、ポリシーからデスティネーションを削除することもできます。ただし、リモートで管理されたRPSへのレプリケートタスクを設定している場合は、リモートで管理されたRPSからのレプリケートタスクを削除する前に、まずそれを削除する必要があります。

4. (オプション) 3 つ目のタブ [デスティネーション] から、リバース レプリケーションに新しいタスク [リモートで管理された RPS へのレプリケート] を追加します。このアクティビティを設定するには、Arcserve UDP ソリューション ガイドの「[リモートで管理された RPS へのレプリケート](#)」を参照してください。以下の操作を実行します。

- ◆ [リモートで管理された RPS タスクからのレプリケート] を閉じるには、バツ印のアイコンをクリックします。
- ◆ [リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート] を追加するには、ハイパーリンクアイコンをクリックします。
- ◆ [リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート] をクリックします。
- ◆ **保護する場所** タブで、共有プランを取得するためのリモート UDP コンソール アクセス情報を指定します。
- ◆ **保護するタイミング** タブで、レプリケート スケジュールとスロットル スケジュールを追加します。

**注:** [デスティネーションの削除] を使用して、ポリシーからデスティネーションを削除することもできます。

[ポリシーの作成] ボタンが有効化されます。

5. [ポリシーの作成] をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが [成功]、[失敗]、または [展開] として [ポリシー] 画面に表示されます。後でポリシーを変更することもできます。[ポリシー] 画面からポリシー名をクリックし、更新を実行します。

**注:** Cloud Hybrid レプリケーション タスクを設定することで、Arcserve Cloud 内の Arcserve UDP のエージェントベース、OneDrive、CIFS、エージェントレス ノードを保護できます。詳細については、「[Arcserve Cloud へのレプリケート設定](#)」を参照してください。

## ハイパーバイザ ポリシーの変更

すべてのポリシー タイプのポリシーを変更できます。ここでは、ハイパーバイザのポリシーを変更する方法の例を示します。

以下の手順に従います。

1. [ポリシー]画面で、[ポリシーの追加]をクリックします。  
3つのタブがある[ポリシーの追加]画面が表示されます。
2. 最初のタブ **基本情報** をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ [ポリシー名]を入力します。
  - ◆ **保護タイプ** を選択します。たとえば、Cloud Direct バックアップまたは Cloud Hybrid レプリケーションなどです。
  - ◆ 必要に応じて説明を入力します。
3. ソースを割り当てている場合は、2番目のタブ - **ソース(オプション)** をクリックし、以下の手順を実行します。
  - ◆ **検索** ボックスを使用したり、**ソースの選択** を直接クリックしたりして利用可能なソースを表示できます。
  - ◆ 表示されたソースのリストから、ポリシーに追加する1つ以上のソースのチェックボックスをオンにします。
  - ◆ **ソースの追加** をクリックします。

画面には追加したソースが表示されます。

4. 3つ目のタブ **デステイネーション** をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。

ソース、ロケーション、および保護するスケジュールを指定します。3つ目のタブで以下の手順を実行します。

- ◆ タブ **What to protect (保護対象)** で、ポリシーの目的のアクティビティを選択します。

Windows イメージの場合は、フルシステムを選択するか、1つ以上のドライブを指定できます。

- ◆ タブ **Where to protect (保護する場所)** で、ソースを保護するデステイネーションを選択します。**ローカルバックアップを作成** する必要がある場合、**デステイネーション** としてローカルパスを入力します。

- ◆ タブ **「When to protect ( 保護するタイミング) 」**で、バックアップのスケジュールを設定します。[「スロットル スケジュール」](#)を追加することもできます。

[ポリシーの作成]ボタンが有効化されます。

5. **「ポリシーの作成」**をクリックします。

追加したポリシーは、現在のステータスが **「展開」**となって [ポリシー]画面に表示されます。展開の完了後、ステータスが **「成功」**または **「失敗」**に変更されます。

---

## 分析

分析機能を使用すると、ジョブ、ログ、およびレポートを表示できます。上部のアイコンを使用すると、画面を折りたたんだり展開したりすることができます。

### 次のトピック

- [ジョブの分析](#)
- [ログの分析](#)
- [レポートの分析](#)

## ジョブの分析

カスタマイズできる詳細を含むジョブの完全なリストが表示されます。

### 主要なハイライト

- 検索バーは、選択したフィルタに従ってジョブを検索するのに役立ちます。たとえば、ステータス、ジョブの種類、日付範囲、または保護ポリシーなどです。
- 今後使用するためにも、検索を保存できます。
- **[Manage Saved Search (保存した検索の管理)]** オプションを使用すると、保存している場合、検索を管理できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。
- すべてのジョブには、**[設定]** アイコンを使用することでカスタマイズできる詳細が表示されます。ジョブはステータスに基づいて複数のカテゴリに分割されます。たとえば、進行中のジョブ、失敗したジョブ、キャンセルされたジョブ、成功したジョブです。
- ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。ソースの画面の **[ジョブ]** タブからジョブの説明を表示することもできます。
- すべてのジョブで、**ログを表示** できます。ジョブのすべての行の最後にあるドロップダウン オプションをクリックすると、そのジョブのログが表示されます。
- 進行中のジョブを**キャンセル**することもできます。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法](#)

## ログの分析

[ログ]タブには、保護済みノード、デステイネーションサーバ、データストアおよびポリシーのすべてのアクティビティログが表示されます。ログを表示して、重大度、マシンから生成されたログ、ジョブの種類、ログコンテンツなどさまざまなフィルタを適用できます。ログをエクスポートすることもできます。メッセージ ID は、詳細なドキュメントにアクセスするためのハイパーリンクを提供します。MessageID 列のハイパーリンクをクリックすると、そのメッセージの説明と解決策が表示されます。[ログ]画面では、レプリケーション(イン)ジョブのメッセージ ID のみが表示されます。

**ログのエクスポート:** [ログ]画面から、ログを受信トレイにエクスポートできます。

[ログ]画面の上部の [エクスポート] をクリックすると、登録されている電子メール ID にログが送信されます。受信トレイで、受信トレイで、「ログのエクスポート」という件名の Arcserve クラウドサポートからの電子メールを探し、**[Download Export (エクスポートのダウンロード)]** をクリックし、.csv ファイルとしてダウンロードします。

**ログの検索:** 利用可能なフィルタの組み合わせ、および以下のいずれかのオプションを使用するか、**[検索]** をクリックして、アクティビティログを検索できます。

- **[重大度]**タイプを選択して、選択したタイプに関連するすべてのログを表示します。
- **[ジョブの種類]**を選択します。
- **[日付範囲]**を選択します。
- **[生成元]**の場所を選択します。
- **[検索]**ボックスにメッセージの語句を入力します。

## アラートレポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用し、アラートタイプに基づいてアラートを個別またはまとめて分析します。

アラートの一覧から、アラート名、アラートの種類、レポート対象、作成日、最終生成日、受信者などのアラートの詳細を表示できます。

[アラート]画面から、以下のアクションを実行できます。

- [新しいアラートレポートの作成](#)
- [アラートレポートの編集](#)

## 新しいアラートレポートの作成

[アラートの作成]を使用すると、新しいアラートレポートを追加できます。アラートレポートは、電子メールのリンクとして受信者(追加受信者を含む)に送信されます。新しいレポートを作成するには、[アラートの作成]レポートウィザードを使用します。[アラート]ページで [アラートの作成]をクリックすると、ウィザードが表示されます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面から、[アラート]タブをクリックします。  
[アラート]画面が表示されます。
2. [アラート]画面で、[アラートの作成]をクリックします。  
[アラートの作成]ウィザードが表示されます。
3. [アラートの作成]ウィザードの [アラートの種類]から、いずれかのオプションを選択します。
4. [アラート名]に、新しいアラートレポートの一意の名前を入力します。
5. 以下のオプションから1つを選択します。
  - **すべてのソースのレポート:** 利用可能なすべてのソースからレポートを生成できます。
  - **選択したソースグループのレポート:** 選択したソースグループのみからレポートを生成できます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウンオプションから [ソースグループ]を選択し、**追加**をクリックします。複数のグループを選択するには、この操作を繰り返します。
6. (オプション)他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力し、**追加**をクリックします。
7. **作成**をクリックします。  
アラートレポートの生成が正常に完了したことを示す確認ダイアログボックスが表示されます。

[アラートレポート]画面には、成功レポートが表示されます。バックアップが完了すると、ログインしているユーザとその他の受信者(存在する場合)に電子メールが送信されます。

## アラートレポートの編集

[アラート] ページでアラートレポートを編集できます。

以下の手順に従います。

1. [分析] 画面から、[アラート] をクリックします。  
[アラート]- [レポート] 画面にレポートの一覧が表示されます。一覧からアラートレポートの名前をクリックするか、ドロップダウン オプションを使用してレポートを選択し、**編集** をクリックします。  
[レポート設定の編集] 画面が表示されます。
2. 画面から、いずれかのオプションを選択してソースを選択します。
  - **すべてのソースのレポート:** 利用可能なすべてのソースからレポートを編集できます。
  - **選択したソースグループのレポート:** 選択したソースグループのみからレポートを編集できます。このオプションを選択する場合は、ドロップダウン オプションから [ソースグループ] を選択し、**追加** をクリックします。複数のグループを選択するには、この操作を繰り返します。
3. 他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールアドレスを入力し、**追加** をクリックします。
4. **変更の保存** をクリックします。  
レポートが変更されます。

---

## レポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud では、レポートの種類に従って、レポートをまとめて分析したり、個別に分析したりできます。[レポート]画面から、[日付範囲]、[スケジュール対象]、[生成日]のフィルタを使用して、レポートを検索できます。また、検索アイテムを保存することもできます。

レポートのリストから、レポートの詳細を表示できます。たとえば、レポート名、日付範囲、レポート対象、生成日、スケジュール対象、レポートの種類、作成者、受信者などです。レポート画面および関連する画面から、以下のアクションを実行することもできます。

- [レポートの作成](#)
- [レポートの表示](#)
- [レポート スケジュールの管理](#)
- [レポートのエクスポート](#)
- [レポート スケジュールの編集](#)

## レポートの表示方法

[レポートスケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポートスケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
  - **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。[レポート名]をクリックして、レポートの設定を編集できます。
  - **グローバルアクション:** 1つ以上のレポート名のチェックボックスをオンにすると、上部のバー **Selected (選択済み)** にオンにしたチェックボックスの数が表示され、選択したレポートに対して集合的なアクションを実行するのに役立つ **[アクション]** オプションが有効になります。たとえば、選択したすべてのレポートを **削除** したり、**今すぐ生成** を使用して、選択したすべてのレポートのコピーを準備したりします。
  - **個別のアクション:** 特定のレポートに対して、以下の個別のアクションを実行できます。
    - ◆ **レポートの編集:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、**編集** をクリックすると、**[レポート設定の編集]** のダイアログボックスが表示されます。必要な変更を実行し、**変更の保存** をクリックします。詳細については、「[レポートスケジュールを編集する方法](#)」を参照してください。
    - ◆ **今すぐ生成:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、**今すぐ生成** をクリックすると、そのレポートのインスタンスが作成され、すぐにレポートのリストに表示されます。
    - ◆ **レポートの削除:** レポートの最後にあるドロップダウンオプションから、**[レポートの削除]** をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。**確認** をクリックすると、レポートが削除されます。
- 注:** 個別またはグローバルアクションとしてレポートを削除すると、レポートスケジュールによって作成されたすべてのレポートインスタンスも削除できます。確認メッセージから、**[delete the report instances (レポートインスタンスを削除する)]** のチェックボックスもオンにします。

特定のレポートの詳細を表示するには、以下のレポートタイプのいずれかをクリックします。

- ◆ バックアップジョブ
- ◆ ポリシータスク
- ◆ 復旧ジョブ
- ◆ データ転送
- ◆ 容量使用率

## バックアップ ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の [バックアップ ジョブ]をクリックすると、すべてのバックアップ ジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[保護ポリシー]、[デステイネーション]または [ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。複数のフィルタの使用が許可されます。[[Manage Saved Searches \(保存した検索の保存\)](#)]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ 画面から、[レポートを作成](#)して、.csv ファイルとしてエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[失敗]、[完了]、[キャンセル]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、バックアップ ジョブ ステータス、イベント、ジョブ 期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのバックアップ ジョブの **詳細**]を表示します。

---

## ポリシー タスクのレポート

完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの詳細を表示するには、[分析]- [ポリシー タスク]に移動します。

[ポリシー タスク]をクリックして、完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの概要を表示します。[日付範囲]、[保護ポリシー]、[デスティネーション]、[ソースグループ]などの複数のフィルタを使用してソースを検索できます。[ポリシー タスク]ページの右上にある [保存した検索内容の管理](#) をクリックし、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト

- ◆ 画面から、レポートを作成および .csv ファイルとしてエクスポートするには、[レポートの作成](#) および [レポートのエクスポート](#) をそれぞれクリックします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ フィルタを適用して、イベントやジョブ期間などの上位 10 ソースを表示します。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表から、完了したバックアップ ジョブのすべてのポリシー タスクの詳細を表示します。

## 復旧ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の[復旧ジョブ]をクリックすると、復旧されたすべてのジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[ destinations ]、または [ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。[設定]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[キャンセル]、[完了]、[失敗]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、復旧ジョブステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのリストアジョブの **詳細** ]を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

---

## データ転送のレポート

コンソールから、[レポート]の[データ転送]をクリックすると、データ転送のサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]および[ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、特定の日付における処理データ、転送データ、書き込みデータが表示されます。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのデータ転送の[詳細]を表示します。
- ◆ レポートをCSVファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

## 容量使用率のレポート

コンソールから、[レポート]の [容量の使用状況]をクリックすると、使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドを表示できる画面が表示されます。日付範囲]および [デスティネーション]のフィルタを使用してデスティネーションを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、さまざまな日付の使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドが表示されます。
- ◆ 表から容量の使用状況の **詳細**]を表示します。
- ◆ 利用可能なすべてのデスティネーションの詳細を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ すべての役割の個別のレポートについてレポートを作成します。
- ◆ 保存した検索を管理します。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

## レポートスケジュールの管理

[レポートスケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポートスケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
  - **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。[レポート名]をクリックして、レポートの設定を編集できます。
  - **グローバルアクション:** 1つ以上のレポート名のチェックボックスをオンにすると、上部のバー **Selected (選択済み)** にオンにしたチェックボックスの数が表示され、選択したレポートに対して集合的なアクションを実行するのに役立つ [アクション] オプションが有効になります。たとえば、選択したすべてのレポートを **削除** したり、**今すぐ生成** を使用して、選択したすべてのレポートのコピーを準備したりします。
  - **個別のアクション:** 特定のレポートに対して、以下の個別のアクションを実行できます。
    - ◆ **レポートの編集:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**編集** をクリックすると、[レポート設定の編集] のダイアログボックスが表示されます。必要な変更を実行し、**変更の保存** をクリックします。詳細については、「[レポートスケジュールを編集する方法](#)」を参照してください。
    - ◆ **今すぐ生成:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、**今すぐ生成** をクリックすると、そのレポートのインスタンスが作成され、すぐにレポートのリストに表示されます。
    - ◆ **レポートの削除:** レポートの最後にあるドロップダウン オプションから、[レポートの削除] をクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。**確認** をクリックすると、レポートが削除されます。
- 注:** 個別またはグローバルアクションとしてレポートを削除すると、レポートスケジュールによって作成されたすべてのレポートインスタンスも削除できます。確認メッセージから、**delete the report instances (レポートインスタンスを削除する)** のチェックボックスもオンにします。

## 設定

Arcserve® Business Continuity Cloud は、より詳細に制御できる複数のオプションを設定するのに役立ちます。たとえば、インフラストラクチャ、ソースグループ、アクセス制御、ライセンスとサブスクリプションを設定できます。

### 次のトピック

- [インフラストラクチャの設定](#)
- [ソースグループの設定](#)
- [アクセス制御の設定](#)

---

## インフラストラクチャの設定

インフラストラクチャ機能を使用すると、Arcserve® Business Continuity Cloud にハイパーバイザを追加できます。組織に追加されたハイパーバイザのリストが画面に表示されます。ハイパーバイザを追加するには、以下の手順を実行する必要があります。

1. [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスのセットアップ](#)
2. [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの設定](#)
3. [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの削除](#)

## UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスをセットアップする方法

VMware 仮想環境では、UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスを展開して、1 つ以上の VMware 仮想 マシンのエージェントレス保護を有効化します。仮想 アプライアンスでは、各仮想 マシンに UDP Cloud Direct エージェントをインストールする必要がありません。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスのダウンロード](#)
- [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの展開](#)
- [UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの登録](#)

---

## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスのダウンロード

UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスは、Arcserve® Business Continuity Cloud コンソールで .ova ファイルとして利用できます。コンソールで、[設定]- [インフラストラクチャ]- [ハイパーバイザ]から、**[VMware アプライアンス(.OVA) のダウンロード]**をクリックし、ファイルをダウンロードします。

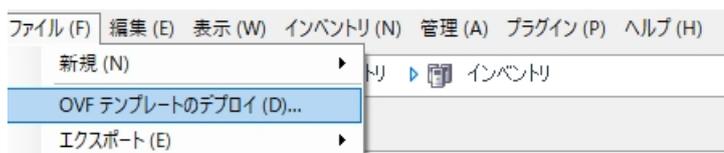
次は、アプライアンスを[展開](#)する必要があります。

## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスの展開

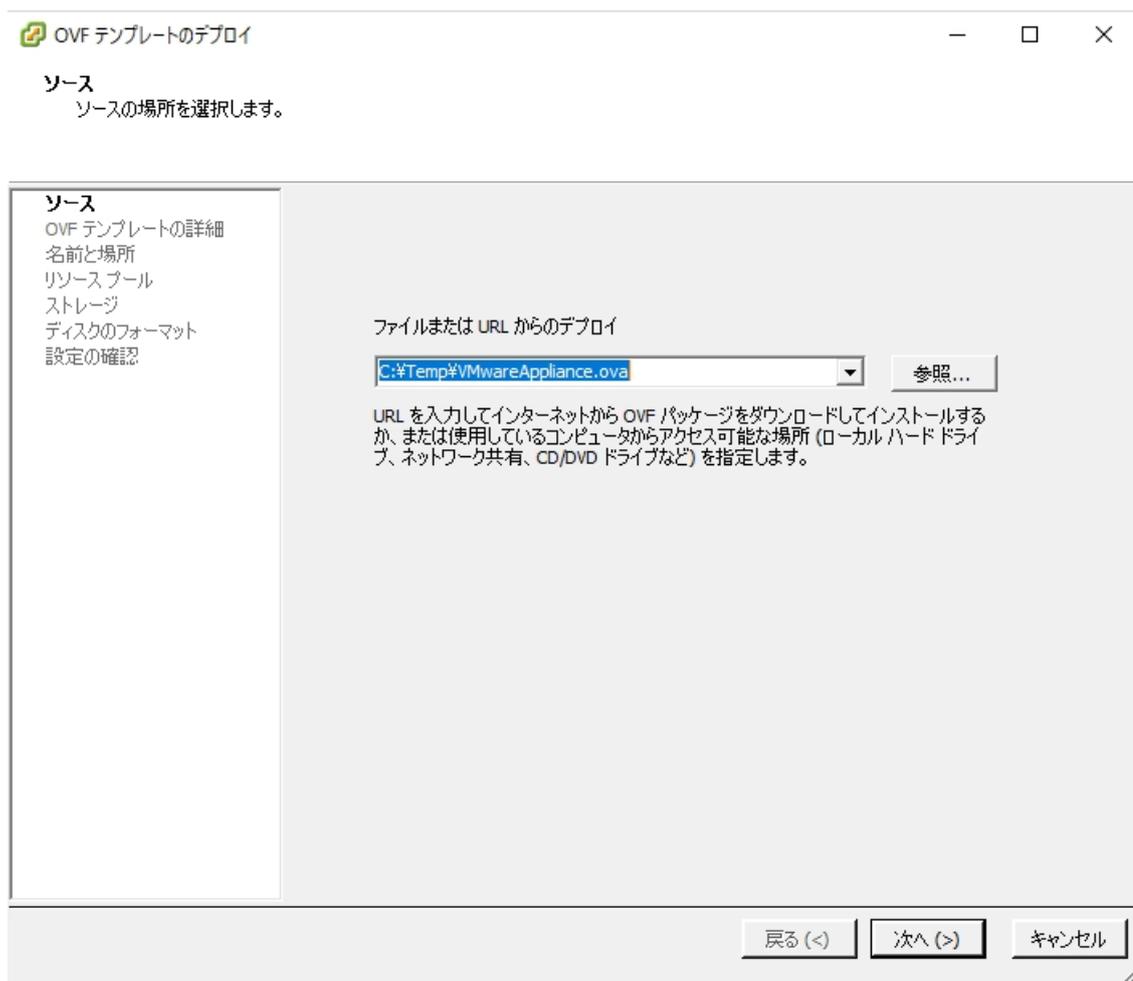
UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスをVMware vSphere 環境に展開するには、VMware vSphere Web クライアントを使用します。

以下の手順に従います。

1. VMware vSphere Web クライアントを起動し、ログインします。
2. vSphere Web クライアントで、[ファイル]をクリックし、[OVF テンプレートのデプロイ]を選択します。



3. [参照]をクリックし、.ova ファイルをダウンロードした場所からファイルを選択して、[次へ]をクリックします。



4. [終了準備の完了]に到達するまで残りのセットアッププロセスを続行し、**終了**]をクリックします。  
UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスが展開 されます。
5. 完了したら、**閉じる**]をクリックします。
6. [Getting Started ( 導入 ガイド )]に移動し、UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスを選択し、[仮想 マシンの電源 をオンにする]をクリックします。

はじめに サマリ リソース割り当て パフォーマンス イベント コンソール 権限

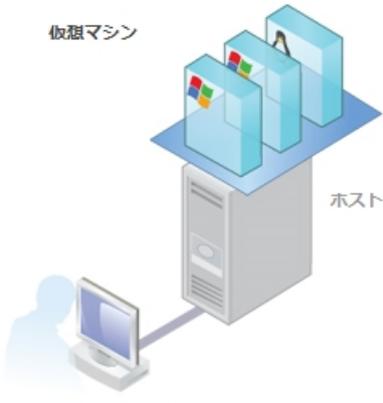
タブを閉じる [X]

### 仮想マシンについて

仮想マシンとは、物理コンピュータのようにオペレーティング システムとアプリケーションを実行するソフトウェア コンピュータです。仮想マシン上にインストールしたオペレーティング システムのことを、ゲスト オペレーティング システム (ゲスト OS) といいます。

仮想マシンはそれぞれ隔離されたコンピュータ環境であるため、それらの仮想マシンを、デスクトップまたはワークステーション環境として、あるいはテスト環境として使用したり、サーバ アプリケーションの統合に使用したりできます。

仮想マシンはホストで動作します。同一のホストで多数の仮想マシンを実行できます。



仮想マシン

vSphere Client

ホスト

### 基本タスク

- ▶ 仮想マシンのパワーオン
- 🔧 仮想マシン設定の編集

UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスが正常に展開 されました。

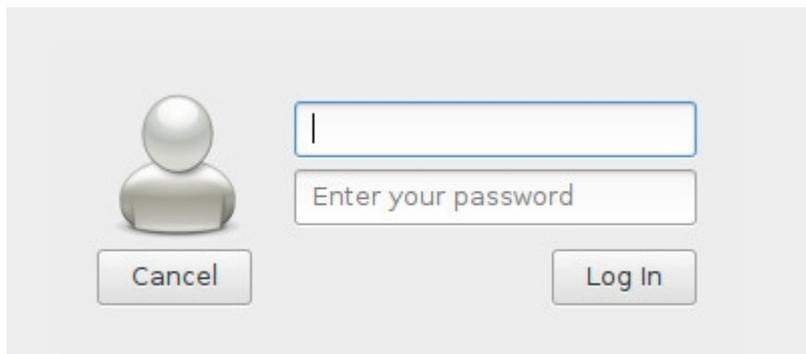
次は、アプライアンスを[登録](#)する必要があります。

## UDP Cloud Direct の仮想 アプライアンスの登録

仮想 アプライアンスがインストールされ、電源がオンになると、Arcserve® Business Continuity Cloud に UDP Cloud Direct 仮想 アプライアンスを登録する必要があります。

以下の手順に従います。

1. VMware vSphere Web クライアントで、仮想 アプライアンスの [コンソール] タブに移動します。



2. デフォルトユーザ名 *zetta*、デフォルトパスワード *zettazetta* を入力し、[ログイン]をクリックします。
3. 仮想 アプライアンスを利用するアカウントで作成したユーザのユーザ アカウントの認証情報(電子メール/パスワード)を入力し、[Center の設定を続行します]をクリックします。

## アプライアンスの設定

電子メール

パスワード

 プロキシを使用

システム名

VMwareAppliance

タイムゾーン

日本国 ▼

[vCenter の設定を続行](#)

4. vCenter サーバ アドレス、vCenter ユーザ名、および vCenter パスワードを入力し、**設定の完了**]をクリックします。

## vCenter の設定

vCenter Server

ユーザ名

パスワード

設定完了

登録が正常に完了したについて確認メッセージが表示されるはずで  
す。また、5分以内に UDP Cloud Direct ポータルでデータが利用可能になり  
ます。

# 成功!

管理ポータルにログインして、バックアップする仮想マシンを設定してください。データが  
利用可能になるまでに、約 5 分間待機する必要があります。

5. **オプションの手順:** [アプライアンスパスワードの変更]をクリックすると、現在の  
デフォルトパスワードを使用して UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスのパス  
ワードを変更できます。

UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスが正常に登録されました。アプライアンスのポ  
リシーが作成されます。ポリシーの名前は <System Name> + Policy です。これで、  
アプライアンスの[設定](#)は完了です。

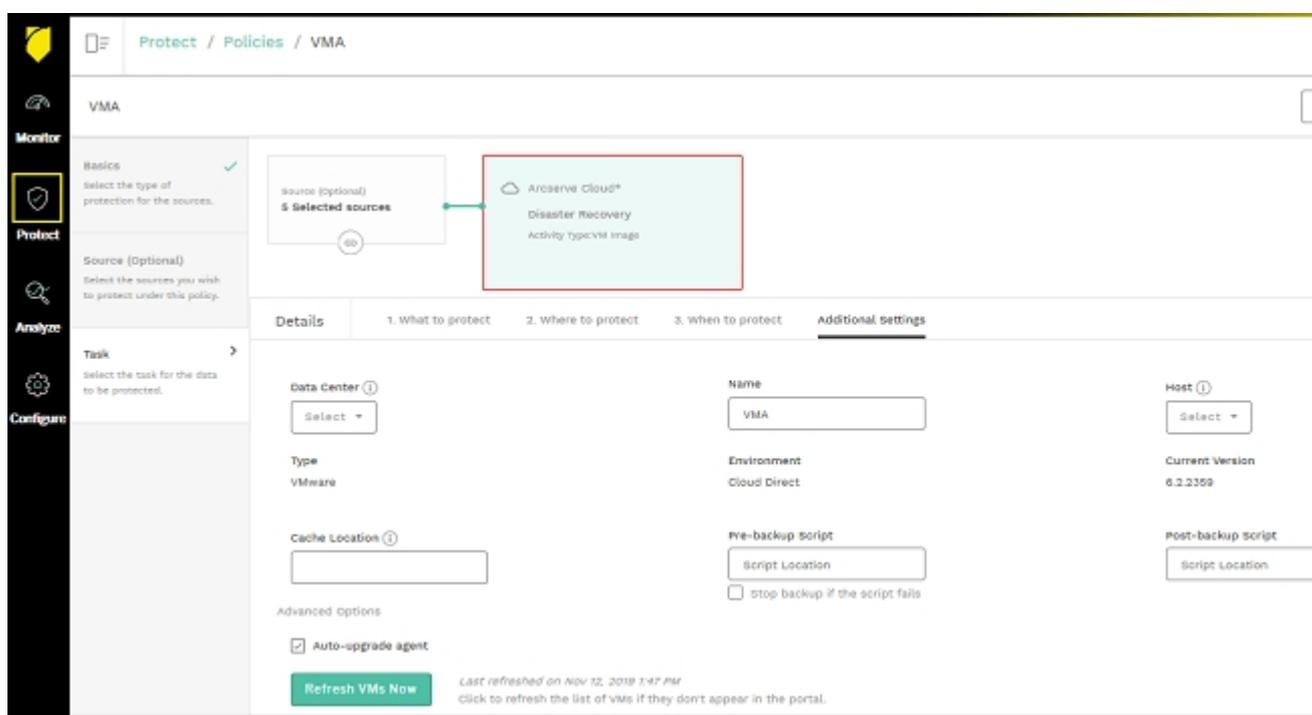
## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスの設定

コンソールへの[登録](#)が完了すると、仮想アプライアンスを設定できます。設定するには、仮想マシンをソースとして追加する必要があります。詳細については、「[ソースの追加](#)」を参照してください。必要に応じて設定を実行できます。

以下の手順に従います。

1. 設定]- [インフラストラクチャ]- [ハイパーバイザ]で表示されるリストから目的の仮想アプライアンスの名前をクリックするか、[保護]- [ポリシー]からアプライアンスポリシーを変更します。

仮想アプライアンスポリシー変更ページが表示されます。



2. [デスティネーション]タブをクリックし、以下の手順を実行します。
  - a. [保護する場所]から、データを格納する目的のデスティネーションを指定します。
  - b. [保護するタイミング]タブから、実行するバックアップスケジュールを割り当てます。

**注:** [スロットルスケジュールを追加して](#)帯域幅の使用率を制限することもできます。

惨事復旧デスティネーションを選択すると、ポリシーに追加されたすべてのソースに対して復旧されたリソースが作成されます。

3. **追加の設定** タブでは、以下のフィールドの情報の追加/更新し、**保存** をクリックできます。

#### データセンター/ホスト

デフォルトは [なし] に設定されています。値が設定されている場合、このデータセンター/ホストからの仮想マシンのみが保護されます。

**注:** 外部の VM がすでに無効化されていることを確認します。

#### 名前

登録時に指定されたシステム名を示します。必要に応じて変更できます。

#### キャッシュの場所

キャッシュが格納される場所を入力します。[キャッシュの場所]には、キャッシュがローカルに保存され、転送のパフォーマンスが最適化されます。これは、データセットの合計の約 1% です。ディスクの空き容量が問題の場合は、キャッシュの場所を別の場所に指定します。

#### バックアップ前のスクリプト

バックアップジョブが実行される前に実行するスクリプトの場所を入力します。スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止するには、[スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止します](オプション) チェックボックスをオンにします。

#### バックアップ後のスクリプト

バックアップが完了した後に実行するスクリプトの場所を入力します。

#### エージェントの自動アップグレード

エージェントを示します。デフォルトでは有効になっており、仮想アプライアンスでエージェントを自動的にアップグレードできます。

#### 新しい VM の自動同期

vCenter から毎日 VM を同期できます。オプションはデフォルトで無効になっています。VM を手動で同期するには、**今すぐ VM を更新** をクリックします。

仮想アプライアンスの設定が完了しました。

## UDP Cloud Direct の仮想アプライアンスの削除

既存の UDP Cloud Direct 仮想アプライアンスを削除できます。

### 考慮事項:

- 有効化された仮想マシンで復旧されたリソースが実行中の場合、仮想アプライアンスを削除できません。
- 有効化されたすべての仮想マシンも削除されます。

以下の手順に従います。

1. [設定]- [インフラストラクチャ]- [ハイパーバイザ]に移動します。  
追加したすべての仮想アプライアンスが表示されます。
2. 表示されたリストから、目的の仮想アプライアンスの [アクション] ドロップダウン オプションをクリックします。  
削除するオプションが表示されます。
3. [削除] をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。
4. [はい] ボタンをクリックして確定します。  
仮想アプライアンスが削除されます。

## Hyper-V の UDP Cloud Direct エージェントのセットアップ

Hyper-V 統合を実行して、Hyper-V の VM に存在するデータを保護します。

以下の手順に従います。

1. [保護]画面に移動し、[Download Cloud Direct Agent ( Cloud Direct エージェントのダウンロード)]に移動します。
2. ダウンロードしたファイルをコピーし、Hyper-V マシンにファイルを貼り付けます。
3. セットアップ手順に従ってファイルを実行し、Cloud Direct エージェントのインストールを完了させます。
4. Cloud Direct エージェントをインストールした後、登録ウィンドウでクラウドアカウントの詳細を指定し、Hyper-V をクラウドコンソールに追加します。

**保護**画面の **[マシン]**フィールドに Hyper-V が表示されます。しばらくすると、**[VM のバックアップ]**オプションが表示されます。

5. ソース ノードの右端までスクロールし、コンテキストビューから **[VM のバックアップ]**オプションを選択します。

ソースリストで Hyper-V が赤く強調表示され、**設定**画面の **[ハイパーバイザ]**フィールドに表示されます。しばらくすると、Hyper-V が **[ハイパーバイザ]**フィールドに表示されます。

その後、デフォルトポリシーが **保護**画面の **[ポリシー]**フィールドに作成されます。

6. 以下の方法のいずれかを実行し、Hyper-V に VM を追加します。

#### 環境設定画面を使用

1. **[ハイパーバイザ]**フィールドに移動し、Hyper-V 名を選択して、**[ポリシーの編集]**ページに進みます。
2. **[ソース]**フィールドをクリックし、**[ソースの選択]**をクリックして、Hyper-V に存在する VM を表示します。
3. バックアップする VM 名のチェックボックスをオンにし、**[ソースの追加]**をクリックします。

#### 保護画面を使用

1. **[ポリシー]**フィールドに移動し、Hyper-V 名があるポリシーを選択します。
2. **[ソース]**フィールドをクリックし、**[ソースの選択]**をクリックして、Hyper-V に存在する VM を表示します。
3. バックアップする VM 名のチェックボックスをオンにし、**[ソースの追加]**をクリックします。
4. **[デステイネーション]**フィールドをクリックし、**[アクティビティの種類]-[VM イメージ]**をクリックして、要件に従って以下のフィールドを編集します。
  - ◆ 保護する場所
  - ◆ 保護するタイミング
  - ◆ 追加の設定
5. **追加設定**タブで、以下の操作を行います。
  - **[キャッシュの場所]**に、キャッシュが格納される場所を入力します。**[キャッシュの場所]**には、キャッシュがローカルに保存され、転送のパフォーマンスが最適化されます。これは、データセット

の合計の約 1% です。ディスクの空き容量が問題の場合は、キャッシュの場所を別の場所に指定します。

- [バックアップ前のスクリプト]に、バックアップジョブを実行する前に実行するスクリプトの場所を入力します。
- (オプション) スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止するには、[スクリプトが失敗した場合にバックアップを停止します] チェックボックスをオンにします。
- [バックアップ後のスクリプト]に、バックアップが完了した後に実行するスクリプトの場所を入力します。

**注:** エージェントレスバックアップを実行した後は、オペレーティングシステムの情報は表示されません。オペレーティングシステムの情報を表示するには、ゲストOSに統合サービスをインストールし、VMの電源を入れます。

7. (オプション) 新しいVMがHyper-Vに追加されたら、ポリシーの編集に [今すぐVMを更新] をクリックし、それらをクラウドコンソールで利用できるようにします。手順6を実行し、手動でVMをクラウドコンソールに追加します。

Hyper-VのVMに存在するデータを保護するためのHyper-V統合が完了しました。

## ソースグループの設定

ソースグループとは、複数のソースを含むグループを指します。この機能を使用すると、特定のタイプのソースのグループを維持管理できます。[ソースグループ]画面には既存のグループが表示され、グループを作成または削除するオプションが提供されます。検索オプションを使用してグループを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- **グループの検索:** [ソースグループ]画面から、**検索**オプションを使用してグループを検索できます。
- **ソースグループ詳細の表示:** ソースグループに関する詳細を表示します。たとえば、グループ名、割り当て済みソースの合計、保護されたソース、および保護されていないソースなどです。
- **ソースグループの削除:** すべてのソースで利用可能なドロップダウンオプションを使用してグループを削除します。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

### 次のトピック

- [ソースグループの作成](#)
- [ソースグループへのソースの割り当て](#)

---

## 新しいソースグループの作成

[ソースグループ]機能から、ソースの複数のグループを作成できます。

以下の手順に従います。

1. [ソースグループ]画面から、**[グループの作成]**をクリックします。  
[グループの作成]ダイアログボックスが表示されます。
2. **[グループ名]**として一意の名前を入力します。
3. **[作成]**をクリックします。  
[ソースグループ]画面に新しいソースグループが表示されます。

## ソースグループへのソースの割り当て

利用可能なソースをソースグループに割り当てることができます。ソースグループを開き、関連ソースを割り当てるだけです。

以下の手順に従います。

1. [ソースグループ]画面から、ソースグループの名前をクリックします。  
ソースグループの画面には、関連する詳細が表示されます。
2. [グループへのソースの追加]をクリックします。  
[グループへのソースの追加]画面には、利用可能なソースのリストが表示されます。
3. 追加するソースのチェックボックスをオンにします。  
上部の **Selected ( 選択済み )** フィールドには、追加するように選択したソースの数が表示されます。
4. **選択したソースの追加** をクリックします。  
ソースグループ名画面には、追加された選択済みのソースの数が表示されます。

[アクション]ドロップダウンリストから、ソースグループから一部のソースを削除できます。1つ以上のソースを削除するには、以下の手順を実行します。

1. 目的のソースのチェックボックスをオンにします。
2. [アクション]ドロップダウンリストの **グループから削除** オプションをクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されます。
3. 削除するには、**確認** をクリックします。

---

## アクセス制御の設定

この機能では、ユーザを管理できます。新しいユーザを追加したり、既存のユーザに対して特定のアクションを実行したりすることもできます。

**注:** このオプションを使用して自分の詳細を管理することはできません。追加したユーザのみを管理できます。パスワードをリセットするには、[ユーザプロファイル]に移動します。

### 次のトピック

- [ユーザ アカウントの管理](#)
- [役割の管理](#)

## ユーザ アカウントの管理

ユーザ アカウント機能を使用して、ユーザを管理できます。新しいユーザを追加したり、既存のユーザに対して特定のアクションを実行したりすることもできます。たとえば、検証メールの再送信、パスワードのリセット、ユーザの削除などです。[Manage Saved Search (保存した検索の管理)] オプションを使用して、ユーザに対して集合的なアクションを実行することもできます。検索オプションを使用して、[ステータス]、[ブロック済み]、[役割]などの選択したフィルタに従ってユーザを検索し、検索結果を保存できます。詳細については、「[保存した検索を管理する方法](#)」を参照してください。

### 注:

- このオプションを使用して自分の詳細を管理することはできません。追加したユーザのみを管理できます。パスワードをリセットするには、[ユーザプロフィール]に移動します。
- 追加したユーザに対する二要素認証(2FA)の要件を有効にする場合は、「[組織レベルで2FAの要件を有効にする方法](#)」を参照してください。
- 追加したユーザに対する二要素認証(2FA)の要件を無効にする場合は、「[組織レベルで2FAの要件を無効にする方法](#)」を参照してください。

グローバルおよび個別のアクションのリストについて、以下のリンクが表示されます。

- ◆ [一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法](#)
- ◆ [Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法](#)

### 次のトピック

- [ユーザ アカウントの表示および更新](#)
- [ユーザの追加](#)

## ユーザ アカウントを表示および更新する方法

Arcserve® Business Continuity Cloud では、ユーザ アカウントを表示したり、ユーザ アカウントに対して複数のアクションを実行したりできます。[ユーザ アカウント]画面から、ユーザを検索したり、詳細を表示したり、既存のアカウントに対して複数のアクションを実行したりすることができます。

### ユーザ アカウントに対して実行される主要なアクション

- **ユーザ アカウントの検索:** 検索ボックスに検索語を入力するか、目的のフィルタを使用してアカウントを検索します。検索を保存したり、保存した検索を管理したりすることもできます。
- **ユーザ アカウント詳細の表示:** [ユーザ アカウント]画面には、[設定]アイコンを使用して設定した、指定された詳細を持つすべての追加済みのユーザ アカウントが表示されます。たとえば、電子メール、役割、最終ログイン日、ブロック済みなどです。
- **ユーザ アカウントの削除:** 複数のアカウントを選択し、[アクション]のドロップダウンオプションから削除を選択して、同時に複数のアカウントを削除します。1件のユーザ アカウントを削除するには、ユーザ アカウント詳細に配置されているドロップダウン矢印をクリックし、**削除**をクリックします。**確認**ダイアログボックスが表示されます。削除するには、**確認**をクリックします。
- **パスワードのリセット:** ステータスが確認済みと表示されている既存のユーザに対して、このオプションが表示されます。選択したユーザのドロップダウンリストから**パスワードのリセット**オプションをクリックすると、**確認**ダイアログボックスが表示されます。**電子メールの送信**をクリックしてパスワードのリセットを確認すると、選択されたユーザの登録された電子メールIDに対してリンクが送信されます。

**注:** [パスワードのリセット]リンクを送信すると、ユーザは古いパスワードを使用してコンソールにログインできなくなります。

- **二要素のリセット:** 特定のユーザに対する二要素認証を無効にするには、[アクション]ドロップダウンリストから**Reset Two Factor (二要素のリセット)**オプションを選択します。二要素認証を無効にすることを確認するメッセージが表示されます。**Reset User Two Factor (ユーザの二要素のリセット)**をクリックして確定します。

**注:** 二要素がリセットされると、2FAが無効になります。

- **確認メールの再送信:** 追加されたが確認されていないユーザに対して、このオプションが表示されます。選択されたユーザのドロップダウンリストから**Resend Verification Email (確認メールの再送信)**をクリックします。確認

メッセージによって、選択されたユーザの電子メール ID に対して電子メールが送信されたことが通知されます。

- **ユーザの追加:** [ユーザ アカウント]画面 から、オプションをクリックしてユーザを追加します。詳細については、「[ユーザを追加する方法](#)」を参照してください。

## ユーザを追加する方法

[ユーザ アカウント]画面から、新しいユーザを追加して役割を割り当てることができます。

以下の手順に従います。

1. [ユーザの追加]をクリックします。  
[ユーザの追加]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. 以下の詳細を入力します。
  - **名および姓:** ユーザの氏名を入力します。
  - **電子メール アドレス:** ユーザの電子メール アドレスを入力します。電子メール アドレスは他のユーザに再利用できません。確認メールは指定された電子メール ID に送信されます。確認するため、新しいユーザは、指定された電子メール アドレスに送信されたアクティベーションリンクをクリックする必要があります。確認の成功後、ユーザは役割に割り当てられ、その後ユーザのみがアクションを実行できます。確認メールで共有されたアクティベーションリンクをクリックしてパスワードを作成しない場合、ユーザは未確認のままとなり、クラウド コンソールにログインできません。
  - **役割:** 新しいユーザを割り当てる役割を選択します。たとえば、[管理]などです。
3. [ユーザの追加]をクリックします。  
[ユーザの追加]ダイアログ ボックスが閉じられ、[ユーザ アカウント]画面に新しいユーザが表示されます。

## 役割の管理

「役割」画面から、アクティブな役割の詳細を表示できます。

### 主要なハイライト:

- 役割に割り当てられた権限を表示するには、役割の名前を展開します。
- 役割が割り当てられたユーザ数を表示します。
- 役割の説明を表示します。

---

## 7 章: Direct モニタとしての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用すると、Direct モニタでフィルタを適用し、ジョブ、ログ、およびレポートを表示できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">ダッシュボード</a> .....	234
<a href="#">モニタ</a> .....	235
<a href="#">分析</a> .....	237

## ダッシュボード

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタ機能の複数の一般的なオプションと詳細を確認できるコンソールダッシュボードが表示されます。ダッシュボードから、パスワードの変更、ユーザ詳細の更新、サポートへの連絡に関する詳細の確認、重要なメッセージの表示、ログアウトが可能です。

ダッシュボードには、以下のオプションがあります。

- **Arcserve アイコン:** 左上にある Arcserve アイコンをクリックすると、コンソールのどこからでもダッシュボードに戻ることができます。
- **ヘルプ アイコン:** 右上のヘルプアイコンを使用すると、Arcserve に連絡するための複数のオプションを選択したり、コンソールのオンラインヘルプを表示したりできる **[サポート]** ページが表示されます。
- **アラートアイコン:** 右上のエクスクラメーションマークでは、考慮事項に関するコンソールからのメッセージが表示されます。メッセージは、**[クリティカル]**、**[警告]**、または **[情報]** として分類されます。メッセージを確認し、必要に応じてアクションを実行できます。詳細については、「[アラートを管理する方法](#)」を参照してください。
- **ユーザ ログインアイコン:** 右上のアイコンには、ログインしたユーザのプロファイル画像が表示されます。アイコンでは、クラウドコンソールからログアウトするオプション、およびログインしたユーザのユーザプロファイルを更新するオプションが提供されます。

[ユーザプロファイル]を使用すると、以下の2つの更新を実行できます。

- **連絡先情報の更新:** **[My Profile (マイプロファイル)]** 画面から、連絡先詳細を更新し、写真をアップロードできます。更新後、**[変更の保存]** をクリックします。
- **パスワードの変更:** 新しいパスワードを指定し、**[パスワードの更新]** をクリックします。
- **二要素認証:** 現在のパスワードを入力し、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ 二要素認証を有効にするには、**[[Enable Two Factor Authentication \(二要素認証の有効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素認証を無効にするには、**[[Disable Two Factor Authentication \(二要素認証の無効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素コードを生成するには、**[[Generate Two Factor Codes \(二要素コードの生成\)](#)]** をクリックします。

## モニタ

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタが複数のウィザードを使用して製品の詳細を表示するコンソールダッシュボードが表示されます。モニタから、以下のオプションを実行できます。

- **サマリの表示:** モニタによって、組織の [ソースのサマリ]、[使用状況のサマリ]、[ポリシーのサマリ]が表示されます。
  - ◆ **ソースのサマリ:** 前回のバックアップジョブの結果に基づいて、合計ソース数と、[保護済み]、[オフライン]、[Unprotected (未保護)]ステータスのソースの数が表示されます。
  - ◆ **使用状況のサマリ:** Cloud Direct または Cloud Hybrid のライセンス容量の使用状況のサマリが表示されます。
  - ◆ **ポリシーのサマリ:** 合計ポリシー数と、[成功]、[展開]、[失敗]または [無効]のステータスのポリシーの数が表示されます。
- **グラフとして詳細を表示:** 主要な詳細をより詳細にモニタリングするため、モニタによって複数のフィールドのグラフィカルなビューが表示されます。例:
  - ◆ **バックアップジョブのサマリ:** [完了]、[キャンセル]、[失敗]ステータスの過去 24 時間のバックアップジョブの数が表示されます。グラフにマウスポインタを置くと、各ステータスの割合が表示されます。
  - ◆ **進行中の最新 10 件のジョブ:** 進行中の最新の 10 件のジョブが表示されます。すべての進捗中ジョブに対してログの表示またはジョブのキャンセルアクションがサポートされています。[View all jobs (すべてのジョブを表示)]リンクをクリックすると、[ジョブ]画面が表示されます。
  - ◆ **トップ 10 のソース:** 特定の条件ごとに上位 10 件のジョブが表示されます。選択された [バックアップジョブステータス]、[イベント]、[Job Durations (ジョブ期間)]、および [転送データ]がサポートされます。
  - ◆ **トップ 10 ポリシー:** 上位 10 件のポリシーが表示されます。これは [完了]、[失敗]、[キャンセル]、または [アクティブ]のジョブステータスでグループ化されます。
  - ◆ **Cloud Direct ボリュームの使用トレンド:** フルバックアップデータごとの Cloud Direct ボリュームの使用トレンドが表示されます。これはボリューム名でグループ化されます。
  - ◆ **Cloud Hybrid ストアの使用トレンド:** Cloud Hybrid ストアの使用トレンドが表示されます。これは Cloud Hybrid ストア名でグループ化されます。

- ◆ **Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリ:** Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリが表示されます。これは、[処理データ]、[転送データ]、または [書き込みデータ]に従ってグループ化されます。
- ◆ **Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンド:** Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンドが表示されます。これはソースデータまたはデデュープ節約サイズでグループ化されます。
- **Cloud Hybrid 詳細の表示:** Cloud Hybrid ストアの使用状況のトレンドとデデュープ節約トレンドが表示されます。詳細を表示するには、グラフにマウスポインタを置きます。
- **ウィジェットの展開または折りたたみ:** 表示されたウィジェットの上にあるアイコンを使用して、展開または折りたたみます。

---

## 分析

分析機能を使用すると、ジョブ、ログ、およびレポートを表示できます。上部のアイコンを使用すると、画面を折りたたんだり展開したりすることができます。

### 次のトピック

- [ジョブの分析](#)
- [ログの分析](#)
- [レポートの分析](#)

## ジョブの分析

表示できる詳細を含むジョブの完全なリストが表示されます。

### 主要なハイライト

- 検索バーは、選択したフィルタに従ってジョブを検索するのに役立ちます。たとえば、ステータス、ジョブの種類、日付範囲、または保護ポリシーなどです。
- 今後使用するためにも、検索を保存できます。
- **[Manage Saved Search (保存した検索の管理)]** オプションを使用すると、保存している場合、検索を管理できます。
- すべてのジョブには、**[設定]** アイコンを使用することでカスタマイズできる詳細が表示されます。ジョブはステータスに基づいて複数のカテゴリに分割されます。たとえば、進行中のジョブ、失敗したジョブ、キャンセルされたジョブ、成功したジョブです。
- ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。ソースの画面の **[ジョブ]** タブからジョブの説明を表示することもできます。
- すべてのジョブで、**ログを表示** できます。ジョブのすべての行の最後にあるドロップダウン オプションをクリックすると、そのジョブのログが表示されます。

## ログの分析

ログ タブには、保護されたノードのすべてのアクティビティログが表示されます。ログを表示して、重大度、マシンから生成されたログ、ジョブの種類、ログ コンテンツなどさまざまなフィルタを適用できます。ログをエクスポートすることもできます。メッセージ ID は、詳細なドキュメントにアクセスするためのハイパーリンクを提供します。MessageID 列のハイパーリンクをクリックすると、そのメッセージの説明と解決策が表示されます。[ログ]画面では、レプリケーション(イン)ジョブのメッセージ ID のみが表示されます。

**ログのエクスポート:** [ログ]画面から、ログを受信トレイにエクスポートできます。[ログ]画面の上部の **[エクスポート]** をクリックすると、登録されている電子メール ID にログが送信されます。受信トレイで、受信トレイで、「ログのエクスポート」という件名の Arcserve クラウドサポートからの電子メールを探し、**[Download Export (エクスポートのダウンロード)]** をクリックし、.csv ファイルとしてダウンロードします。

**ログの検索:** 利用可能なフィルタの組み合わせ、および以下のいずれかのオプションを使用するか、**[検索]** をクリックして、アクティビティログを検索できます。

- **[重大度]**タイプを選択して、選択したタイプに関連するすべてのログを表示します。
- **[ジョブの種類]**を選択します。
- **[日付範囲]**を選択します。
- **[生成元]**の場所を選択します。
- **[検索]**ボックスにメッセージの語句を入力します。

## アラートレポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用し、アラートタイプに基づいてアラートを個別またはまとめて分析します。

アラートの一覧から、アラート名、アラートの種類、レポート対象、作成日、最終生成日、受信者などのアラートの詳細を表示できます。

---

## レポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud では、レポートの種類に従って、レポートをまとめて分析したり、個別に分析したりできます。[レポート]画面から、[日付範囲]、[スケジュール対象]、[生成日]のフィルタを使用して、レポートを検索できます。また、検索アイテムを保存することもできます。

レポートのリストから、レポートの詳細を表示できます。たとえば、レポート名、日付範囲、レポート対象、生成日、スケジュール対象、レポートの種類、作成者、受信者などです。レポート画面および関連する画面から、以下のアクションを実行することもできます。

- [レポートの表示](#)
- [レポートスケジュールの管理](#)
- [レポートのエクスポート](#)

## レポートの表示方法

コンソールを使用すると、[レポート]画面から直接レポートを削除したり、特定の種類に移動して関連するレポートを表示したりすることができます。レポート画面から、以下のアクションを実行できます。

- **レポートの詳細の表示:** レポートのリストには、バックアップジョブレポート、復旧ジョブレポート、データ転送レポート、容量の使用状況レポートを含むすべてのレポートが表示されます。[検索]バーを使用して、表示するレポートの種類をフィルタリングできます。レポート名をクリックすると、ダッシュボードに完全な詳細を表示できます。
- **特定の種類のレポートの表示:** 1つの種類の特定のレポートのみを表示するには、利用可能ないずれかのレポートの種類に移動します。特定の種類のレポート画面から、レポートをエクスポートすることもできます。

使用できるレポートの種類:

- ◆ [バックアップジョブ](#)
- ◆ [ポリシータスク](#)
- ◆ [復旧ジョブ](#)
- ◆ [データ転送](#)
- ◆ [容量使用率](#)

---

## バックアップ ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の [バックアップ ジョブ]をクリックすると、すべてのバックアップ ジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[保護ポリシー]、[デステイネーション]または [ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。複数のフィルタの使用が許可されます。

### 主要なハイライト:

- ◆ 画面から、.csv ファイルとしてレポートをエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[失敗]、[完了]、[キャンセル]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、バックアップ ジョブ ステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのバックアップ ジョブの **詳細**を表示します。

## ポリシー タスクのレポート

完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの詳細を表示するには、[\[分析\]](#)-[\[ポリシー タスク\]](#)に移動します。

[\[ポリシー タスク\]](#)をクリックして、完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの概要を表示します。[\[日付範囲\]](#)、[\[保護ポリシー\]](#)、[\[デスティネーション\]](#)、[\[ソースグループ\]](#)などの複数のフィルタを使用してソースを検索できます。[\[ポリシー タスク\]](#)ページの右上にある [保存した検索内容の管理](#) をクリックし、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト

- ◆ 画面から、.csv ファイルとしてレポートをエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの割合が表示されます。
- ◆ フィルタを適用して、イベントやジョブ期間などの上位 10 ソースを表示します。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表から、完了したバックアップ ジョブのすべてのポリシー タスクの詳細を表示します。

## 復旧ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の[復旧ジョブ]をクリックすると、復旧されたすべてのジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[ステイション]、または[ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。[設定]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[キャンセル]、[完了]、[失敗]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、復旧ジョブステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのリストアップジョブの **詳細** を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ 保存した検索を管理します。

## データ転送のレポート

コンソールから、[レポート]の[データ転送]をクリックすると、データ転送のサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]および[ソースグループ]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、特定の日付における処理データ、転送データ、書き込みデータが表示されます。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのデータ転送の[詳細]を表示します。
- ◆ レポートをCSVファイルとしてエクスポートします。
- ◆ 保存した検索を管理します。

---

## 容量使用率のレポート

コンソールから、[レポート]の [容量の使用状況]をクリックすると、使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドを表示できる画面が表示されます。日付範囲]および [デスティネーション]のフィルタを使用してデスティネーションを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、さまざまな日付の使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドが表示されます。
- ◆ 表から容量の使用状況の **詳細**]を表示します。
- ◆ 利用可能なすべてのデスティネーションの詳細を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ 保存した検索を管理します。

## レポートスケジュールの管理

[レポートスケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポートスケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
- **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。

---

## 8 章: MSP モニタとしての Arcserve® Business Continuity Cloud の使用

MSP および MSP ベースの組織で Arcserve® Business Continuity Cloud を使用すると、MSP モニタでフィルタを適用し、ジョブ、ログ、およびレポートを表示できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">ダッシュボード</a> .....	250
<a href="#">モニタ</a> .....	251
<a href="#">分析</a> .....	253
<a href="#">保護</a> .....	265

## ダッシュボード

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタ機能の複数の一般的なオプションと詳細を確認できるコンソールダッシュボードが表示されます。ダッシュボードから、パスワードの変更、ユーザ詳細の更新、サポートへの連絡に関する詳細の確認、重要なメッセージの表示、ログアウトが可能です。

ダッシュボードには、以下のオプションがあります。

- **Arcserve アイコン:** 左上にある Arcserve アイコンをクリックすると、コンソールのどこからでもダッシュボードに戻ることができます。
- **ヘルプ アイコン:** 右上のヘルプアイコンを使用すると、Arcserve に連絡するための複数のオプションを選択したり、コンソールのオンラインヘルプを表示したりできる **[サポート]** ページが表示されます。
- **アラートアイコン:** 右上のエクスクラメーションマークでは、考慮事項に関するコンソールからのメッセージが表示されます。メッセージは、**[クリティカル]**、**[警告]**、または **[情報]** として分類されます。メッセージを確認し、必要に応じてアクションを実行できます。詳細については、「[アラートを管理する方法](#)」を参照してください。
- **ユーザ ログインアイコン:** 右上のアイコンには、ログインしたユーザのプロファイル画像が表示されます。アイコンでは、クラウドコンソールからログアウトするオプション、およびログインしたユーザのユーザプロファイルを更新するオプションが提供されます。

[ユーザプロファイル]を使用すると、以下の2つの更新を実行できます。

- **連絡先情報の更新:** **[My Profile (マイプロファイル)]** 画面から、連絡先詳細を更新し、写真をアップロードできます。更新後、**[変更の保存]** をクリックします。
- **パスワードの変更:** 新しいパスワードを指定し、**[パスワードの更新]** をクリックします。
- **二要素認証:** 現在のパスワードを入力し、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ 二要素認証を有効にするには、**[[Enable Two Factor Authentication \(二要素認証の有効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素認証を無効にするには、**[[Disable Two Factor Authentication \(二要素認証の無効化\)](#)]** をクリックします。
  - ◆ 二要素コードを生成するには、**[[Generate Two Factor Codes \(二要素コードの生成\)](#)]** をクリックします。

## モニタ

Arcserve® Business Continuity Cloud にログインすると、モニタが複数のウィザードを使用して製品の詳細を表示するコンソールダッシュボードが表示されます。モニタから、以下のオプションを実行できます。

- **サマリの表示:** モニタに組織の顧客、使用状況、ソースのサマリが表示されます。
  - ◆ **顧客のサマリ:** 合計顧客数と、前回のバックアップのジョブ結果に基づいてステータスが [失敗] および [成功] の顧客の数が表示されます。
  - ◆ **顧客全体の使用状況のサマリ:** Cloud Direct または Cloud Hybrid のライセンス容量に従って、顧客の使用状況のサマリが表示されます。
  - ◆ **顧客全体のソースのサマリ:** ステータスに従って、すべての顧客のソースの数が表示されます。たとえば、保護済み、保護されていない、およびオフラインなどです。
- **グラフとして詳細を表示:** 主要な詳細をより詳細にモニタリングするため、モニタによって複数のフィールドのグラフィカルなビューが表示されます。例:
  - ◆ **バックアップジョブのサマリ:** [完了]、[キャンセル]、[失敗] ステータスの過去 24 時間のバックアップジョブの数が表示されます。グラフにマウスポインタを置くと、各ステータスの割合が表示されます。
  - ◆ **進行中の最新 10 件のジョブ:** 進行中の最新の 10 件のジョブが表示されます。すべての進行中ジョブに対してログの表示またはジョブのキャンセルアクションがサポートされています。[View all jobs (すべてのジョブを表示)] リンクをクリックすると、[ジョブ] 画面が表示されます。
  - ◆ **トップ 10 のソース:** 特定の条件ごとに上位 10 件のジョブが表示されます。選択された [バックアップジョブステータス]、[イベント]、[Job Durations (ジョブ期間)]、および [転送データ] がサポートされます。
  - ◆ **トップ 10 ポリシー:** 上位 10 件のポリシーが表示されます。これは [完了]、[失敗]、[キャンセル]、または [アクティブ] のジョブステータスでグループ化されます。
- **トップ 10 の顧客の表示:** MSP ユーザのトップ 10 の顧客をモニタするのに役立ちます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームの使用トレンド:** フルバックアップデータごとの Cloud Direct ボリュームの使用トレンドが表示されます。これはボリューム名でグループ化されます。

- ◆ **Cloud Hybrid ストアの使用トレンド:** Cloud Hybrid ストアの使用トレンドが表示されます。これは Cloud Hybrid ストア名でグループ化されます。
- ◆ **Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリ:** Cloud Direct ボリュームのデータ転送のサマリが表示されます。これは、[処理データ]、[転送データ]、および [書き込みデータ]に従ってグループ化されます。
- ◆ **Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンド:** Cloud Hybrid ストアのデデュープによる節約のトレンドが表示されます。これはソースデータおよびデデュープ節約サイズでグループ化されます。
- **Cloud Hybrid 詳細の表示:** Cloud Hybrid ストアの使用状況のトレンドとデデュープ節約トレンドが表示されます。詳細を表示するには、グラフにマウスポインタを置きます。
- **ウィジェットの展開または折りたたみ:** 表示されたウィジェットの上にあるアイコンを使用して、展開または折りたたみます。

---

## 分析

分析機能を使用すると、ジョブ、ログ、およびレポートを表示できます。

- [ジョブの分析](#)
- [ログの分析](#)
- [レポートの分析](#)

## ジョブの分析

表示できる詳細を含むジョブの完全なリストが表示されます。

### 主要なハイライト

- 検索バーは、選択したフィルタに従ってジョブを検索するのに役立ちます。たとえば、ステータス、ジョブの種類、日付範囲、または保護ポリシーなどです。
- 今後使用するためにも、検索を保存できます。
- **[Manage Saved Search (保存した検索の管理)]** オプションを使用すると、保存している場合、検索を管理できます。
- すべてのジョブには、**[設定]** アイコンを使用することでカスタマイズできる詳細が表示されます。ジョブはステータスに基づいて複数のカテゴリに分割されます。たとえば、進行中のジョブ、失敗したジョブ、キャンセルされたジョブ、成功したジョブです。
- ジョブの名前、ジョブのタイプ、ジョブのステータス、ソースに関連付けられたポリシー、復旧ポイントのデスティネーション、期間、ジョブの開始および終了時刻などのジョブの説明が表示されます。ソースの画面の **[ジョブ]** タブからジョブの説明を表示することもできます。
- すべてのジョブで、**ログを表示** できます。ジョブのすべての行の最後にあるドロップダウン オプションをクリックすると、そのジョブのログが表示されます。

## ログの分析

ログ タブには、保護されたノードのすべてのアクティビティログが表示されます。ログを表示して、重大度、マシンから生成されたログ、ジョブの種類、ログ コンテンツなどさまざまなフィルタを適用できます。ログをエクスポートすることもできます。メッセージ ID は、詳細なドキュメントにアクセスするためのハイパーリンクを提供します。MessageID 列のハイパーリンクをクリックすると、そのメッセージの説明と解決策が表示されます。[ログ]画面では、レプリケーション(イン)ジョブのメッセージ ID のみが表示されます。

**ログのエクスポート:** [ログ]画面から、ログを受信トレイにエクスポートできます。[ログ]画面の上部の **[エクスポート]** をクリックすると、登録されている電子メール ID にログが送信されます。受信トレイで、受信トレイで、「ログのエクスポート」という件名の Arcserve クラウドサポートからの電子メールを探し、**[Download Export (エクスポートのダウンロード)]** をクリックし、.csv ファイルとしてダウンロードします。

**ログの検索:** 利用可能なフィルタの組み合わせ、および以下のいずれかのオプションを使用するか、**[検索]** をクリックして、アクティビティログを検索できます。

- **[重大度]** タイプを選択して、選択したタイプに関連するすべてのログを表示します。
- **[ジョブの種類]** を選択します。
- **[日付範囲]** を選択します。
- **[生成元]** の場所を選択します。
- **[検索]** ボックスにメッセージの語句を入力します。

## アラートレポートの分析

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用し、アラートタイプに基づいてアラートを個別またはまとめて分析します。

アラートの一覧から、アラート名、アラートの種類、レポート対象、作成日、最終生成日、受信者などのアラートの詳細を表示できます。

---

## レポートの分析

コンソールを使用すると、[バックアップジョブ]、[復旧ジョブ]、[データ転送]、[容量の使用状況]の4種類のレポートを表示できます。検索バーを使用すると、[生成日]、[スケジュール対象]、[日付範囲]などのフィルタ条件でレポートを検索できます。[バックアップジョブ]、[復旧ジョブ]、[データ転送]、[容量の使用状況]に関するレポートを表示できます。レポートを.csvファイルとしてエクスポートすることもできます。

- [レポートの表示](#)
- [レポートスケジュールの管理](#)
- [レポートのエクスポート](#)

## レポートの表示方法

コンソールを使用すると、[レポート]画面から直接レポートを削除したり、特定の種類に移動して関連するレポートを表示したりすることができます。レポート画面から、以下のアクションを実行できます。

- **レポートの詳細の表示:** レポートのリストには、バックアップジョブレポート、復旧ジョブレポート、データ転送レポート、容量の使用状況レポートを含むすべてのレポートが表示されます。[検索]バーを使用して、表示するレポートの種類をフィルタリングできます。レポート名をクリックすると、ダッシュボードに完全な詳細を表示できます。
- **特定の種類のレポートの表示:** 1つの種類の特定のレポートのみを表示するには、利用可能ないずれかのレポートの種類に移動します。特定の種類のレポート画面から、レポートをエクスポートすることもできます。

使用できるレポートの種類:

- ◆ [バックアップジョブ](#)
- ◆ [ポリシータスク](#)
- ◆ [復旧ジョブ](#)
- ◆ [データ転送](#)
- ◆ [容量使用率](#)

## バックアップ ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の [バックアップ ジョブ]をクリックすると、すべてのバックアップ ジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[保護ポリシー]、[デステイネーション]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。複数のフィルタの使用が許可されます。

### 主要なハイライト:

- ◆ 画面から、.csv ファイルとしてレポートをエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[失敗]、[完了]、[キャンセル]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、バックアップ ジョブ ステータス、イベント、ジョブ 期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのバックアップ ジョブの **詳細**を表示します。

## ポリシー タスクのレポート

完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの詳細を表示するには、[\[分析\]](#)- [\[ポリシー タスク\]](#)に移動します。

[\[ポリシー タスク\]](#)をクリックして、完了したバックアップ ジョブのポリシー タスクの概要を表示します。[\[日付範囲\]](#)、[\[保護ポリシー\]](#)、[\[デスティネーション\]](#)、[\[組織\]](#)などの複数のフィルタを使用してソースを検索できます。[\[ポリシー タスク\]](#)ページの右上にある [保存した検索内容の管理](#) をクリックし、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト

- ◆ 画面 から、.csv ファイルとしてレポートをエクスポートできます。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの割合が表示されます。
- ◆ フィルタを適用して、イベントやジョブ期間などの上位 10 ソースを表示します。
- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、[\[完了\]](#)、[\[失敗\]](#)、[\[キャンセル\]](#)のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表から、完了したバックアップ ジョブのすべてのポリシー タスクの詳細を表示します。

## 復旧ジョブのレポート

コンソールから、[レポート]の[復旧ジョブ]をクリックすると、リストアップされたすべてのジョブのサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]、[デステイネーション]、[組織]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。[設定]のアイコンをクリックして、レポートに表示するオプションを選択します。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[キャンセル]、[完了]、[失敗]のジョブの割合が表示されます。
- ◆ 上位 10 件のソースを表示し、復旧ジョブステータス、イベント、ジョブ期間、または転送データに従ってフィルタします。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべての復旧ジョブの **詳細** ]を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ 保存した検索を管理します。

## データ転送のレポート

コンソールから、[レポート]の[データ転送]をクリックすると、データ転送のサマリを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]のフィルタを使用してソースを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、特定の日付における処理データ、転送データ、書き込みデータが表示されます。
- ◆ グラフにマウスポインタを置くと、[完了]、[失敗]、[キャンセル]のジョブの分類が表示されます。
- ◆ 表からすべてのデータ転送の[詳細]を表示します。
- ◆ レポートをCSVファイルとしてエクスポートします。
- ◆ 保存した検索を管理します。

---

## 容量使用率のレポート

コンソールから、[レポート]の [容量の使用状況]をクリックすると、使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドを表示できる画面が表示されます。[日付範囲]および [デスティネーション]のフィルタを使用してデスティネーションを検索することもできます。

### 主要なハイライト:

- ◆ グラフにマウス ポインタを置くと、さまざまな日付の使用状況のトレンドやデデュープ節約のトレンドが表示されます。
- ◆ 表から容量の使用状況の **詳細**を表示します。
- ◆ 利用可能なすべてのデスティネーションの詳細を表示します。
- ◆ レポートを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- ◆ 保存した検索を管理します。

## レポート スケジュールの管理

[レポートスケジュールの管理]を使用して、すべてのレポートのスケジュールを管理できます。[分析]-[レポート]で、[レポートスケジュールの管理]をクリックすると、すべてのレポートのリストを表示できます。画面から、以下のアクションを実行できます。

- **検索:** レポートを検索するには、検索バーでレポート名を指定するか、[スケジュール対象]および[レポートの種類]のフィルタを使用します。
- **詳細の表示:** レポートのリストによって、すべてのレポートの完全な詳細が提供されます。たとえば、レポート名、レポートの種類、レポート対象、スケジュール対象、作成者、作成日、最終生成などです。

---

## 保護

保護機能を使用すると、顧客のリストを表示できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[すべての顧客アカウントの詳細の選択および表示](#)

## 顧客アカウントを検索、表示する方法、および顧客アカウントに対して複数のアクションを実行する方法

顧客アカウント]画面には、顧客アカウントの詳細が表示されます。

**アカウントの検索：**検索バーから、顧客の名前を使用して顧客アカウントを検索します。

**アカウント詳細の表示：**顧客アカウント]画面には、利用可能なすべての顧客アカウントのリストが表示されます。各アカウントについて、顧客名、ステータス、アカウントの状態、合計ソース、製品使用状況、追加者、追加日などの詳細を表示します。

**アカウント数の表示：**ページの右上の **[合計顧客アカウント数]**には、追加された顧客アカウントの数が表示されます。

**停止中のアカウント数の表示：**ページの右上の **[停止中の合計顧客アカウント数]**には、停止中の顧客アカウントの数が表示されます。

**エンドユーザ管理者として表示：**ユーザ役割を切り替えて **[モニタ]**および **[分析]**画面を表示するには、以下のいずれかを実行します。

- 顧客アカウントの名前の横のアイコン  をクリックします。
- 顧客アカウントの **[アクション]**ドロップダウンリストから、**[エンドユーザ管理として表示]**オプションをクリックします。

---

## 9 章: Arcserve® Business Continuity Cloud の操作

このセクションには以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">復旧ポイントを復旧または固定する方法</a>	268
<a href="#">Cloud Direct の復旧ポイントを復旧する方法</a>	270
<a href="#">復旧ポイントからファイル/フォルダをダウンロードする方法</a>	273
<a href="#">Cloud Hybrid の新しい復旧サーバへの逆レプリケーションを設定する方法</a>	274
<a href="#">新しいレポートを作成する方法</a>	276
<a href="#">レポートスケジュールを編集する方法</a>	278
<a href="#">レポートをエクスポートする方法</a>	279
<a href="#">新しいレポートを作成する方法 (MSP 管理者)</a>	280
<a href="#">保存した検索を管理する方法</a>	282
<a href="#">一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法</a>	284
<a href="#">Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法</a>	287
<a href="#">Cloud Hybrid に対してグローバルアクションを実行する方法</a>	290
<a href="#">Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法</a>	292
<a href="#">Cloud Direct に対してグローバルアクションを実行する方法</a>	296

## 復旧ポイントを復旧または固定する方法

復旧ポイントを復旧または固定できます。デスティネーションの [復旧ポイント] タブから、アクションのドロップダウン オプションをクリックします。[固定] または [復旧] オプションが表示されます。

**復旧ポイントの固定:** [固定] オプションを使用すると、復旧ポイントが強調表示されたままになります。復旧ポイントのドロップダウン オプションから [固定] を選択する場合、先頭のアイコンが黄色になります。

**復旧ポイントの回復:** 回復させるには、[リストア] ウィザードで 2 つの手順を実行する必要があります。

以下の手順に従います。

1. デスティネーションの名前をクリックするか、[デスティネーション] 画面のリストに表示されるデスティネーションのドロップダウン オプションから **[View Recovery Point (復旧ポイントの表示)]** をクリックします。  
選択したデスティネーションの詳細ページが表示され、[復旧ポイント] タブに完全なリストが表示されます。
2. 復旧ポイントを選択し、詳細の最後にあるドロップダウン オプションから **[復旧]** をクリックします。  
[リストア] ウィザードが表示されます。
3. 手順 1 として、**[復旧ポイントの指定]** を実行し、**画像形式** または **デスティネーションパスを更新し、[次へ]** をクリックします。
4. 手順 2 では、**[ターゲットマシンの選択]** を使用してターゲットマシンを選択し、**[リストア]** をクリックします。

**注:** 別のマシンで [リストア] のラジオ ボタンを選択した場合にのみ、マシンが表示されます。ソースマシンでリストアするには、**[Restore on the original source machine (元のソースマシンでリストア)]** のラジオ ボタンを選択し、**[リストア]** をクリックします。

メッセージによって、復旧が正常に開始され、選択されたデスティネーションに戻ることが確認されます。

[復旧ポイントの指定] タブから、**[復旧ポイントの参照]** を実行し、Cloud Direct エージェントを使用してリストアすることもできます。**[復旧ポイントの参照]** をクリックすると、フォルダと詳細を示す **[復旧ポイントの参照]** ダイアログ ボックスが表示されます。以下のアクションを実行できます。

- **フォルダの表示/非表示パネル:** 選択に基づいて、ボリュームの完全なフォルダ構造を表示または非表示にします。
- **リストア:** リストアするには、1つのファイル/フォルダを選択し、**[Restore Using Cloud Direct Agent (Cloud Direct エージェントを使用してリストア)]**をクリックします。
- **更新:** 復旧ポイントの最新の情報を取得するには、上部の**[更新]**アイコンをクリックします。
- **ビュー:** 要件に従ってフォルダのビューをカスタマイズします。詳細の表示、またはフォルダ名の表示を目的のサイズでのみカスタマイズできます。

## Cloud Direct の復旧ポイントを復旧する方法

復旧ポイントを復旧できます。デスティネーションの [復旧ポイント] タブから、チェックボックスまたは表示された復旧ポイントを選択し、アクションのドロップダウンオプションをクリックします。[復旧] オプションが表示されます。[保護] 機能で利用可能な [ソース] または [デスティネーション] タブのいずれかからソースを見つけることができます。

### 復旧に関する考慮事項

- [復旧] オプションは、そのソースに対して少なくとも 1 つのバックアップが正常に完了した場合にのみ表示されます。
- 除外オプションは、選択した [アクティビティの種類] が Cloud Direct ファイルフォルダの場合に利用可能です。

**復旧ポイントの回復:** 回復させるには、[リストア] ウィザードで 2 つの手順を実行する必要があります。

以下の手順に従います。

1. 復旧するには、以下のオプションのいずれかを実行します。

[ソース] 画面から:

- ソースの名前をクリックします。
- または
- [ソース] のチェックボックスをオンにし、選択したソースのドロップダウンオプションから **復旧の開始** をクリックします。

[デスティネーション] 画面から:

- ソースの名前をクリックします。
- または
- [デスティネーション] 画面のリストに表示されるソースのドロップダウンオプションから **View Recovery Point (復旧ポイントの表示)** をクリックします。

選択したソースまたはデスティネーションの詳細ページが表示され、[復旧ポイント] タブに完全なリストが表示されます。

2. 復旧ポイントを選択し、詳細の最後にあるドロップダウンオプションから **復旧** をクリックします。

**考慮事項:**

- ソースがエージェントレス マシンまたは Windows イメージ バックアップ復旧ポイントである場合、**復旧ポイントの参照**]をクリックし、エージェントレス マシンの各ディスクに関連付けられた .img ファイルを選択します。
  - ディスクが静的 NTFS フォーマットのドライブの場合 ( Windows システムでは多くの場合静的 NTFS フォーマット) 、.img ファイルをダブルクリックし、ディスク上のフォルダまたはファイルを選択できます。**Cloud Direct エージェントを使用してリストア**]をクリックします。
  - .img ファイルを選択した場合、形式を選択して .img ファイルを変換します。Mac、Windows、および Linux が vhdx としてリストアできます。Linux 64 ビットは vmdk としてリストアすることもできます。
- フォルダまたは SQL バックアップ タスク ポイントを選択した場合、**復旧ポイントの参照**]をクリックして、復旧するファイルまたはフォルダに移動し、**Cloud Direct エージェントを使用してリストア**]をクリックします。
- **復旧ポイントの参照**]をクリックした場合、140 MB 未満のファイルを右クリックし、**ダウンロード**]をクリックできます。このオプションはブラウザのダウンロードのものであるため、元の ACL およびタイムスタンプは保持されません。
- ファイル バックアップを選択した場合、デスティネーションパスを入力するだけです。

[リストア]ウィザードが表示されます。

3. 手順 1 として、**復旧ポイントの指定**]を実行し、**画像形式**または**デスティネーションパスを更新**し、**次へ**]をクリックします。

#### 考慮事項:

- デスティネーションパスが復旧先のデスティネーションシステムの有効なパスであるかどうかを確認します。
  - Windows デスティネーションについては、フォルダを選択した場合、ローカルドライブまたは UNC パスを入力できます。.img またはファイルを選択しており、Windows システムに復旧する場合は、ローカルドライブパスを入力します。
  - Linux または Mac デスティネーションの場合、Linux パスを入力できます。
- フォルダが選択された場合、CD エージェントによって、選択されたフォルダのコンテンツが入力したパスに復旧されます。選択したフォルダを

同じ名前でリストアする場合、デスティネーションパスの最後にフォルダ名を入力します。

- 手順 2 では、**[ターゲットマシンの選択]**を使用してターゲットマシンを選択し、**[リストア]**をクリックします。

**考慮事項:**

- Windows ソースまたは SQL バックアップからファイル/フォルダをリストアする場合、デスティネーションとして Windows ソースを選択します。
- Mac または Linux ソースからファイル/フォルダをリストアする場合、デスティネーションとして Mac または Linux を選択してください。

**注:** 別のマシンで **[リストア]**のチェックボックスをオンにした場合にのみ、マシンが表示されます。ソースマシンでリストアするには、**[Restore on the original source machine (元のソースマシンでリストア)]**のチェックボックスをオンにし、**[リストア]**をクリックします。

メッセージによって、復旧が正常に開始され、選択されたデスティネーションに戻ることが確認されます。

## 復旧ポイントからファイル/フォルダをダウンロードする方法

復旧ポイントからファイルまたはフォルダをダウンロードできます。

サポートされているソース ノード: Windows/Linux エージェント、Windows/Linux エージェントレス、CIFS/NFS ソース ノード。

以下の手順に従います。

1. **[Modify Destination ( デステイネーションの変更) ]**画面で、**[復旧ポイント]** タブをクリックします。  
ソースのリストが表示されます。
2. ソースを展開します。  
復旧ポイントのリストが表示されます。
3. 復旧ポイントのドロップダウン矢印から、**[ファイル/フォルダのダウンロード]** をクリックします。  
セッションが暗号化されている場合は、**[Protected Password ( 保護されているパスワード) ]**ダイアログ ボックスが表示されます。次は、手順 4 を実行する必要があります。  
セッションが暗号化されていない場合、**[復旧ポイントの参照]**画面が表示されます。次は、手順 5 に移動できます。
4. ( オプション) **[Protected Password ( 保護されているパスワード) ]**ダイアログ ボックスから **[パスワード]**を入力し、**[参照]**をクリックします。  
**[復旧ポイントの参照]**画面が表示されます。
5. **[復旧ポイントの参照]**画面から、以下の手順を実行します。
  - a. 左のペインのファイル ツリーを展開/クリックします。
  - b. 表示された復旧ポイントのリストから目的のファイル/フォルダのチェックボックスをオンにします。
  - c. **[ダウンロード]**をクリックします。

確認 メッセージによって、ダウンロードのステータスが通知されます。

復旧ポイントのファイルまたはフォルダがダウンロードされました。

**注:** SQL Server ファイル/フォルダのダウンロードはサポートされていません。

# Cloud Hybrid の新しい復旧サーバへの逆レプリケーションを設定する方法

**重要:** データを Cloud Hybrid からオンプレミス RPS サーバにレプリケートする場合、レプリケーション先としてソース コンソール/RPS サーバを選択しないでください。データの破損を回避するには、新しいコンソール/RPS サーバを使用することをお勧めします。

Arcserve® Business Continuity Cloud のポリシーの追加には、3 つの主要な手順があります。

以下の手順に従います。

1. 新しいサーバを設定し、Arcserve UDP コンソールおよび RPS サーバをインストールします。

#### Notes:

- ◆ Cloud Hybrid および RPS への接続を確立するのに役立つ Arcserve UDP コンソールおよびエージェントポートがオープンであり、インターネットからアクセス可能であることを確認します。
  - ◆ デフォルトポート: 8014/8015
  - ◆ セキュリティを改善するため、HTTPS プロトコルを使用してインストールすることをお勧めします。
2. デデュプリケーションデータストアを作成し、暗号化を有効化して、パフォーマンスを改善するためにデデュプリケーションブロックサイズを 16KB に設定します。  
**注:** デデュプリケーションおよび暗号化用にデータストアを有効化します。
  3. ローカルの管理者以外のユーザと共有レプリケーションプランを作成します。  
詳細については、[リンク](#)を参照してください。
  4. Arcserve クラウドからの認証情報を使用して、Arcserve クラウド コンソール にログインします。
  5. [保護]- [ポリシー]に移動し、リバースレプリケーションを実行する必要があるノードを選択して、対応するポリシーを変更します。
  6. 3 つ目のタブ [デステイネーション]をクリックします。ここではポリシーを詳細に定義する必要があります。

リモートで管理された RPS へのレプリケートのタスクを追加するには、ポリシーを設定する必要があります。

7. 以下の手順を実行し、[リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート]を追加します。

- ◆ [リモートで管理された RPS タスクからのレプリケート]を閉じるには、バツ印のアイコンをクリックします。
- ◆ [リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート]を追加するには、ハイパーリンクアイコンをクリックします。
- ◆ [リモートで管理された RPS タスクへのレプリケート]をクリックします。
- ◆ タブ **What to protect ( 保護対象 )** で、目的のアクティビティを選択します。

8. タブ **Where to protect ( 保護する場所 )** で、共有プランを取得するためのリモート UDP コンソール アクセス情報を指定します。

9. ( オプション ) タブ **When to protect ( 保護するタイミング )** で、レプリケーション スケジュールを追加します。

10. [ポリシーの保存]をクリックします。

ポリシーの更新が保存されます。

11. 以下のいずれかのオプションを使用して、クラウド コンソールでレプリケーション ジョブを実行します。

**注:** オプション A をお勧めします。

- ◆ オプション A: レプリケーション ジョブを手動でトリガし、[保護]-[ソース]に移動して、[レプリケーションの開始]アクションをクリックします。
- ◆ オプション B: 手順 9 で指定された時間範囲の開始時刻にスケジュールされたレプリケーション ジョブが実行されるのを待機します。
- ◆ オプション C: レプリケーション スケジュールが指定されていない場合、バックアップ ジョブがトリガされるのを待機します。

12. Arcserve UDP コンソールで、必要に応じて BMR、VM 復旧、IVM などのリストア ジョブを実行します。

## 新しいレポートを作成する方法

[レポートの作成]を使用すると、新しいレポートを追加できます。特定の種類のレポート画面を表示しながらでも、新しいレポートを直接作成できます。レポートは、電子メールIDと、追加した場合は追加受信者にリンクとして送信されます。[レポートの作成]ウィザードは、新しいレポートを作成するのに必要です。[レポート]画面で[レポートの作成]をクリックすると、ウィザードが表示されます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面から、[レポート]タブをクリックします。  
[レポート]画面が表示されます。
2. [レポート]画面から、[レポートの作成]をクリックします。  
[レポートの作成]ウィザードが表示されます。
3. [レポートの作成]ウィザードから、[レポートの種類]からオプションのいずれかを選択します。
4. [レポート名]フィールドに新しいレポートの一意の名前を入力します。
5. いずれかのオプションを選択します。
  - ◆ **すべてのソースのレポート:** 利用可能なすべてのソースからレポートを生成できます。
  - ◆ **選択したソースグループのレポート:** 選択したソースグループのみからレポートを生成できます。このオプションを選択する場合、ドロップダウンオプションから[ソースグループ]も選択して[追加]をクリックします。アクションを繰り返し、複数のグループを選択します。
6. (オプション)他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールIDを入力し、[追加]をクリックします。
7. いずれかのオプションを選択し、レポートを作成します。
  - ◆ **レポートを今すぐ生成:** 今すぐレポートを作成して電子メールで送信できます。このオプションを選択する場合、[レポートの日付範囲の選択]のドロップダウンオプションから期間を選択します。日付範囲は当日(過去24時間)、過去7日間、または過去1か月間です。カスタムの範囲を使用して日付範囲を選択することもできます。
  - ◆ **スケジュールの設定:** 後でレポートを作成および電子メールで送信するように計画できます。スケジュールするように選択する場合、[配信時間]と[周期]を指定します。選択内容に基づいて、レポートは電子メールで毎日、毎週、または毎月共有されます。

すべてのフィールドが適切に入力されると、[作成]ボタンが有効化されます。

8. [作成]をクリックします。

確認ダイアログによって、レポートの生成が成功したことが通知されます。

レポートの生成が成功すると、[レポート]画面にレポートが一覧表示され、ログインユーザと他の受信者(追加した場合)に電子メールが送信されます。レポート画面またはそれぞれのレポートの種類画面から、すべてのレポートを表示できます。

## レポート スケジュールを編集する方法

[レポート スケジュールの管理]を使用して、レポート スケジュールを編集できます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面に移動し、[レポート]- [レポート スケジュールの管理]をクリックします。  
[レポート スケジュールの管理]画面にレポートのリストが表示されます。
2. リストからレポートの名前をクリックするか、レポートのドロップダウン オプションから **編集** をクリックします。  
[レポート設定の編集]画面が表示されます。
3. 画面から、いずれかのオプションを選択してソースを選択します。
  - ◆ **すべてのソースのレポート:** 利用可能なすべてのソースからレポートを編集できます。
  - ◆ **選択したソースグループのレポート:** 選択したソースグループのみからレポートを変更できます。このオプションを選択する場合、ドロップダウン オプションから [ソースグループ]も選択して **追加** をクリックします。アクションを繰り返し、複数のグループを選択します。
4. 他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールIDを入力し、**追加** をクリックします。
5. 配信時間や周期などのオプションを使用してスケジュールを変更します。選択内容に基づいて、レポートは電子メールで毎日、毎週、または毎月共有されます。
6. **変更の保存** をクリックします。  
レポートが変更されます。

## レポートをエクスポートする方法

特定のレポート画面から [エクスポート] オプションを使用して、すべてのレポートの種類をエクスポートできます。

以下の手順に従います。

1. [分析]- [レポート] から、いずれかのレポートの種類、バックアップ ジョブ、復旧 ジョブ、データ転送、または容量の使用状況に移動します。  
選択したレポートの種類が表示されます。
2. 画面から、[レポートを別名でエクスポート] をクリックし、[CSV] をクリックします。  
レポートが登録済みの電子メール ID に送信されたことを示す確認メッセージが表示されます。
3. 登録済みの電子メール ID から、Arcserve サポートからの電子メールを開き [Download Export (エクスポートのダウンロード)] をクリックします。  
レポートが .csv ファイルとしてダウンロードされます。

## 新しいレポートを作成する方法(MSP 管理者)

[レポートの作成]を使用すると、新しいレポートを追加できます。特定の種類のレポート画面を表示しながらでも、新しいレポートを直接作成できます。レポートは、電子メールIDと、追加した場合は追加受信者にリンクとして送信されます。[レポートの作成]ウィザードは、新しいレポートを作成するのに必要です。[レポート]画面で[レポートの作成]をクリックすると、ウィザードが表示されます。

以下の手順に従います。

1. [分析]画面から、[レポート]タブをクリックします。  
[レポート]画面が表示されます。
2. [レポート]画面から、[レポートの作成]をクリックします。  
[レポートの作成]ウィザードが表示されます。
3. [レポートの作成]ウィザードから、[レポートの種類]からレポートオプションのいずれかを選択します。
4. [レポート名]フィールドに新しいレポートの一意の名前を入力します。
5. いずれかのオプションを選択します。
  - ◆ **すべての組織のレポート:** 利用可能なすべての組織からレポートを生成できます。
  - ◆ **選択した組織のレポート:** 選択した組織のみからレポートを生成できます。このオプションを選択する場合、ドロップダウンオプションから [組織]も選択して [追加]をクリックします。アクションを繰り返し、複数の組織を選択します。
6. (オプション)他のユーザとレポートを共有するには、1人以上の受信者の電子メールIDを入力し、[追加]をクリックします。
7. いずれかのオプションを選択し、レポートを作成します。
  - ◆ **レポートを今すぐ生成:** 今すぐレポートを作成して電子メールで送信できます。このオプションを選択する場合、[レポートの日付範囲の選択]のドロップダウンオプションから期間を選択します。日付範囲は当日(過去24時間)、過去7日間、または過去1か月間です。カスタムの範囲を使用して日付範囲を選択することもできます。
  - ◆ **スケジュールの設定:** 後でレポートを作成および電子メールで送信するように計画できます。スケジュールするように選択する場合、[配信時間]と[周期]を指定します。選択内容に基づいて、レポートは電子メールで毎日、毎週、または毎月共有されます。

すべてのフィールドが適切に入力されると、[作成]ボタンが有効化されます。

8. [作成]をクリックします。

確認ダイアログによって、レポートの生成が成功したことが通知されます。

レポートの生成が成功すると、[レポート]画面にレポートが一覧表示され、ログインユーザと他の受信者(追加した場合)に電子メールが送信されます。レポート画面またはそれぞれのレポートの種類画面から、すべてのレポートを表示できます。

## 保存した検索を管理する方法

検索を実行して**保存**します。後で保存した検索に適用するアクションを実行します。どのようにすればよいでしょうか。

Arcserve® Business Continuity Cloud を使用すると、保存した検索を管理できます。この機能を使用して、保存した検索に対して複数のアクションを実行して更新することもできますし、この機能を保存した検索に役立てることもできます。

以下の手順に従います。

1. アイコン  のドロップダウン オプションから、**[Manage Saved Searches ( 保存した検索の管理) ]** をクリックします。

その機能のすべての保存した検索の名前が表示されている **[Manage Saved Searches ( 保存した検索の管理) ]** ダイアログ ボックスが表示されます。

2. **[ソース]** で、保存した検索のリストから、1 つ以上のフィールドで更新を管理および実行する名前を選択します。

**注:** アクティブなフィルタは編集または削除できません。

- **保存した検索名:** 名前を変更します。 **[デフォルトのテーブルビューにする]** のチェックボックスをオンにすると、組織にログインしたときに検索名が自動的に検索に適用されます。
  - **メッセージに含まれる文字列:** 以前の説明を置き換えます。
  - **保護ステータス:** 保護のステータスを選択します: **[保護されています]** または **[保護されていません]**
  - **接続ステータス:** 接続のステータスを選択します: **[オンライン]** または **[オフライン]**
  - **バックアップステータス:** 必要なステータスを選択します。
  - **OS:** Windows、Linux、または Mac からオペレーティング システムを選択します。
  - **ソースグループ:** 保存した検索のソースグループを選択します。
  - **保護ポリシー:** 保存した検索のポリシーを選択します。
3. **[ソース]** 以外のタブで、保存した検索のリストから、1 つ以上のフィールドで更新を管理および実行する名前を選択します。

**注:** アクティブなフィルタは編集または削除できません。

- **保存した検索名:** 名前を変更します。[デフォルトのテーブルビューにする]のチェックボックスをオンにすると、組織にログインしたときに検索名が自動的に検索に適用されます。
  - **検索文字列:** 既存の文字列を置き換えます。
  - **日付範囲:** 日付範囲を選択します。
  - **保護ポリシー:** 保存した検索のポリシーを選択します。
  - **デステイネーション:** デステイネーションを選択します。
  - **ソースグループ:** 保存した検索のソースグループを選択します。
4. 選択した保存済みの検索を更新するには、**保存**]をクリックします。
  5. (オプション) 保存した検索を削除するには、**削除**]をクリックします。

## 一般的な個別およびグローバルアクションを実行する方法

複数の個別のアクションやグローバルアクションを実行できます。たとえば、ポリシーの変更または削除、ユーザの削除、パスワードのリセット、およびユーザへの確認メールの再送信などです。役割に応じて、アクションは変化する場合があります。このトピックでは、機能に対していくつかの個別のおよびグローバルアクションを実行する方法を説明し、関連する前提条件の理解を助けます。

### ソース

[保護]- [ソース]から、役割に従って変化する複数の個別のアクションを実行できます。

#### 復旧の開始

クリックすると、ソースの復旧が開始されます。

前提条件: [復旧の開始]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- 少なくとも1つの復旧ポイントが利用可能であること

#### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。このアクションは、個別およびグローバルの両方として実行されます。

前提条件: 削除の実行後、ソースが強調表示されます。[削除]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- アクティブなレプリケーション(イン)ジョブがないこと

#### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。このアクションは、個別およびグローバルの両方として実行されます。

前提条件: [削除]オプションは、ソースがすでに削除されている場合にのみ表示されます。

#### レプリケーション(イン)のキャンセル

クリックすると、レプリケーション(イン)がキャンセルされます。このアクションは、個別およびグローバルの両方として実行されます。

前提条件: [レプリケーション(イン)のキャンセル]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Hybrid ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと

- レプリケーション(イン)ジョブが実行されていること

#### ポリシー

[保護]- [ポリシー]から、ユーザの役割に従って変化するグローバルアクションを実行できます。

#### 変更

クリックすると、Cloud Direct ポリシーが更新されます。この個別のアクションは、一度に1つのポリシーにのみ適用されます。

前提条件: [変更]オプションは、ポリシーが展開されていない場合にのみ表示されます。

#### 削除

このオプションは、個別およびグローバルアクションの両方として使用されます。グローバルアクションとしては、複数のポリシーを同時に削除できます。個別のアクションとしては、一度に1つのポリシーのみを削除できます。クリックすると、1つまたはすべての選択したポリシーが削除されます。

グローバルアクションとして使用する場合の前提条件: [削除]オプションは、選択したすべてのポリシーが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- ポリシーが展開されていないこと
- 惨事復旧ポリシーの場合、保護済みソースの復旧されたリソースがプロビジョニング解除済み状態であること

個別のアクションとして使用する場合の前提条件: [削除]オプションは、選択したポリシーが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- ポリシーが展開されていないこと
- 惨事復旧ポリシーの場合、保護済みソースの復旧されたリソースがプロビジョニング解除済み状態であること

#### ユーザ アカウント

[設定]- [ユーザ アカウント]から、ユーザの役割に従って変化する複数のグローバルアクションを実行できます。

#### パスワードのリセット

クリックすると、選択したすべてのユーザのパスワードがリセットされます。

前提条件: [パスワードのリセット]オプションは、以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- 状態が検証済みと表示されていること
- 独自のログインユーザ ID が選択されていないこと

#### 登録電子メールの再送信

クリックすると、選択したユーザに登録電子メールが再送信されます。

前提条件: [Resend Enrollment Email (登録電子メールの再送信)]オプションは、選択したユーザが未検証状態である場合にのみ表示されます。

### 削除

このオプションは、個別およびグローバルアクションの両方として使用されます。グローバルアクションとしては、複数のポリシーを同時に削除できます。個別のアクションとしては、一度に1つのポリシーのみを削除できます。クリックすると、1人またはすべての選択したユーザが削除されます。

前提条件: [削除]オプションは、ログインユーザを選択していない場合にのみ表示されます。

### ソースグループ

[設定]- [ソースグループ]から、役割に従って変化する個別のアクションを実行できます。

### グループの削除

このオプションは、個別およびグローバルアクションの両方として使用されます。クリックすると、1人以上のユーザが削除されます。

## Cloud Hybrid に対して個別のアクションを実行する方法

Cloud Hybrid を使用する場合、個別のグローバルアクションを実行できます。役割に応じて、アクションは変化する場合があります。このトピックでは、機能に対して個別のアクションを実行する方法を説明し、関連する前提条件の理解を助けます。

### ソース

[保護]- [ソース]から、役割に従って変化する複数の個別のアクションを実行できます。

#### 復旧の開始

クリックすると、ソースの復旧が開始されます。

前提条件： [復旧の開始]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- 少なくとも1つの復旧ポイントが利用可能であること

#### Replication の開始

クリックすると、レプリケーションが開始されます。

前提条件： [レプリケーションの開始]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Hybrid ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- タスク- リモートで管理された RPS タスクへのリモートを含むポリシーが割り当てられていること

#### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

前提条件： 削除の実行後、ソースが強調表示されます。 [削除]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- アクティブなレプリケーション(イン)ジョブがないこと

#### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

前提条件： [削除]オプションは、ソースがすでに削除されている場合にのみ表示されます。

#### レプリケーション(イン)のキャンセル

クリックすると、レプリケーション(イン)がキャンセルされます。

前提条件: [レプリケーション(イン)のキャンセル]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Hybrid ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- レプリケーション(イン)ジョブが実行されていること

#### レプリケーション(アウト)のキャンセル

クリックすると、レプリケーション(アウト)がキャンセルされます。

前提条件: [レプリケーション(アウト)のキャンセル]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Hybrid ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- レプリケーション(イン)ジョブが実行中または待機中であること

#### デスティネーション

[保護]- [デスティネーション]から、役割に従って変化する複数の個別のアクションを実行できます。

#### 編集

クリックすると、Hybrid ストアが変更されます。

前提条件: [編集]オプションは、Hybrid ストアがまだ削除されていない場合にのみ表示されます。

#### 復旧ポイントの表示

クリックすると、Hybrid ストアの復旧ポイントが表示されます。

前提条件: [復旧ポイントの表示]オプションは、Hybrid ストアがまだ削除されていない場合にのみ表示されます。

#### 削除

クリックすると、Hybrid ストアが削除されます。

前提条件: [削除]オプションは、Hybrid ストアが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- ポリシーで使用されていないこと
- アクティブなレプリケーションジョブがないこと
- アクティブなマージジョブがないこと

#### ポリシー

[保護]- [ポリシー]から、役割に従って変化する複数の個別のアクションを実行できます。

#### 変更

クリックすると、Cloud Hybrid ポリシーが更新されます。

前提条件： [変更] オプションは、ポリシーが展開されていない場合にのみ表示されます。

### 削除

クリックすると、Cloud Hybrid ポリシーが削除されます。

前提条件： [削除] オプションは、ポリシーが展開されていない場合にのみ表示されます。

### ジョブ

[分析]- [ジョブ] から、役割に従って変化する複数の個別のアクションを実行できます。

#### ジョブのキャンセル

クリックすると、レプリケーション(イン) がキャンセルされます。

前提条件： [ジョブのキャンセル] オプションは、レプリケーション(イン) ジョブが実行中の場合にのみ、選択対象に対して表示されます。

#### ログの表示

クリックすると、ジョブ ログが表示されます。

## Cloud Hybrid に対してグローバル アクションを実行する方法

Cloud Hybrid を使用する場合、複数のグローバル アクションを実行できます。役割に応じて、アクションは変化する場合があります。このトピックでは、機能に対してグローバル アクションを実行する方法を説明し、関連する前提条件の理解を助けます。

### ソース

[保護]- [ソース]から、役割に従って変化する複数のグローバル アクションを実行できます。

### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

前提条件：削除の実行後、ソースが強調表示されます。[削除]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- アクティブなレプリケーション(イン)ジョブがないこと

### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

前提条件：[削除]オプションは、ソースがすでに削除されている場合にのみ表示されます。

### レプリケーション(イン)のキャンセル

クリックすると、レプリケーション(イン)がキャンセルされます。

前提条件：[レプリケーション(イン)のキャンセル]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Hybrid ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- レプリケーション(イン)ジョブが実行されていること

### デステイネーション

[保護]- [デステイネーション]から、ユーザの役割に従って変化するグローバル アクションを実行できます。

### 削除

クリックすると、Hybrid ストアが削除されます。

前提条件：[削除]オプションは、Hybrid ストアが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- ポリシーで使用されていないこと
- アクティブなレプリケーションジョブがないこと
- アクティブなマージジョブがないこと

#### ポリシー

[保護]- [ポリシー]から、ユーザの役割に従って変化するグローバルアクションを実行できます。

#### 削除

クリックすると、Cloud Hybrid ポリシーが削除されます。

前提条件： [削除]オプションは、ポリシーが展開されていない場合にのみ表示されます。

#### ジョブ

[分析]- [ジョブ]から、ユーザの役割に従って変化するグローバルアクションを実行できます。

#### ジョブのキャンセル

クリックすると、レプリケーション(イン)がキャンセルされます。

前提条件： [ジョブのキャンセル]オプションは、レプリケーション(イン)ジョブが実行中の場合にのみ、選択対象に対して表示されます。

## Cloud Direct に対して個別のアクションを実行する方法

Cloud Direct を使用する場合、個別のグローバルアクションを実行できます。役割に応じて、アクションは変化する場合があります。このトピックでは、機能に対して個別のアクションを実行する方法を説明し、関連する前提条件の理解を助けます。たとえば、ソース、ソースグループ、復旧されたリソース、デステイネーション、およびジョブに対する個別のアクションです。

### ソース

[保護]- [ソース]から、ユーザの役割に従って変化する複数の個別のアクションを実行できます。

#### エージェントのアップグレード

ソースの Cloud Direct レプリケーション エージェントをアップグレードできます。

前提条件: [エージェントのアップグレード]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- アップグレードが利用可能であること

#### バックアップの開始

ソースのバックアップを開始できます。

前提条件: [バックアップの開始]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

まだ削除されていないこと

- ポリシーが利用可能であること
- 復旧されたリソースが実行されていないこと
- データをリストアする進行中のリカバリジョブがアクティブではないこと

#### バックアップのキャンセル

ソースのバックアップを停止できます。

前提条件: [バックアップのキャンセル]オプションは、ソースがまだ削除されていない場合にのみ表示されます。

#### 復旧の開始

ソースの復旧を開始できます。

前提条件: [復旧の開始]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- 少なくとも1つの復旧ポイントが利用可能であること

## 復旧のキャンセル

ソースの復旧を停止できます。

前提条件： [復旧のキャンセル] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- アクティブなリカバリジョブがソースに対して利用可能であること

## 削除

リストから選択したソースを削除できます。

前提条件： [削除] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

まだ削除されていないこと

- バックアップジョブがアクティブではないこと
- 復旧されたリソースが実行されていないこと
- データを復旧する進行中のリカバリジョブがアクティブではないこと

## 削除

コンソールから選択したソースを削除できます。

前提条件： [削除] オプションは、ソースがすでに削除されている場合にのみ表示されます。

## プロビジョニング

ソースのプロビジョニングを実行できます。

前提条件： [プロビジョニング] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- 復旧されたリソースが利用可能であること
- 復旧されたリソースが実行されていないこと
- まだ削除されていないこと
- 少なくとも1つの復旧ポイントが利用可能であること

## ポリシーの割り当て

ソースにポリシーを割り当てることができます。 [ポリシーの割り当て] のダイアログボックスから、割り当てるポリシーを選択し、 **確認** をクリックします。

前提条件： [ポリシーの割り当て] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- エージェントベースのソースが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- 進行中の復旧ジョブがデータを復旧している場合、ソースがポリシーに存在しないこと

## ポリシーの削除

ソースからポリシーを削除できます。

前提条件: [ポリシーの削除]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- エージェントベースのソースが選択されていること
- すでに削除されていないこと
- ソースにポリシーが存在すること
- ソースがリストアされていないこと

### ソースグループ

[設定]- [ソースグループ]から、役割に従って変化する個別のアクションを実行できます。

#### グループの削除

ユーザを削除できます。

前提条件: [削除]オプションは、選択したユーザがログインユーザではない場合にのみ表示されます。

### 復旧されたリソース

[保護]- [復旧されたリソース]から、役割に従って変化する個別のアクションを実行できます。

#### プロビジョニング

復旧ポイントから復旧済み VM を起動できます。

前提条件: 復旧された VM がプロビジョニング解除されていること、またはプロビジョニング失敗ステータスであること。

#### 開始

復旧済み VM の電源をオンにできます。

前提条件: 復旧された VM が停止していること。

#### 停止

復旧済み VM の電源をオフにできます。

前提条件: 復旧された VM が起動しており、VM 上で統合サービスが実行されていること。

#### ハード停止

復旧済み VM をオフにできます。

前提条件: 復旧された VM が起動していること。

#### 再起動

復旧済み VM を再度起動できます。

前提条件: 以前復旧された VM が起動していること。

### プロビジョニング解除

復旧された VM で使用されているリソースを解放できます。

前提条件：復旧された VM が停止していること。

### リモート コンソール

復旧された VM に接続できます。

前提条件：以前復旧された VM が起動していること。

### デステイネーション

[保護]- [デステイネーション]から、役割に従って変化する個別にアクションを実行できます。

#### 編集

デステイネーション設定を変更できます。

#### 削除

リストからデステイネーションを削除できます。

前提条件：ポリシーで使用されておらず、そのデステイネーションでジョブが実行されていない場合のみ削除できます。

#### 復旧ポイントの表示

利用可能な復旧ポイントのリストを表示できます。

### ジョブ

[分析]- [ジョブ]から、役割に従って変化する個別のアクションを実行できます。

#### ジョブのキャンセル

ジョブをキャンセルできます。

前提条件：ジョブが実行中であることstatus

#### ログ

バックアップ/復旧/ポリシーの展開ジョブで利用可能なジョブのログを表示できます。

## Cloud Direct に対してグローバル アクションを実行する方法

Cloud Direct を使用する場合、複数のグローバル アクションを実行できます。たとえば、エージェントのアップグレード、バックアップの開始、復旧のキャンセル、削除などです。役割に応じて、アクションは変化する場合があります。このトピックでは、機能に対してグローバル アクションを実行する方法を説明し、関連する前提条件の理解を助けます。たとえば、ソース、ソースグループ、復旧されたリソース、デステイネーション、およびジョブに対するグローバル アクションです。

### ソース

[保護]- [ソース]から、役割に従って変化する複数のグローバル アクションを実行できます。

#### エージェントのアップグレード

クリックすると、選択したすべてのソースの cloud direct レプリケーション エージェントがアップグレードされます。

前提条件: [エージェントのアップグレード]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- アップグレードが利用可能であること

#### バックアップの開始

クリックすると、選択したすべてのソースのバックアップが開始されます。

前提条件: [バックアップの開始]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- ポリシーが割り当てられていること
- 復旧されたリソースが実行されていないこと
- データをリストアする進行中のリカバリジョブがアクティブではないこと

#### バックアップのキャンセル

クリックすると、選択したすべてのソースのバックアップがキャンセルされます。

前提条件: [バックアップのキャンセル]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと

#### 復旧のキャンセル

クリックすると、選択したすべてのソースの復旧がキャンセルされます。

前提条件： [復旧のキャンセル] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- まだ削除されていないこと
- アクティブな復旧ジョブがソースに対して利用可能であること

### 削除

クリックすると、表示されたリストから選択したソースが削除されます。削除されると、ソースが強調表示され、バックアップは続行できませんが、データの復旧は引き続きサポートできます。

Cloud Direct ソースが選択された場合の前提条件： [削除] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- 復旧ジョブがアクティブではないこと
- バックアップジョブがアクティブではないこと
- 復旧されたリソースが実行されていないこと

Cloud Hybrid ソースが選択された場合の前提条件： [削除] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- まだ削除されていないこと
- レプリケーション(イン)ジョブがアクティブではないこと

### 削除

クリックすると、コンソールから選択したソースが削除されます。

前提条件： [削除] オプションは、選択したソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- ソースがすでに削除されていること

### プロビジョニング

クリックすると、選択したすべてのソースがプロビジョニングされます。

前提条件： [プロビジョニング] オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- 惨事復旧ポリシーで利用可能であること
- 復旧されたリソースが利用可能であること
- 復旧されたリソースが実行されていないこと
- まだ削除されていないこと
- 少なくとも1つの復旧ポイントが利用可能であること

### ポリシーの割り当て

クリックすると、選択したすべてのソースに同じポリシーが割り当てられます。  
[ポリシーの割り当て]のダイアログ ボックスから、割り当てるポリシーを選択し、**確認**をクリックします。

前提条件: [ポリシーの割り当て]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- エージェントベースのソースが選択されていること
- まだ削除されていないこと

#### ポリシーの削除

クリックすると、選択したすべてのソースからポリシーが同時に削除されます。

前提条件: [ポリシーの削除]オプションは、ソースが以下の前提条件を満たしている場合にのみ表示されます。

- Cloud Direct ソースのみが選択されていること
- エージェントベースのソースが選択されていること
- すでに削除されていること
- ポリシーが割り当てられていること

#### 復旧されたリソース

[保護]- [復旧されたリソース]から、役割に従って変化するグローバル アクションを実行できます。

#### プロビジョニング

復旧ポイントから選択した復旧済み VM を起動できます。

前提条件: 復旧された VM がプロビジョニング解除されていること、またはプロビジョニング失敗ステータスであること。

#### 開始

選択した復旧済み VM の電源をオンにできます。

前提条件: 復旧された VM が停止していること。

#### 停止

選択した復旧済み VM の電源をオフにできます。

前提条件: 復旧された VM が起動しており、VM 上で統合サービスが実行されていること。

#### ハード停止

選択した復旧済み VM をオフにできます。

前提条件: 復旧された VM が起動していること。

#### 再起動

選択された復旧済み VM を再度起動できます。

前提条件：以前復旧されたVMが起動していること。

#### プロビジョニング解除

復旧されたVMで使用されているリソースを解放できます。

前提条件：復旧されたVMが停止していること。

#### リモートコンソール

復旧されたVMに接続できます。

前提条件：以前復旧されたVMが起動していること。

#### デスティネーション

[保護]- [デスティネーション]から、役割に従って変化するグローバルアクションを実行できます。

#### 削除

リストから選択したデスティネーションを削除できます。

前提条件：ポリシーで使用されておらず、選択したデスティネーションでジョブが実行されていない場合のみ削除できます。

#### ジョブ

[分析]- [ジョブ]から、役割に従って変化するグローバルアクションを実行できます。

#### ジョブのキャンセル

選択したジョブをキャンセルできます。

前提条件：ジョブが実行中であることstatus



---

## 10 章: FAQ

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">アラートを管理する方法</a> .....	302
<a href="#">新しいアカウントを作成する方法</a> .....	306
<a href="#">パスワードを変更およびリセットする方法</a> .....	307
<a href="#">検索の保存方法</a> .....	308
<a href="#">保持設定を使用する方法</a> .....	309
<a href="#">スロットル スケジュールを追加する方法</a> .....	310
<a href="#">組織を一時停止する方法</a> .....	311
<a href="#">組織を有効化する方法</a> .....	313
<a href="#">ポリシーを有効化または無効化する方法</a> .....	315

## アラートを管理する方法

[アラート]アイコンは、コンソールの上部のパネルにあります。アイコンから、利用可能なアラートの数を表示できます。アイコンをクリックすると、数、メッセージ、アクション オプションと共に 3 つのカテゴリが表示されます。カテゴリを閉じるには、再度 [アラート]アイコンをクリックします。

アラートは役割に基づいて表示されます。

- **Direct 顧客:** 独自の組織のすべてのアラートを表示します。
- **MSP 管理者:** すべての組織のアラートを表示します。
- **MSP アカウント管理者:** 管理者が管理する組織のアラートを表示します。
- **エンドユーザー管理者:** ジョブおよびポリシー関連するすべてのアラートを表示します。

アラートは以下の 3 つの種類に分類されます。

- **クリティカル:** すぐにアクションが必要な情報を示します。
- **警告:** アクションが必要な情報を示します。
- **情報:** 一般的なメッセージを示します。たとえば、タスクの完了メッセージです。

### 表示されたアラートメッセージに対して可能なアクション

カテゴリ下にあるメッセージに対して集合的または個別のアクションを実行できます。

- **すべてを承認:** カテゴリのメッセージに対する集合的なアクションについて、[すべてを承認]をクリックしてそのカテゴリからすべてのメッセージを削除します。
- **ログの表示:** 個別のアクションについて、情報として分類されたメッセージ対してのみ、このオプションが利用可能です。メッセージのドロップダウン オプションから、[ログの表示]をクリックすると、[ログ]画面のメッセージの完全な詳細を表示できます。
- **承認:** 個別のアクションについて、3 つすべてのカテゴリのメッセージでこのオプションが利用可能です。メッセージのドロップダウン オプションから、[承認]をクリックすると、[アラート]リストからメッセージを削除できます。アラートは 24 時間後に自動的に承認され、過去 24 時間のアラートのみを表示できます。

次の手順: [アラートのカテゴリとタイプの表示](#)

## アラートのカテゴリとタイプの表示

アラートは大きく6つのカテゴリに分類されます。さらに、すべてのカテゴリは複数のアラートタイプに分類されます。アラートごとに、重大度に基づいて、タイプ固有のアクションが実行されます。

### アラートカテゴリ、タイプ、および説明

カテゴリ	種類	Severity	説明	アクション (ログの表示)
ジョブ	バックアップの成功	情報	{SOURCE_NAME} のバックアップは正常に完了しました。	○
	失敗したバックアップ	クリティカル	スケジュールされたバックアップの時点で、ソースは切断、電源オフ、または復旧されたりソースとして実行されている場合があります。	x
	バックアップに失敗しました	クリティカル	バックアップが完了できなかった場合	○
	バックアップに関する警告	警告	{SOURCE_NAME} バックアップが完了したが警告がある場合。	○
	バックアップエラー	クリティカル	{SOURCE_NAME} バックアップが完了したがエラーがある場合。	○
	復旧の成功	情報	{SOURCE_NAME} の復旧は正常に完了しました。	○
	復旧に失敗しました	クリティカル	復旧が完了できなかった場合	○
	復旧エラー	クリティカル	{SOURCE_NAME} の復旧が完了したがエラーがある場合。	○
	復旧警告	警告	{SOURCE_NAME} の復旧が完了したが警告がある場合。	○
ポリシー	ポリシーの割り当ての成功	情報	[SOURCE_NAME] へのポリシーの割り当てが成功した場合。	○

	ポリシーの割り当てに失敗しました	クリティカル	{SOURCE_NAME} へのポリシーの適用の試行が失敗した場合。	○
	ポリシーの割り当て警告	警告	{SOURCE_NAME} へのポリシーの適用の試行が完了したが警告がある場合。	○
トライアル(T)	Cloud Direct のトライアルが開始されました	情報	デフォルトアラート組織の登録後すぐのデフォルトアラート	x
	Cloud Direct のトライアル	警告	このアラートは、トライアルの有効期限が切れるまでの残り日数を表示します。	x
	Cloud Direct のトライアルの有効期限	クリティカル	トライアルの有効期限が切れた場合	x
	Cloud Hybrid のトライアルが開始されました	情報	Cloud Hybrid のトライアルがアクティブ化された場合	x
	Cloud Hybrid のトライアル	警告	Cloud Hybrid のトライアルの有効期限が切れるまでの残り日数を表示します	x
	Cloud Hybrid のトライアルの有効期限	クリティカル	Cloud Hybrid のトライアルの有効期限が切れた場合	x
ストレージ Cloud Direct	ストレージ容量に近づいています	警告	Cloud Direct の使用量が容量の {x%} です	x
	ストレージ容量を超過しました	クリティカル	Cloud Direct のストレージ容量に達しました	x
ストレージ Cloud Hybrid	ストレージ容量に近づいています	警告	Cloud Hybrid の使用量が容量の {x%} です	x
	ストレージ容量を超過しました	クリティカル	Cloud Hybrid のストレージ容量に達しました	x
環境設定	Cloud Direct の DR 設定	情報	組織には DRaaS 機能があります。仮想プライベートクラウドをセットアップするには、サポートチームにお問い合わせください。	x
		警告	DR がアクティブ化され、DR 設定が完了していない場合、次の	x

			メッセージが表示されます: 惨事復旧環境が完全に設定されていません。仮想プライベートクラウドをセットアップするには、Arcserve サポートチームにお問い合わせください。	
	Cloud Hybrid の設定	警告	CH がアクティブ化され、CH 設定が完了していない場合、次のメッセージが表示されます: Cloud Hybrid 環境が完全に設定されていません。Cloud Hybrid データストアをセットアップするには、Arcserve サポートチームにお問い合わせください。	x
ライセンス登録	Cloud Direct ライセンス	警告	このアラートには、Cloud Direct ライセンスの有効期限が切れるまでの日数(すなわち、あと30日)が表示されます。	x
	Cloud Hybrid ライセンス	警告	このアラートには、Cloud Hybrid ライセンスの有効期限が切れるまでの日数(すなわち、あと30日)が表示されます。	x
一時停止	会社	クリティカル	アカウントが一時停止され、バックアップが無効化されました。詳細については、プロバイダにお問い合わせください。	x

## 新しいアカウントを作成する方法

Arcserve® Business Continuity Cloud のログインページから、新しいアカウントを作成できます。新しいアカウントは Arcserve® Cloud の任意の役割に所属できます。

**注:** 新しい組織またはアカウントが作成されると、デフォルトポリシーおよびデステーションがデフォルトで作成されます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve® Business Continuity Cloud ログイン画面を開きます。
2. ログイン画面から、**[アカウントをお持ちではありませんか? 今すぐサインアップ]**をクリックします。
3. 個人情報の **[登録]**ペインから、以下の手順を実行します。
  - a. 個人の詳細を入力します。
  - b. 該当する場合は、**[MSP/再販業者]**のチェックボックスをオンにします。
  - c. **[agree to Terms of Service ( サービス利用規約に同意 )]**のチェックボックスをオンにします。
  - d. **[次へ]**をクリックします。

**[地域の選択]**ペインが表示されます。
4. バックアップデータを保存する場所を選択し、**[次へ]**をクリックします。

確認メッセージが表示されます。
5. 登録時に指定した **[電子メールID]**から、Arcserve® Business Continuity Cloud からの電子メールを開きます。
6. アクティベーションリンクをクリックし、指示に従って登録を完了します。

後で [パスワードを変更またはリセット](#)できます。

## パスワードを変更およびリセットする方法

アカウントを作成すると、コンソールからパスワードを変更したり、ログイン画面からパスワードをリセットしたりできます。

### パスワードの変更

以下の手順に従います。

1. コンソールにログインし、右上のユーザ ログインアイコンに移動し、[ユーザ プロファイル]に移動します。
2. [My Profile (マイプロフィール)]画面で、[パスワードの変更]で **現在のパスワード**を指定し、**新しいパスワード**を2回入力して、[パスワードの更新]をクリックします。

パスワードが更新されます。

### パスワードのリセット

Arcserve クラウド コンソール ログイン画面 からパスワードをリセットできます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve® Business Continuity Cloud ログイン画面を開きます。
2. ログイン画面から、**パスワードを忘れた場合ここをクリック**をクリックします。
3. [パスワードのリセット]ダイアログ ボックスから、登録済みの **電子メール**を入力し、**リセット**をクリックします。

登録済みの電子メールIDに電子メールが送信されます。

4. 受信トレイから、パスワードリセット電子メールの手順に従い、新しいパスワードを設定して、Arcserve クラウド コンソールにログインします。

**注:** 電子メールのリンクを使用してパスワードをリセットするまで、覚えている場合は引き続き古いパスワードを使用できます。

## 検索の保存方法

頻繁に検索を保存すると、後で大規模なデータを扱う場合に役立ちます。Arcserve® Business Continuity Cloud は、すべての結果と共に検索を保存するのに役立つだけでなく、保存した検索を管理することもできます。

Arcserve® Business Continuity Cloud では、何度の検索する労力が削減されます。コンソールから、一意の名前で検索結果を保存できます。検索を実行すると、画面に検索結果が表示され、**[次の検索結果:]**オプションの**[検索]**ボックスの下に検索語が表示されます。検索語を**[すべてクリア]**するか、**[検索の保存]**を選択できます。

保存するには、**[検索の保存]**をクリックします。**[検索の保存]**のダイアログボックスが表示されます。**[検索名の保存]**ボックスに一意の名前を入力し、**[検索の保存]**をクリックします。アクションが成功したことを確認するメッセージが表示されます。常に**[検索の保存]**の前に保存した検索名が表示されます。名前をクリックすると、後で検索を繰り返す必要なく結果を表示できます。

## 保持設定を使用する方法

保存設定を使用すると、ボリューム内に保存されている復旧ポイントに関連付けられたデータを保持する期間を指定できます。指定された期間が経過すると、復旧ポイントと関連するデータが削除されます。

保存設定には、現在の期間が含まれます。たとえば、**2 か月間保存**とすると、今月の月次復旧ポイントと、先月の月次復旧ポイントが保持されます。

**注：**長期間多くの復旧ポイントを保持すると、復旧ポイント間のデータ変更率によってはクラウドストレージの消費量が増大する場合があります。

## スロットル スケジュールを追加する方法

スロットル スケジュールでは、クラウドへのデータ転送のスループット速度を制御できます。これにより、クラウドへの転送を行うサーバのリソース使用量を抑制することができます。このスケジュールは、営業時間中にサーバのパフォーマンスに影響を与えたくない場合に役立ちます。クラウド スロットル スケジュールへのデータ転送では1日当たり4つの時間帯を追加できます。各時間帯に、kbits/秒という単位で値を指定できます。この値に基づいてクラウドへのデータ転送のスループットが制御されます。有効な値は 300 kbits から始まります。

データ転送ジョブが指定された時刻を越えて実行される場合、スロットル制限は指定されているそれぞれの時間帯に従って調節されます。たとえば、データ転送のスロットル制限を、午前 8:00 から午後 8:00 までは 500 kbits、午後 8:00 から午後 10:00 までは 2500 kbits と定義したとします。データ転送ジョブが午後 7:00 に開始し、それが3時間続くとした場合、午後 7:00 から午後 8:00 までのスロットル制限は 500 kbits になり、午後 8:00 から午後 10:00 までは 2500 kbits になります。

クラウドへの仮想スタンバイを含むバックアップタスクに複数のソースノードが存在する場合、ノードによってスロットル制限が均等に分割されます。たとえば、データ転送のスロットル制限を 500 kbits と定義し、プランに2つのソースノードが存在するとします。ノードがクラウドへ同時にデータを転送する場合、スロットル制限はすべてのノードで 250 kbits です。一方のノードからの転送が完了すると、もう一方の実行中のノードのスロットル制限が 500 kbits に変わります。

ユーザがスロットル スケジュールを定義しない場合、クラウドへのデータ転送は最大速度で実行されます。

以下の手順に従います。

1. スケジュール オプション画面から、スロットル スケジュールの **追加** をクリックします。
2. 以下の操作を実行します。
  - ◆ **[スループット制限]**を入力します。最小値は 300 です。
  - ◆ **実行スケジュール**について、すべてを選択するか、特定の日の名前を選択します。
  - ◆ **開始時間** および **終了時間** を入力します。

## 組織を一時停止する方法

MSP 管理者または MSP アカウント管理者は、顧客アカウントを一時停止できます。一時停止するには、[アクション]ドロップダウンリストから [有効化]をクリックします。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[組織の一時停止](#)

## 組織の一時停止

MSP 管理者または MSP アカウント管理者は、顧客アカウントを一時停止できます。

顧客アカウントを一時停止すると、以下の効果が得られます。

顧客組織では、

- 組織に存在するすべてのポリシーが無効化されます。
- ポリシーの作成、編集、および削除はできません。
- 以下のバックアップジョブは動作しません。
  - ◆ オンデマンドバックアップ
  - ◆ スケジュールされたジョブ

バックアップジョブが進行中の状態の場合、ジョブステータスはキャンセルと表示され、失敗状態の顧客アカウントにアラートが生成されます。

- 復旧ジョブが復元されます。
- アカウントが一時停止されたことを示すアラートが顧客アカウントに対してトリガされます。
- 顧客管理者、MSP 管理者(エンドユーザ管理者として表示)、または MSP アカウント管理者(エンドユーザ管理者として表示)は、以下を作成、編集、および削除できます。
  - ◆ デステイネーション
  - ◆ ソース
  - ◆ グループ
  - ◆ フィルタ
  - ◆ ユーザ
  - ◆ レポート
  - ◆ アラート

## 組織を有効化する方法

MSP 管理者または MSP アカウント管理者は、一時停止されている顧客アカウントを再開できます。再開するには、[アクション]ドロップダウン リストから [有効化] をクリックします。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[組織の有効化](#)

## 組織の有効化

MSP 管理者または MSP アカウント管理者は、一時停止されている顧客アカウントを再開できます。

顧客アカウントを有効化すると、以下の効果が得られます。

顧客組織では、

- すべての操作が通常どおり続行されます。
- 組織に存在するすべてのポリシーが有効化されます。
- バックアップジョブが通常どおり実行されます。
- 復旧ジョブが通常どおり実行されます。
- 顧客管理者、MSP 管理者(エンドユーザ管理者として表示)、または MSP アカウント管理者(エンドユーザ管理者として表示)は、以下を作成、編集、および削除できます。
  - ◆ ポリシー
  - ◆ デステイネーション
  - ◆ ソース
  - ◆ グループ
  - ◆ フィルタ
  - ◆ ユーザ
  - ◆ レポート
  - ◆ アラート

## ポリシーを有効化または無効化する方法

このセクションでは、[ポリシー]画面を使用したポリシーの有効化または無効化について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[ポリシーの有効化](#)

[ポリシーの無効化](#)

## ポリシーの有効化

ポリシーを有効にするには、[ポリシー]画面の [アクション]ドロップダウン リストから [有効化]をクリックします。

ポリシーを有効にする前に、以下の点を考慮してください。

- MSP 管理者は、顧客管理者/MSP 管理者/MSP アカウント管理者によって無効化された顧客アカウントのポリシーを有効にします。
- MSP アカウント管理者は、割り当てられた顧客アカウントのポリシーを有効にします。
- MSP 管理者は、顧客管理者/MSP 管理者/MSP アカウント管理者によって無効化されたポリシーを有効にします。
- 顧客管理者は、同じユーザまたはそれぞれの組織の他の顧客管理者によって無効化されたポリシーを有効にします。
- Diret 管理者は、同じユーザまたはそれぞれの組織の他のDiret 管理者によって無効化されたポリシーを有効にします。

## ポリシーの無効化

ポリシーを無効にするには、[ポリシー]画面の[アクション]ドロップダウンリストから[無効化]をクリックします。

ポリシーを無効にする前に、以下の点を考慮してください。

- 顧客管理者は、それぞれの組織のポリシーを無効にします。
- Direct 管理者は、それぞれの組織のポリシーを無効にします。
- MSP 管理者は、すべての顧客アカウントのポリシーを無効にします。
- MSP アカウント管理者は、割り当てられた顧客アカウントのポリシーを無効にします。

